

京都府埋蔵文化財調査報告書

令和元（平成 31）年度

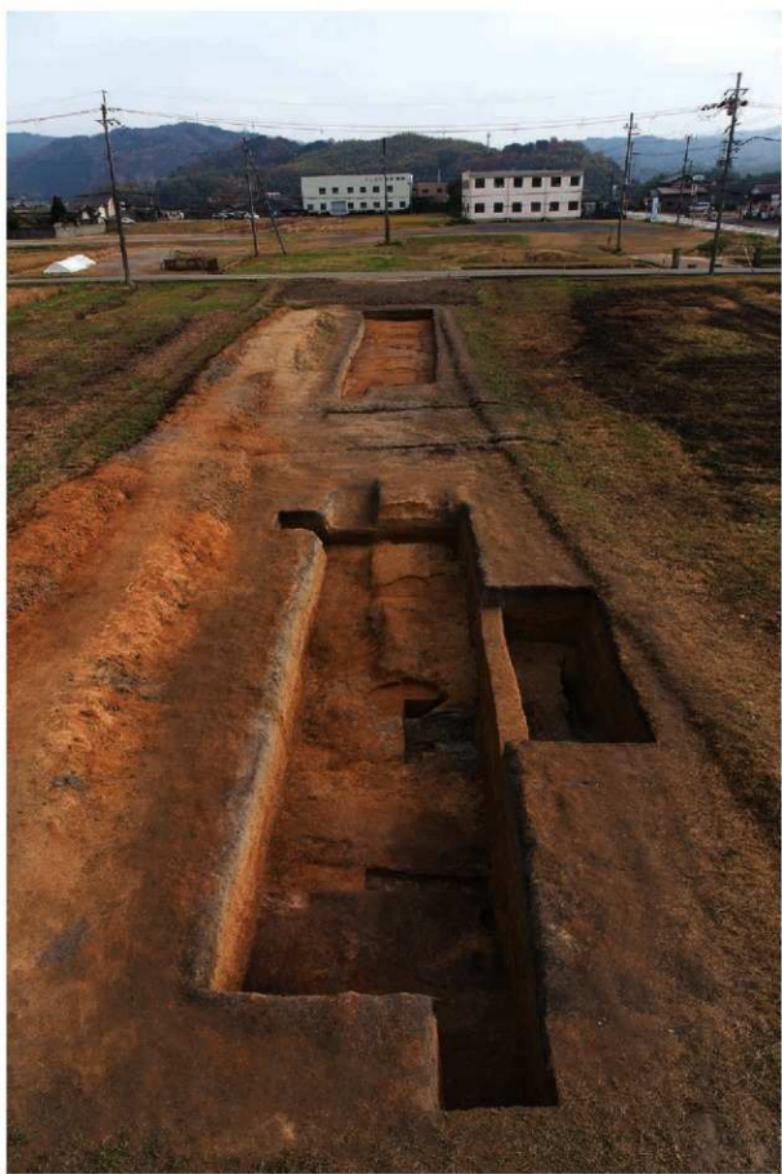
京 都 府 教 育 委 員 会

京都府埋蔵文化財調査報告書

令和元（平成 31）年度

京 都 府 教 育 委 員 会

卷頭図版 恽仁宮跡第100次



掘立柱塀 S A 19001・0902 検出状況（西から）

序

京都府内では、令和元（平成 31）年に 301 件の発掘調査が行われ、各地で重要な発見が相次ぎました。

京丹後市史跡銚子山古墳では、くびれ部の発掘調査によって、これまで不明だった前方部の形状を示す成果が得られました。亀岡市犬飼遺跡では、鎌倉時代から南北朝時代の大規模な堀を伴う平地城館跡が調査されました。京都市平安京右京九条二坊四町跡では平安京の外壁である羅城の遺構が見つかり、羅城門周辺以外の地点にも羅城が築かれていた可能性が高まりました。木津川市史跡恭仁宮跡の発掘調査では、朝堂院北西隅柱穴の位置が確定し、これまでの成果と合わせて朝堂院北・西辺の規模が明らかになりました。

平成 31 年 4 月には、地域における文化財の計画的な保存・活用の促進や、地方における文化財保護行政の推進力の強化を図ることを目的に改正された文化財保護法が施行されました。この改正を受けて、本府では、府内における文化財の適切な保存・活用が一層推進されることを目的とした、「京都府文化財保存活用大綱」を策定しました。

本書は、令和元（平成 31）年度に京都府教育委員会が実施した発掘調査の概要をまとめたものです。この報告書の刊行を含め、発掘調査等に御協力いただいた多くの方々と関係機関に厚くお礼申し上げますとともに、本書が府の歴史や文化を御理解いただく上での一助となり、文化財の保存と活用に役立つこととなれば幸いです。

令和 2 年 3 月

京都府教育委員会

教育長 橋本 幸三

凡 例

- 1 本書は平成 30・31 年度、令和元年度に京都府教育委員会が実施した埋蔵文化財調査関係の報告書である。
- 2 本書に収めた調査対象遺跡、執筆担当者は下表のとおりである。

	調査対象遺跡	執筆担当者
1	恭仁宮跡	中居和志
2	府営農業農村整備事業関係遺跡	北山大熙
3	国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡	川崎雄一郎
4	平成 30・31 年、令和元年府内遺跡試掘・確認調査	古川 匠・中居和志・岡田健吾・北山大熙
5	平成 30・31 年、令和元年における埋蔵文化財の発掘	奈良康正・岡田健吾

- 3 本書の執筆は各担当者が行い、文責についてはそれぞれ文末に記した。編集は各担当者が行ったものを北山がまとめた。
- 4 本書に掲載した地図は、国土地理院発行の地形図である。周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲は京都府・市町村共同ポータルサイト (<http://g-kyoto.gis.pref.kyoto.lg.jp/g-kyoto/top/index.asp>) に掲載する文化財 G I S データを基に作成した。国土座標・方位のないものは、上位が北である。
- 5 本書で使用している測地系は、恭仁宮跡第 100 次は測量法改正（2001 年 6 月 12 日改正、2002 年 4 月 1 日施行）前の平面直角座標系 VI である。府営農業農村整備事業関係遺跡（川北遺跡第 3 次調査）及び国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡（余部遺跡第 16 次調査・法貴峠古墳群第 1 次調査）は新座標（国土座標 2000、平面直角座標系第 VI 座標系）である。
- 6 本書に使用した遺構番号の前には S A（築地・塚・柱列）、S B（掘立柱建物）、S D（溝）、S K（土坑）、S X（その他）等の記号を付した。
- 7 本書で使用した方位記号は、矢羽根記号は座標北を表し、線書き記号で磁北を表している。
- 8 本書に掲載している当課撮影の写真等の転載については、これを許可する。ただし、使用した場合は出典を明記すること。

目 次

1	恭仁宮跡令和元（平成 31）年度保存活用調査報告（恭仁宮跡第 100 次調査）	1
2	府営農業農村整備事業関係遺跡令和元（平成 31）年度発掘調査報告	19
	〔1〕川北遺跡（第 3 次調査）	20
3	国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡令和元（平成 31）年度発掘調査報告	25
	〔1〕余部遺跡（第 16 次調査）・法貴岬古墳群（第 1 次調査）	27
4	平成 30・31 年、令和元年府内遺跡試掘・確認調査等報告	29
	〔1〕佐伯遺跡試掘・確認調査（第 11 次調査）	31
	〔2〕矢田遺跡試掘・確認調査（第 3 次調査）	38
	〔3〕乾谷大崩遺跡試掘・確認調査（第 2 次調査）	44
	〔4〕中海道遺跡試掘・確認調査（第 76 次調査）	45
	〔5〕出雲遺跡試掘・確認調査（第 21 次調査）	47
	〔6〕白石浜遺跡試掘・確認調査（第 2 次調査）	48
5	平成 30・31 年、令和元年における埋蔵文化財の発掘	49
	〔1〕平成 30・31 年、令和元年の動向	49
	〔2〕府内の主な発掘調査	51

CONTENTS

1	Overview of the excavation of the Kuni Palace site (from April 2019 to March 2020)	1
2	Overview of the excavation of the sites caused by pref-managed improvement in agricultural infrastructure for raising an agriculture manager (from April 2019 to March 2020)	19
3	Overview of the excavation of the sites caused by government-managed urgent farmland reorganization maintenance project "Kameoka center district" (from April 2019 to March 2020)	25
4	Overview of the trial excavation (from 2018 to 2020)	29
5	General view of excavation in Kyoto prefecture (from 2018 to 2020)	49

挿図目次

泰仁宮跡（第100次調査）	
第1図 恒仁宮跡位置図	1
第2図 調査地位置図	3
第3図 恒仁宮跡主要遺構図	4
第4図 令和元年度調査区基本層序	7
第5図 I R09 I-s調査区平面図、S P19101・SD 19105平面土層断面図	8
第6図 I R09 I-s東壁・南壁・拡張区南壁断面図	9
第7図 I R01 I-s調査区平面図・断面図	12
第8図 I R01 I-s調査区瓦集中地点平面図・断面図	12
第9図 S D13101平面図、I R02 C-s調査区南壁断 面図	13
第10図 I M18 J-s調査区平面図・断面図	14
第11図 I M18 Q-s調査区平面図・断面図	15
第12図 出土遺物実測図	16
第13図 I R09 I-s調査区遺構変遷想定図	17
第14図 I R09 I-s・I R01 I-s調査区周辺遺構検出 状況図	17
府営農業農村整備事業関係遺跡	
[川北遺跡（第3次調査）]	
第15図 川北遺跡の位置と主要な周辺遺跡	21
第16図 調査位置図	22
第17図 第1・2トレンチ平面・土層断面図	23
第18図 第1・2トレンチ出土遺物実測図	24
国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」	
関係遺跡	
[余部遺跡（第16次調査）・法貴岬古墳群（第1次 調査）]	
第19図 調査対象遺跡及び周辺	26
第20図 余部遺跡第16次調査地点	28
第21図 法貴岬20号墳位置図及び墳丘測量図	28
府内遺跡試掘・確認調査等	
第22図 平成31年、令和元年試掘・確認調査等位置図	29
[佐伯遺跡試掘・確認調査（第11次調査）]	
第23図 佐伯遺跡位置図	31
第24図 佐伯遺跡調査区位置図	32
第25図 調査区1平面・断面図	33
第26図 調査区2・3・4断面図	33
第27図 調査区5の位置と南壁断面図	33
第28図 調査区6の位置、各地点の平面・断面図	34
第29図 調査区6出土遺物実測図	35
第30図 調査区8の位置と西壁断面図	36
第31図 調査区9の位置とSD901断面図	36
第32図 佐伯・天川遺跡出土繩文土器	37
第33図 佐伯遺跡時期別遺構検出地点	38
[矢田遺跡試掘・確認調査（第3次調査）]	
第34図 矢田遺跡位置図	39
第35図 矢田遺跡トレンチ配置図	39
第36図 第1・2トレンチ西壁断面図	40
第37図 第1・2トレンチ平面	41
第38図 S P21遺物出土状況	42
第39図 矢田遺跡出土遺物実測図	43
[乾谷大崩遺跡試掘・確認調査（第2次調査）]	
第40図 乾谷大崩遺跡位置図	44
第41図 トレンチ位置図、土層柱状図	45
[中海道遺跡試掘・確認調査（第76次調査）]	
第42図 中海道遺跡位置図	45
第43図 中海道遺跡トレンチ位置図	46
第44図 中海道遺跡平面図・柱状図	46
[出雲遺跡試掘・確認調査（第21次調査）]	
第45図 出雲遺跡位置図	47
第46図 出雲遺跡トレンチ位置図	47
[白石浜遺跡試掘・確認調査（第2次調査）]	
第47図 白石浜遺跡位置図	48
第48図 白石浜遺跡トレンチ位置図	48

付表目次

府営農業農村整備事業関係遺跡	
付表1 令和元（平成31）年度調査遺跡一覧	19
国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」	
関係遺跡	
付表2 令和元（平成31）年度調査遺跡一覧	26
府内遺跡試掘・確認調査等	
付表3 平成31年、令和元年試掘・確認調査等一覧	30
平成30・31年、令和元年における埋蔵文化財の発掘	
付表4 平成30年度埋蔵文化財専門職員及び埋蔵文化財包蔵地数市町村別一覧	56
付表5 平成30年度埋蔵文化財関係届出・通知件数市町村別一覧	57
付表6 土木工事等による発掘届出・通知件数一覧	58
付表7 埋蔵文化財発掘調査届出・報告件数一覧	58
付表8 埋蔵文化財認定件数一覧	58
付表9 令和元（平成31）年度埋蔵文化財国庫補助事業一覧	59
付表10 令和元（平成31）年度（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター委託事業一覧	60
付表11 平成30年度発掘調査報告書等刊行状況	62
付表12 平成30年度埋蔵文化財発掘調査届出・報告一覧	65

卷頭図版目次

恭仁宮跡（第100次調査）	
卷頭図版	
掘立柱跡 S A19001・0902検出状況（西から）	

図版目次

恭仁宮跡（第100次調査）	
図版第1 (1) I R09 I-s調査区全景（北から）	
(2) S A19001・0902検出状況（南西から）	
図版第2 (1) I R09 I-s調査区南壁土層断面（北から）	
(2) I R09 I-s調査区東壁土層断面（南西から）	
図版第3 (1) S D19105土層断面（南西から）	
(2) S P19101土層断面（南西から）	
図版第4 (1) I R01 I-s調査区全景（西から）	
(2) I R01 I-s調査区南壁土層断面（北から）	
図版第5 (1) I R01 I-s調査区東壁土層断面（南西から）	
(2) I R01 I-s調査区西壁土層断面（東から）	
図版第6 (1) I M18 J-s調査区全景（北から）	
(2) I M18 J-s調査区東壁土層断面（西から）	
図版第7 (1) I M18Q-s調査区全景（北から）	
(2) I M18Q-s調査区東壁土層断面（西から）	

府営農業農村整備事業関係遺跡

【川北遺跡（第3次調査）】

図版第8 (1) 調査地遠景（西から）	
(2) 第1トレンチ全景（東から）	
(3) 第2トレンチ全景（東から）	

府内遺跡試掘・確認調査等

【佐伯遺跡試掘・確認調査（第11次調査）】

図版第9 (1) 調査区1全景（南東から）	
(2) 調査区6遺物検出状況（北東から）	
(3) 調査区6出土遺物	

【矢田遺跡試掘・確認調査（第3次調査）】

- 図版第10 （1）第1トレーンチ全景（南から）
（2）S P21遺物検出状況（北東から）
（3）S P21出土遺物

くにきゅうせき 1 恭仁宮跡令和元（平成 31）年度保存活用調査報告 (恭仁宮跡第 100 次調査)

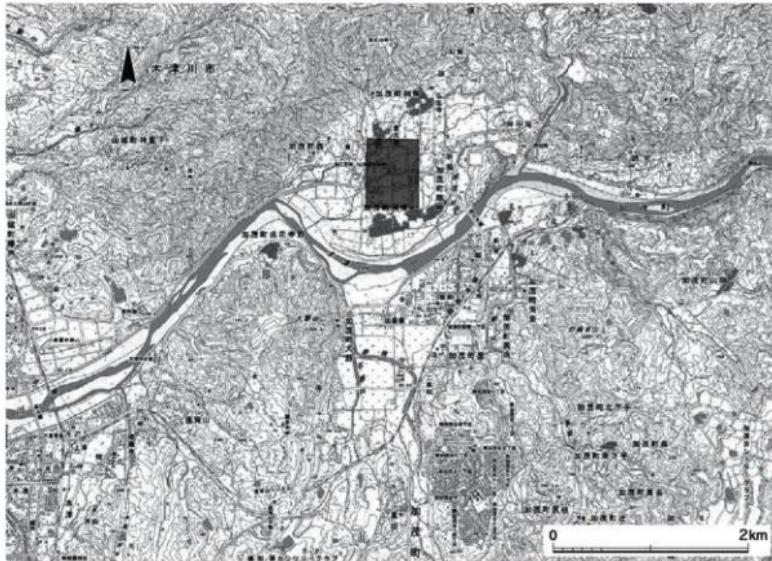
1 はじめに

恭仁京は、聖武天皇により天平 12（740）年から同 16（744）年まで足かけ 5 年にわたって營まれた古代宮都である。京都府教育委員会では、近隣に及び始めた諸開発に備え、恭仁宮跡の実態解明を目的として、昭和 48 年度から継続的に調査を実施し、平成 8 年度には恭仁宮跡の四至を確定した。

また恭仁宮跡は、昭和 32 年に史跡山城国分寺跡として指定され、平成 19 年に史跡恭仁宮跡（山城国分寺跡）と名称変更・追加指定され、平成 20 年、22 年、27 年、29 年、30 年、31 年にさらに史跡範囲の追加指定が行われた。

平成 9 年度からは、恭仁宮跡の保存及び活用を図るため、宮内のより重要な地区についての詳細な内容把握を目的として、保存活用調査に着手した。内裏地区では、大極殿の北方に 2 つの区画施設が設けられていることを確認し、平成 16 年度には、併設された内裏東、西地区それぞれの範囲を確定するに至った。平成 24 年度からは、中心部の内部構造の解明を目的とした 10 箇年計画を策定し、調査を進めている。

本報告では、令和元（平成 31）年度に実施した第 100 次調査の報告を行う。



第 1 図 恭仁宮跡位置図 (1/50,000)

《調査組織・令和元年度》

調査主体 京都府教育委員会

調査責任者 京都府教育庁指導部文化財保護課長 森下 衛

専門家会議

委員長 上原真人（京都大学名誉教授）

副委員長 井上和人（公益財団法人東洋文庫客員研究員）

委員 玉田芳英（独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所都城発掘調査部長兼考古第一研究室長）

箱崎和久（独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所都城発掘調査部遺構研究室長）

調査指導 文化庁、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所

技術協力 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所都城発掘調査部史料研究室、遺跡・調査技術研究室

調査担当者 京都府教育庁指導部文化財保護課記念物担当副課長 石崎善久

副主査 古川 匠

副主査 中居和志

主任 関田健吾

調査事務局 京都府立山城郷土資料館

調査協力 木津川市、木津川市教育委員会、京都府山城教育局、公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所

現地調査及び整理作業に当たっては、多数の方々に多大な協力を得た。心より感謝したい。

2 調査経過

京都府教育委員会による恭仁宮跡の調査は昭和 48 年度から実施しており、今年度で 46 年目を迎えた。昭和 48 年度の分布調査及び文献調査を経て、昭和 49 年度からは発掘調査に着手した。昭和 50 年度から昭和 61 年度は、宮内の重要施設を確認するため宮跡中根域において発掘調査を実施し、大極殿院や朝堂院の区画施設、内裏に関連すると想定される建物や塀等の遺構を確認した。

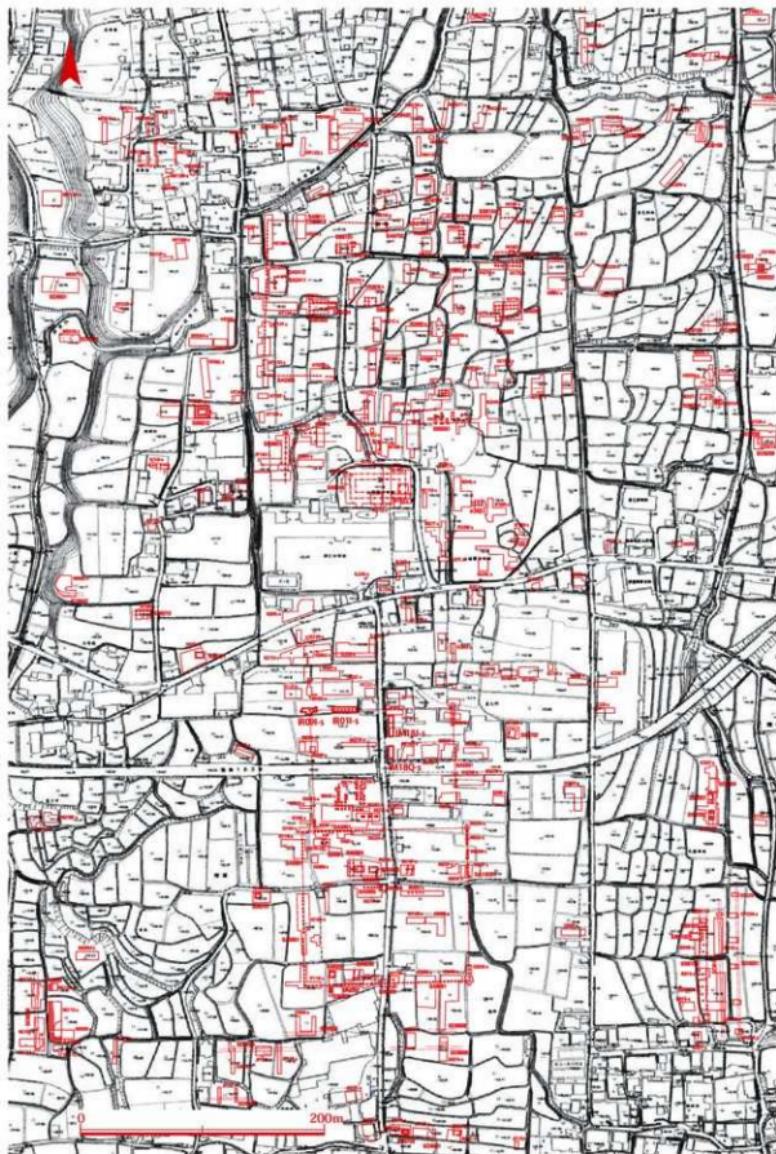
平成 4 年度から平成 8 年度に実施した調査によって、宮の四至が南北約 750 m、東西約 560 m であることが確定した。その後も、恭仁宮跡の保存活用を検討する上で、必要な資料を得ることを目的として継続的に調査を進めている。宮跡主要地区での調査成果の概要は下記のとおりである。

内裏地区

平成 9 年度の調査により、大極殿院の北方に、東西に並ぶ 2 つの区画施設の存在を確認した。他の宮都では、内裏が存在する位置にあるこれらの区画施設については、現時点ではその性格等の把握が十分ではないため、暫定的に両者を含め「内裏地区」とし、両者を区別する場合には、「内裏西地区」、「内裏東地区」とそれぞれ呼称している。



第2図 調査地位置図（トーンは調査地、1/4,000）



第3図 恭仁宮跡主要遺構図 (1/4,000)

「内裏西地区」は、東西約 97.9 m（約 330 尺）、南北約 127.4 m（約 430 尺）の範囲を掘立柱塀で区画するものである。区画内部の建物配置は、中心建物と思われる四面庇の東西棟建物 S B 5303 のほかに 2 棟の存在を確認している。

「内裏東地区」は、中心建物と見られる 2 棟の東西棟庇付き建物が南北に並び、東・西・南の 3 面を築地、北面を掘立柱塀で区画する。東西約 109.3 m（約 370 尺）、南北約 138.9 m（約 470 尺）の規模に復元することができる。

大極殿院地区

大極殿院地区では、昭和 51 年度に大極殿基壇 S B 5100 を調査し、13 基の礎石痕跡と階段等を検出し大極殿の規模が確定した。また、昭和 53 年度には、大極殿の東方で南北に 2 列に並んだ柱列 S A 5301・5302 を検出し、回廊構築に伴う足場杭列と判断した。しかし、これら以外には、大極殿院地区に係る施設（築地回廊や後殿の配置等）についての手がかりは得られていない。

こうした中、平成 15 年度から大極殿院回廊の解明を目的とした新たな調査に着手し、平成 17 年度の大極殿院北東部における調査において、掘立柱建物 S B 0501 を検出した。南北 4 間、東西 10 間の総柱建物で、南北 11.34 m、東西 42.75 m を測る。この建物は、恭仁宮の仮設的な建物あるいは山城国分寺の僧坊などの関連施設と想定している。また、平成 18・19 年度に大極殿の西北側で実施した調査で、大極殿院築地回廊の西北隅付近を確認した。両年度の調査では、大極殿院西面築地回廊に係る礎石抜取り痕跡を計 10 基 9 間分、北面築地回廊に係る同様の礎石抜取り痕跡を 5 基検出した。さらには北・西面の外側を廻る雨落溝を検出し、西北隅部を明らかにすることができた。この成果により、大極殿院の東西幅は 480 尺（141.5 m）で設計されたと判断でき、北面築地回廊（S A 0701）南側柱と大極殿基壇北端の間に約 28.1 m（約 95 尺）の空闊地が存在していたことが判明した。

大極殿院回廊の南北長を明らかにするため、平成 22 年度から平成 24 年度にかけて調査を行ったが、確実な遺構は検出できず、確定には至らなかった。

朝堂院・朝集院地区

朝堂院の区画は、北面を除く区画施設については、その微候のある遺構を確認してきたが、平成 21 年度調査によって、西面と南面をそれぞれ S A 0902、S A 0901 に訂正することとなった。この成果によって、大極殿の中心から朝堂院南面の S A 0901 までの距離は、約 280 m（約 940 尺）と判明した。平成 26 年度調査では朝堂院南門を検出し、平成 24 年度調査では総柱の朝堂建物跡を検出した。この建物は平成 25・26 年度の調査で南北 2 棟が重複する東西棟の掘立柱建物であることが判明した。平成 29 年度の調査では朝堂院東面掘立柱塀北端の柱穴を検出し、平成 30 年度の調査では朝堂院北面掘立柱塀のうち東側の S A 18001 を検出した。

朝集院の区画については、西面が S A 5901、南面が S A 6202 であることが確定している。また、朝集院南門 S B 6305 の存在も確認している。平成 28 年度の調査で北東隅を確認したことで、朝集院の四至が確定し、規模は南北が 420 尺、東西は 450 尺であることが判明した。

3 第 100 次調査

令和元年度の調査は、朝堂院地区の北西隅を検出することで朝堂院区画の範囲の確定を目指し、朝堂院地区中央では遺構の有無の確認を目的に調査を実施した。現地調査は中居を主担当とし、古川・岡田が補佐した。9月1日から調査区設定地点の測量などを実施し、9月4日から掘削作業を開始した。9月22日には恭仁宮跡探検隊として発掘体験などを実施し、11月5日には恭仁小学校児童を対象とした体験発掘を実施した。恭仁宮跡調査専門家会議は11月18日に開催し、調査成果の検討を行った。12月3日に報道発表を行い、12月7日の現地説明会には約100名の参加者を得た。12月20日に埋め戻しを含めた現地での作業をすべて完了した。調査面積は227m²で、瓦や土師器片などコンテナ9箱分の遺物が出土した。

（1）既往の調査成果と今年度の調査トレンドの位置（第2・3図）

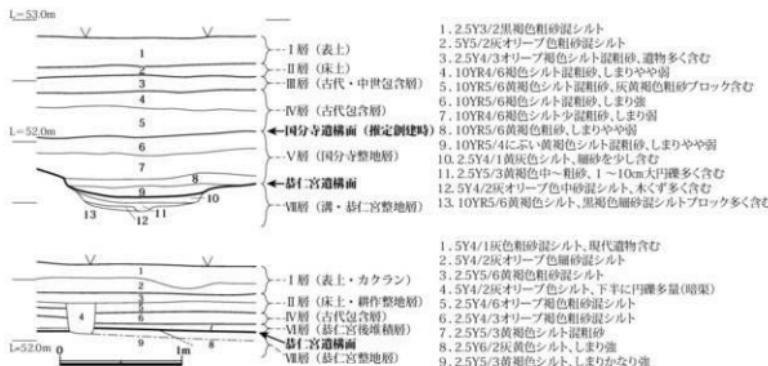
平成30年度の調査によって、はじめて朝堂院と大極殿院の境界となる掘立柱塀を検出した。^(H1) 平成29年度には朝堂院区画北東隅の掘立柱が検出されていたものの、大極殿院との接続状況が不明であった。^(H2) そのため今年度の調査では、朝堂院区画の北西隅の検出及び朝堂院区画と大極殿院回廊との接続方法を目的にI R 09 I -s 調査区を設定した。I R 09 I -s 調査区の調査を開始したところ、想定していた遺構面の深度で明確な遺構面を確認できず、出土遺物もこの時点で皆無だったことから、期待する遺構が残存していない可能性があった。そのため、I R 09 I -s 調査区と平成30年度調査区の間にI R 01 I -s 調査区を設定し、掘立柱塀の残存状況を確認することとした。

また、朝堂院の南北規模が確定したことと、朝堂院内部の構造を解明する必要性も高まった。朝堂院区画の南端には、平成27年度に検出した宝輦（輶旗）遺構があり、区画の南西寄りには平成24年度から26年度にかけて総柱の大型掘立建物を検出している。こうした朝堂院南半の遺構検出状況から、朝堂院の区画が仮設の大極殿院として機能した可能性が指摘された。仮設の大極殿院であった場合、区画の中軸上には大極殿に相当する建物の存在が想定できる。『統日本紀』には、天平14（742）年正月朔日条に恭仁宮の大極殿が未完成のため「四阿殿」で元日朝賀を受けたとの記載がある。この四阿殿の検出を目的として、朝堂院の中軸上に近い位置にI M 18 J -s・I M 18 Q -s 調査区を設定した。

（2）基本層序（第4図）

令和元年度調査区の基本層序は第4図のとおりである。I R 09 I -s 調査区とI M 18 J -s 調査区の層序を代表して提示する。

I層は表土や近現代のカクラン、II層は耕作に伴う床土である。III層はI R 09 I -s・I R 01 I -s 調査区で確認した層で、多くの古代の遺物を含むが、I R 01 I -s 調査区でIII層の下位から検出したS D 13101が瓦器碗を含むことから、中世以降の包含層といえる。IV層は古代の包含層で、I M 18 J -s 調査区で多くの遺物が出土した。V層はI R 09 I -s 調査区に分厚く堆積する土層で、I R 01 I -s 調査区では西端で薄く確認できるのみである。奈良時代の遺物を含み、恭仁宮の遺構を人為的

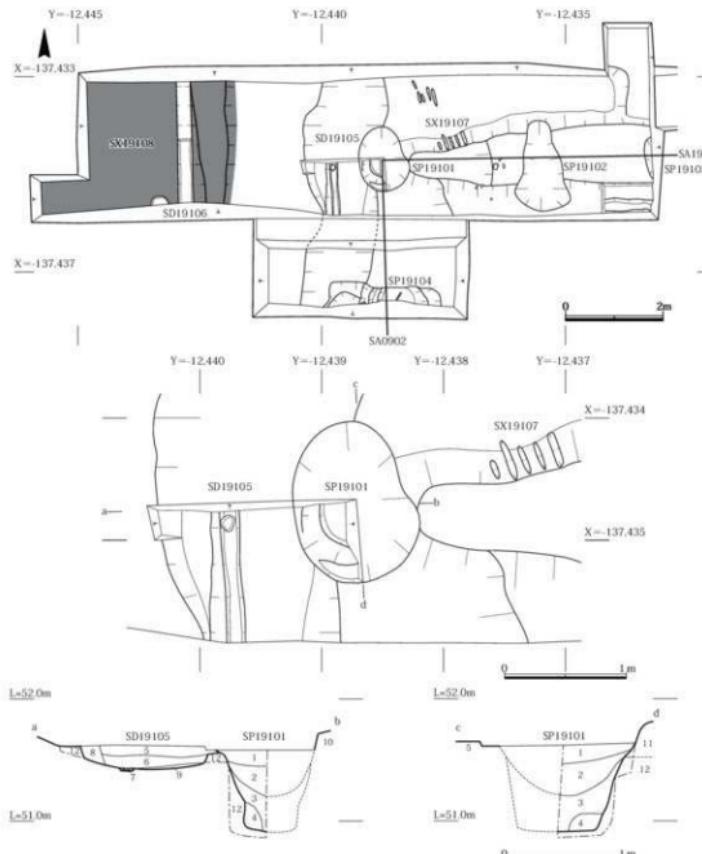


(3) IR 09 I-s 調査区 (第5・6図)

朝堂院区画の掘立柱塀の北西隅の想定地に設定した調査区である。地表面下 0.8 ~ 1.2 m の深さで VII 層を検出しておらず、遺構もこの面から検出した。VII 層の検出高は、調査区の中央部が標高 51.6 m で最も低く、東西端が標高 52.0 m ではほぼ同じである。

遺構は、調査区の中央部から東に延びる S A 19001、南に延びる S A 0902、中央部で S P 19101 と重複する南北方向の溝 S D 19105、調査区西端にある南北方向の溝 S D 19106などを検出した。

S A 19001 S P 19101・102・103 で構成し、西側には続かないことから S P 19101 が西端である。塀を構成する柱穴は全て抜き取り痕の状態で検出した。S P 19101 は、南北長 1.3 m、東西長 1.0 m の抜き取り痕をもつ柱穴である。柱痕跡の確認及び S D 19105 との切り合い関係を確認するため、南北 4 分の 1 を底部まで掘削した (第5図下)。その結果、柱穴埋土が 4 層からなり、SD 19105 より新しいことが判明した。柱穴の埋土は、上層 2 層が黄褐色粗砂で、第 3 層が柱抜取後の埋め戻し土、第 4 層が柱の裏込め土と判断した。上層 2 層の黄褐色粗砂は、南壁の第 14・15 層と同一であり、S P 19101・104 や SD 19105 の上面を覆う層である。遺構埋土とかなり異なる土質であることから、柱の抜き取り後に十分な埋め戻しがなく、抜き取り穴がある程度開口した状態で流れ込んだ層と考える。S P 19101 は、柱そのものの痕跡は確認できないものの、第 3 層の断面状況から柱の位置が推定できる。柱推定位置の座標は、X = -137,434.71, Y = -12,438.76 である。S P 19102 は南北長 1.8 m、東西長 0.8 m の南北に細長い抜き取り痕をもつ柱穴である。S P 19103 は調査区の東端でわずかに確認できた柱穴で、柱穴の大半は調査区外である。出土遺物としては、S P 19101 から土師器皿片が出

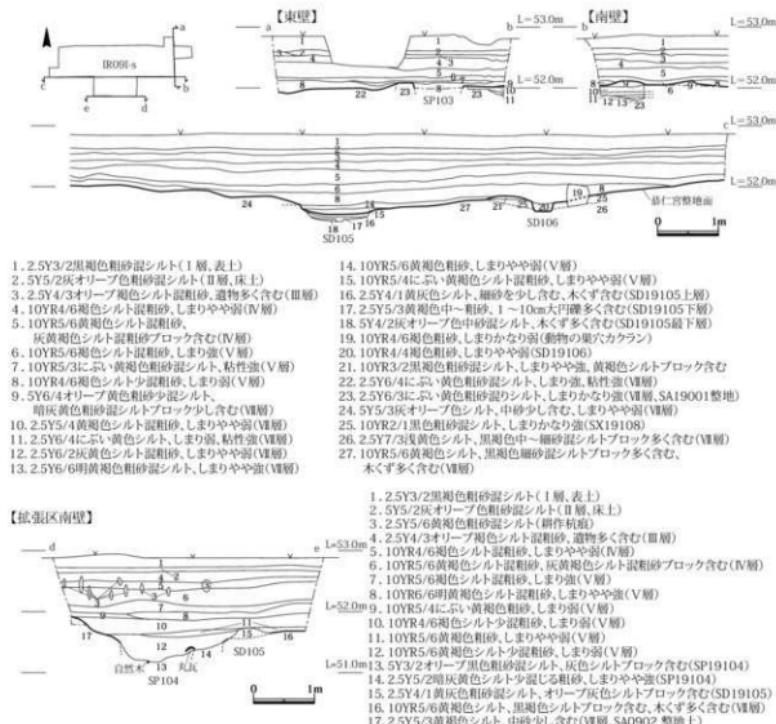


1. 5Y4/1灰色粗砂混シルト(V層, 南壁14層相当)
2. 2.5Y5/6黄色粗砂混シルト(V層, 南壁15層相当)
3. 7.5Y5/2灰オーピー色粗砂混シルト, しまりやや強, 黏性強(抜取)
4. 5Y3/2オーピー色粗砂混シルト, 廉化物含む, しまりやや強, 黏性強(掘方)
5. 5Y6/3オーピー色黄色粗砂混シルト, 黒色細砂混シルトブロック少く含む(SD19105整地上)
6. 2.5Y6/3にぶく, 黄色粗砂(SD19105下層)
7. 2.5Y4/3オーピー色褐色粗砂, φ 4~5cm塊多く含む, しまり強(SD19105最下層)
8. 2.5Y4/1黄灰色粗砂混シルト, 木くず・加工木多く含む(SD19105最下層)
9. 5Y4/2灰オーピー色中砂混シルト, 浅黄色シルトブロック含む, 木くず・加工木多く含む(SD19105最上層)
10. 2.5Y6/3にぶく, 黄色粗砂混シルト, しまりかなり強(SA19001基礎, 第VI層, 東壁23層)
11. 5Y5/3灰オーピー色シルト, 中砂少く含む, しまりやや弱(SA19001南側整地上, 第VII層, 南壁24層)
12. 10YR5/6黄色シルト, 黑褐色細砂混シルトブロック多く含む, 木くず多く含む(VII層, 南壁27層)

第5図 IR 09 I-s調査区平面図(1/100)、SP 19101・SD 19105 平面土層断面図(1/40)

土している。位置関係からみて、SA 19001は朝堂院北面区画となる一本柱塀である。

SA 19001周辺の整地土の状況を確認するために、調査区南東角の断ち割りを行った。その結果、SA 19001周辺の整地土（第6図東壁第23層）は、他の整地土（第6図東壁第9・10・11・22層）



第6図 IR 09 I-s 東壁・南壁・拡張区南壁断面図 (1/80)

より先に構築されていることを確認した。朝堂院・朝集院でこれまでに検出した一本柱塀では同様の整地を確認できていない。そのため、朝堂院北面区画は他の区画と異なる整地をしている可能性がある。

S A 0902 S P 19101・104で構成する。平成20年度調査で検出した朝堂院西面区画S A 0902の延長上にあたる。S P 19104は、調査区を南側に拡張して検出した抜き取り痕をもつ柱穴である。検出時の東西長が2.4mを測り、他の抜き取り痕と比べて規模が大きいことから、下部に柱穴とは別の遺構が存在する可能性があった。そのため、抜き取り痕上の黄褐色粗砂を取り除き、本来の遺構が確認できる深度まで掘削を行ったところ、切り合い関係を持つ2基の遺構を確認した。これらは別々の柱穴の可能性もあるが、これ以上の掘削を行っていないため確定できない。ただし、平成20年度調査の朝堂院と朝集院の間を区画する掘立柱塀S A 0901では、一つの柱穴に重複する抜き取り痕を検出しておらず、埋め戻しの差異によって重複して見える事例が存在する。今回検出した2基の遺構も重複して見える抜き取り痕の可能性があることから、本報告では同一の柱穴S P 19104として扱う。な

お、東側の遺構から自然木と丸瓦をトレンチ壁面に刺さったような状態で検出したが、取上げは行つていらない。

S P 19101 と朝堂院北東隅の柱穴 S P 17301 の座標から、朝堂院北面の規模は 117.277 m(約 395 尺)、方位は E - 0.982° - N に復元できる。また、S P 19101 と朝堂院南西隅の柱穴 S P 0804 の座標から、朝堂院西面の規模は 98.956 m (約 333 尺)、方位は N - 1.755° - W に復元できる。恭仁宮期の遺構の多くが振れ角 N - 1.5° - W 程度であることからすると、朝堂院北面は振れが少なく、朝堂院西面は振れが大きいことがわかる。

S D 19105 調査区中央で検出した南北溝である。幅は 1.2 ~ 1.3 m、検出面からの深さは 0.21 m で、やや蛇行しながら南に傾斜する。S P 19101・104 と重複しており、切り合い関係から S D 19105 の方が古い。溝の埋土は大きく 4 層に分かれる。最上層は黒色土に地山由来のブロックの混じる層で、黒色土には加工木を含む（第 5 図 S D 19105 第 5 層）。この層は南壁部分では確認できない。中層は黄灰色のシルト層で加工木を含みラミナがある（第 6 図南壁第 16 層）。下層は粗砂に直径 0.01 ~ 0.1 m 大の円礫を多く含む層で、S D 19105 の中央部分が一段低くなり幅約 0.15 m の溝状となる（第 6 図南壁第 17 層）。最下層は溝の底部東半に薄く存在しており、黄灰色シルトに地山ブロックを少量含み加工木などを多く含む層である（第 6 図南壁第 18 層）。以上の堆積状況から、S D 19105 はやや蛇行するものの基本的には人為的に掘削・埋め戻しをした溝であるといえる。S D 19105 の掘削から埋没までの過程は、まず溝全体を掘削し、底部を加工木等の含む盛土（最下層）で整える。次に溝の中央部分に細い溝を掘削する。その後、下層と中層が堆積するまでは滞水環境にあった。そして、最後に加工木等を多く含む盛土（最上層）で人為的に埋め戻している。S P 19101 はさらにその後に掘削している。出土遺物は、掘削土を全て水洗した結果、最下層と最上層から加工木等が多く出土した。加工木の他には、小片の土師器や須恵器、檜皮、桃核、ウリ科の種も出土している。

S D 19106 調査区西よりで検出した南北溝である。幅は 0.3 m、検出面からの深さは 0.16 m で、断面台形である。底部は南に向かって傾斜しており、埋土は褐色粗砂の単層（第 6 図南壁第 20 層）で流水の痕跡はない。掘削土を全て水洗したものの出土遺物は皆無である。溝の方位は N - 1.2° - W である。また、S D 19106 の東側には畦状の高まりがある。構築土が溝部分の基盤土と近似していることから、S D 19106 の掘削土を東側に積み上げて高まりを構築した可能性が高い。方位が恭仁宮期の遺構と近似する振れであること、国分寺の整地層（V 層）で覆われていることから、S D 19106 は恭仁宮期の遺構と判断できる。

恭仁宮期の整地層 これまで記述してきた遺構の基盤となるのは、全て人為的な整地層Ⅶ 層である。もっとも深く掘削を行った S P 19101 の下位は標高約 51.0 m を測るが、ここでも地山に達していない。Ⅶ 層は黄褐色シルトに黒褐色シルトブロックが多く含むのを基本とする。S D 19105 を中心とした周辺は水分が多いためにグライ化しており、黒褐色シルトブロック中には多量の加工木等の有機物を含んでいる。加工木等が黒褐色シルトブロックに含まれていることは、これらが今回の調査地点に直接投棄した遺物ではなく二次的な遺物であることを示している。調査区の中央では加工木等が残るほど湿潤であること、本調査区の北西側で平成 30 年度調査の I R 12 E - s 調査区では地山が東に向かっ

て低くなること、IR 01 I -s 調査区から本調査区に向けて遺構面が低くなることなどを合わせると、本調査区の中央部分を底とする谷地形が存在していた可能性が高い。さらに、本調査地から国道 165 号を挟んだ南西側には現在も谷地形が確認できる（第2図）。こうした自然の谷を整地土で埋め立てることで、今回検出した恭仁宮期の遺構の基盤を作り上げているといえる。

S X 19108 S D 19106 周辺に広がる整地土である。黒色粗砂混シルトの非常に締まりのよい土で、谷地形を埋め立てた後にさらに積み上げている。今年度調査区を含め、周辺の調査区では確認できない整地土である。位置的にみて大極殿院西面回廊の地業である可能性がある。

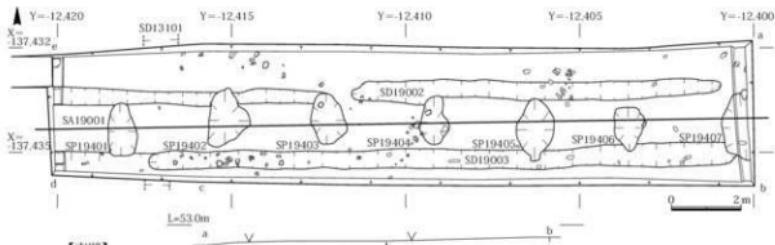
(4) IR 01 I -s 調査区（第7・8・9図）

朝堂院区画の北面掘立柱塀想定地に設定した調査区である。地表面下 0.6 m の深さで整地土（Ⅶ層）を検出しており、遺構もこの面から検出した。Ⅶ層の検出高は、調査区の東端が標高 52.4 m、西端が標高 52.2 m となり、東から西に向けて低くなっている。

遺構は、東西方向の一本柱塀 S A 19001、S A 19001 の南北に平行する溝 S D 19002・19003、IR 08 Y -s 調査区から続く南北方向の溝 S D 13101 を検出した。

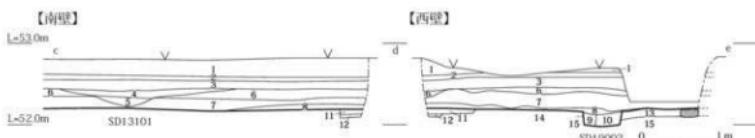
S A 19001 S P 19401～407 で構成する。IR 09 I -s で検出した柱穴列の東の延長上にあたり、調査区を越えてさらに西方に向延びる。7 基の遺構の平面形はいずれも不整形な椿円形で、最上層には黄褐色粗砂が薄く堆積しているため、抜き取り痕をもつ柱穴と判断できる。7 基の柱穴の間隔は、約 3 m（10 尺）等間となる。柱穴の平面形が不整形なのは、柱材の抜き取り痕が柱掘方よりも大きいためであり、同様の抜き取り痕が朝堂院・朝集院を区画する一連の一本柱塀で共通して確認されている。S A 19001 の柱穴は、S D 19002・003 と重複しており、切合関係からみて柱穴の抜き取り痕の方が新しい。柱穴の検出平面形は全て抜き取り痕であることから、S D 19002・003 との関係性を確認するために、調査区東端の S P 19407 を東壁に沿って断ち割りを行った（第7図東壁）。しかし、両溝とも調査区東端まで続かず柱穴掘方との前後関係は明らかにできなかった。なお、同様の溝と柱穴の関係については、朝集院南東隅部の調査（I O 04 N -s、I O 02 L -s）において、古い順から柱穴掘方、溝、抜き取り痕となることが指摘されている。S P 19401 の南側では S D 19003 が途切れしており、下層のⅦ層が露出している。この部分のⅦ層は、S D 19003 の延長上で土質が異なっており、調査区西壁で断ち割りを行ってⅦ層の状況を確認した。その結果、IR 09 I -s と同様に S A 19001 の周辺の整地土（第7図西壁第14層）は、他の整地土（第7壁第11・12層）より先に構築していることを確認した。遺構からの出土遺物は、抜き取り痕の一段下げによって出土しており、S P 19401・02・06 からは土師器片、S P 19404 からは恭仁宮期の平瓦が出土している。

S D 19002 S A 19001 の北側に平行する溝である。溝の幅は約 0.5 m であり、S P 19403 の東側と S P 19407 の西側で途切れている。これは、遺構面がやや削平を受けており、溝の残存状況が良くないためである。S P 19405 の北東側には、瓦が集中して出土する地点があった（第8図）。これらの瓦は S D 19002 の検出面上で出土していることから、溝が埋没した後にまとめて投棄されたもので



1. 5Y4/1灰色粗砂混シルト(Ⅰ層, 表上)
 2. 2.5Y5/6黄褐色粗砂混シルト(Ⅱ層, 床上)
 3. 2.5Y4/3オリーブ褐色粗砂混シルト, ϕ 2 ~ 3 cm円礫含む(Ⅲ層)
 4. 2.5Y4/6オリーブ褐色粗砂混シルト, ϕ 2 ~ 6 cm円礫含む(Ⅳ層)
 5. 10YR4/6黄褐色シルト混粗砂, しまり弱(Ⅴ層)
 6. 2.5Y4/4オリーブ褐色粗砂混シルト
 7. 10YR5/6黄褐色シルト混粗砂, しまり弱(Ⅵ層)
 8. 2.5Y4/2暗灰黃褐色粗砂混シルト
 9. 2.5Y5/6黄褐色シルト混粗砂

10. 2.5Y5/4黄褐色シルト混粗砂
 11. 2.5Y5/3黄褐色粗砂混シルト, しまりやや弱
 12. 10YR4/6褐色シルト混シルト, しまり強(Ⅶ層)
 13. 2.5Y5/4黄褐色細砂混シルト, しまりやや強(Ⅷ層)
 14. 2.5Y6/6暗黄褐色粗砂混シルト, しまり弱, 黏性強(Ⅸ層)
 15. 2.5Y5/4暗灰黃褐色粗砂混シルト, しまり強,
 黄褐色粗砂混シルトブロック少し含む(Ⅹ層)
 16. 10YR4/2灰黃褐色細砂少混シルト, しまりかなり強(Ⅺ層)



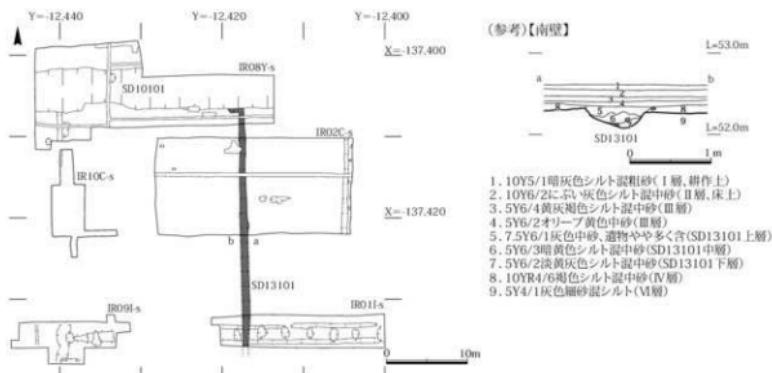
1. 5Y4/1灰色粗砂混シルト(Ⅰ層, 表上)
 2. 2.5Y5/6黄褐色粗砂混シルト(Ⅱ層, 床上)
 3. 2.5Y4/3オリーブ褐色粗砂混シルト, ϕ 2 ~ 3 cm円礫含む(Ⅲ層)
 4. 2.5Y5/4にぶい黄色シルト少混中~粗砂, しまりやや弱(SD13101)
 5. 10YR6/6褐色粗砂シルト混粗砂, しまり弱(SD13101)
 6. 2.5Y4/6オリーブ褐色シルト混粗砂
 7. 10YR4/6褐色シルト混粗砂(Ⅶ層)
 8. 2.5Y5/6黄褐色シルト混粗砂(V層)

9. 2.5Y5/4黄褐色粗砂混シルト, しまりやや弱, 黏性強(SD19002)
 10. 2.5Y5/4黄褐色粗砂混シルト, しまりやや弱, 黏性強(SD19002)
 11. 2.5Y6/4にぶい黄色中砂混シルト, しまりやや強, 黏性強(Ⅸ層)
 12. 2.5Y5/4褐色粗砂シルト混粗砂, しまりやや強, 黏性強(Ⅹ層)
 13. 2.5Y5/3褐色粗砂混シルト, しまりやや強, 黏性強(Ⅺ層)
 14. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色粗砂少混シルト, しまりかなり強, 黏性強
 15. 2.5Y5/2暗灰黃褐色粗砂少混シルト, しまり強, 黏性強(Ⅺ層, SA19001基礎)



第7図 I R 01 I-s 調査区平面図 (1/140)・断面図 (1/60)

ある。瓦を接合した結果、2個体分の平瓦であることが判明したが、どちらも残存率は50%以下であった。これらの平瓦は凸面の小口付近をナデ調整で平滑に整える特徴があり、恭仁宮に使用されたB型式である。瓦集中地点でSD19002と瓦との関係性を確認するために断ち割りを実施したところ、溝の深さは約0.03mと確認した。残存状況がよくない溝の検出面に瓦がまとめて出土しているこ



第9図 SD 13101 平面図 (1/600)・IR 02 C-s 調査区南壁断面図 (1/60)

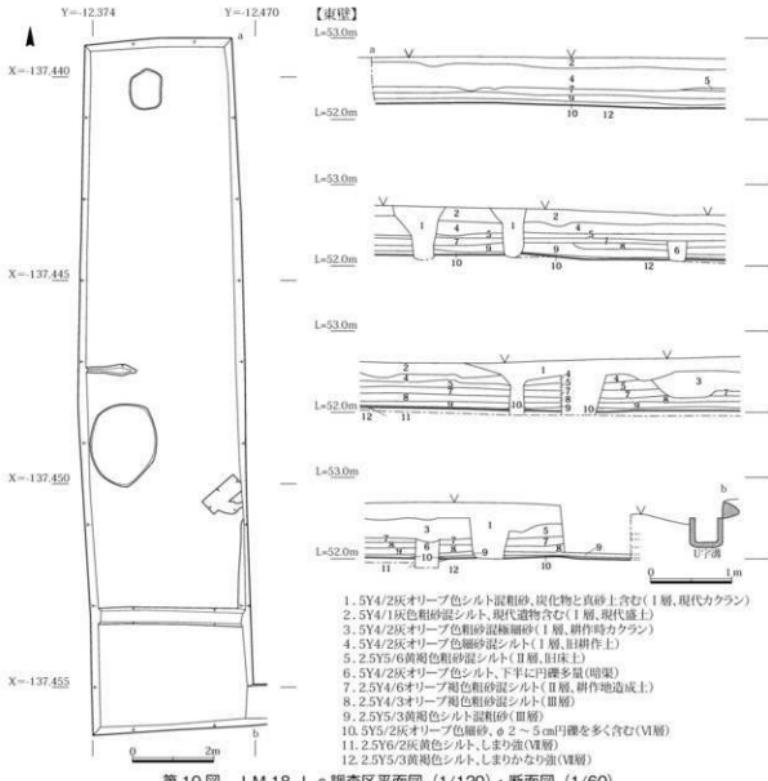
とから、瓦を投棄した段階ではすでに溝の上面が削平されていたことがわかる。調査区の西端でもSD 19002を断ち割ったところ、溝の深さは0.3mであった。瓦集中地点の深さに比べて残存状況が良好ともいえるが、西壁でSD 19003が残存していないことと整合しない。そのため、この断ち割り部分が他よりも深かったといえるが、溝が深い理由は不明である。

SD 19003 S A 19001の南側に平行する溝である。溝の幅は約0.5mで、深さは約0.02mである。SD 19002よりも埋土の残りが悪く、下層の第VI層が部分的に露出する。溝はS P 19401の東側で途切れ、S P 19407とは重複している。調査区東壁の断ち割りではSD 19003の延長は確認できず、SD 19002と同様に途切れていることが判明した。SD 19003埋土は直径0.05~0.2mの大円窪を多数含んでいる。なお、円窪はSD 19003内だけでなく、遺構面上も含めて多数検出したが、特にS P 19402・03・04の周辺に多い傾向がある。

SD 13101 調査区の西端、S P 19401・402の間にあり、IV層上面から掘りこむ溝である。恭仁宮廃絶後に形成された遺構と判断できるため、第8図には記載していない。調査区南北の壁面精査によって、上下2層からなることを確認した（第7図南壁第4・5層）。北壁では幅1.0m、深さ0.2mであったが、南壁では幅2.2m、深さ0.2mとなり幅が広い。南壁の上層で幅が広いことから、下層が堆積した後に水流などで溝の肩が崩れて本来の幅よりも広がった可能性がある。この溝の延長は、北側の平成22・25年度のIR 08 Y-s・IR 02 C-s調査区で検出している。参考として、IR 02 C-s調査区におけるSD 13101の断面図を提示する（第9図）。IR 02 C-s調査区では断面U字状の溝であることがわかる。今回の調査では出土遺物がなかったものの、IR 02 C-s調査区の上層（第9図第6層）からは瓦器片が出土しており、SD 13101の埋没が中世以降であることを示している。

(5) IM 18 J-s調査区（第10図）

朝堂院の区画内の北寄りかつ中軸上の東寄りに「四阿殿」の検出を目的として設定した調査区であ

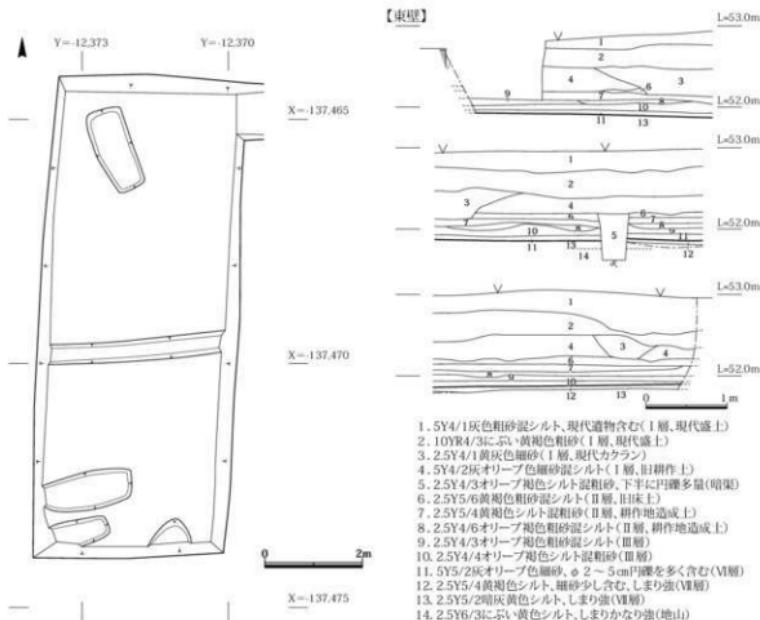


る。地表面下約0.6mの深さで、恭仁宮廃絶後に時間を置かずして堆積した第Ⅳ層があり、その下位に恭仁宮期の整地面(Ⅶ層)を検出した。Ⅶ層の検出高は、調査区の北端が標高52.2m、南端が標高52.0mであり、北から南に向けて低くなる。検出できた遺構は皆無である。遺構状に見える土色変化が2箇所あったため段階下げを行ったが、どちらも恭仁宮の整地土の単位であった。

出土遺物は、Ⅳ層を中心に出土しており、調査区の北ほど多い傾向にある。調査区の北端周辺の第Ⅳ・Ⅵ層からは、文字瓦(第12図10)や駁斗瓦の可能性の高い瓦が出土している。

(6) IM 18 Q-s 調査区(第11図)

IM 18 J-s 調査区と同様に四阿殿の検出を目的として設定した調査区である。地表面下約1.0mの深さでIM 18 J-s 調査区と同様に第Ⅳ層、その下位に遺構面となる第Ⅴ層を検出した。第Ⅴ層の検出高は、調査区の北端が標高51.9m、南端が標高51.8mであり、北から南に向けて低くなる。検



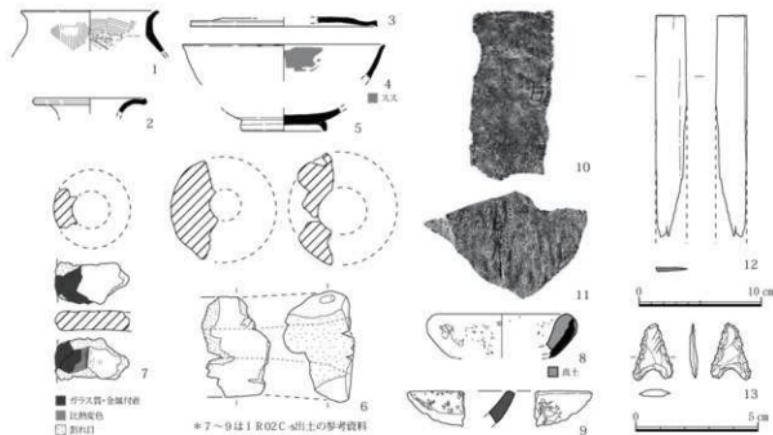
第11図 IM 18 Q-s 調査区平面図(1/100)・断面図(1/60)

出できた遺構は皆無である。なお、この調査区では、暗渠やカクランの下部で地山面を確認できた。地山面の標高は標高 51.7 m である。

(7) 出土遺物 (第12図)

今回の調査では、コンテナ9箱分の遺物が出土した。大半が包含層からの出土である。今回調査地の北側の I R 02 C-s・I R 10 C-s 調査区出土遺物の一部も参考資料として掲載する。

1は I R 09 I-s 調査区のIV層出土の土師器壺である。体部外面をハケ調整、体部内面をケズリ調整で口縁内面に横方向のハケ調整を施す。口径 11.3cm を測る。いわゆる都城型壺とは異なる形態である。2は I R 01 I-s 調査区のIV層出土の須恵器壺の口縁部である。口径 9.4cm を測る。3は I R 01 I-s 調査区のIV層出土の須恵器杯蓋 B である。口径 14.5cm を測る。4は I R 09 I-s 調査区の S D 19105 上層出土の須恵器杯身であるが、高台の有無は不明である。口径 16.6cm を測る。口縁部外面上には2か所にススが付着し、内面にもほぼ全面に薄いススが確認できる。ススの状態から、須恵器杯を転用した灯火器と判断する。5は、I R 09 I-s 調査区のⅢ層から出土した東海産の灰釉碗である。^(註6) 底径 7.0cm を測る。内面には灰釉を施し、見込には重ね痕跡がある。高台は貼り付けの三日月高台である。時期は9世紀中葉である。6は I R 09 I-s 調査区のV層の中でも南壁第8層上面から出土し

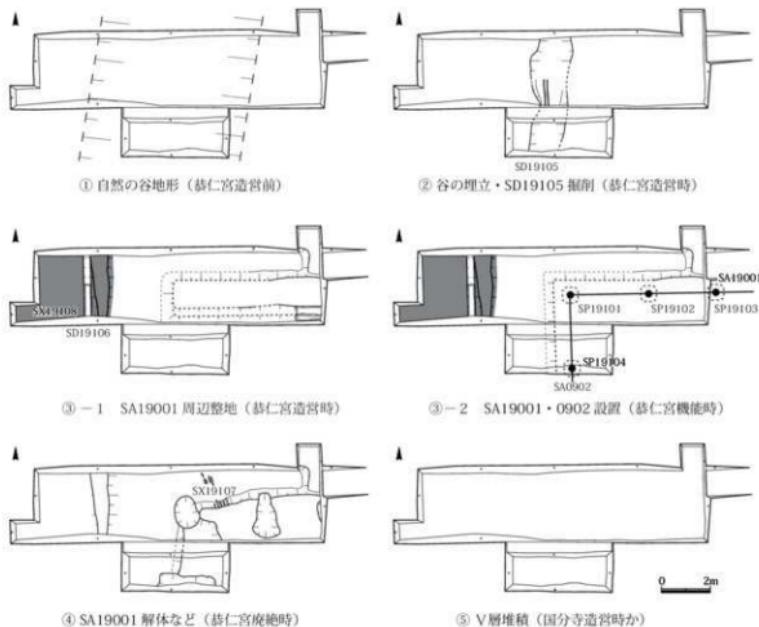


第12図 出土遺物実測図 (1/4、13は1/2)

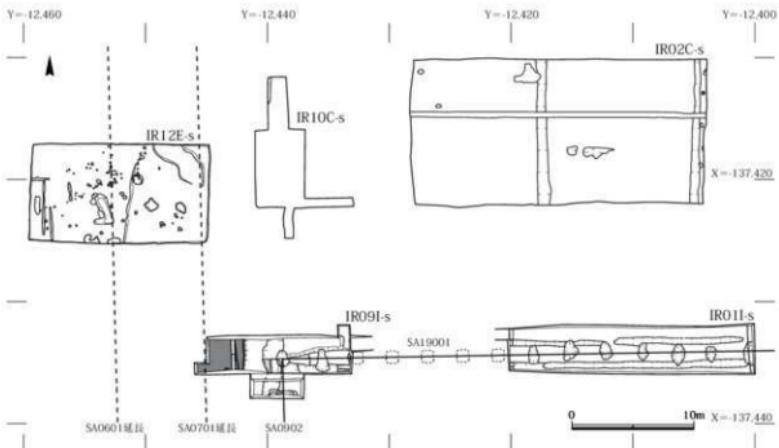
た送風管である。送風管の輪側小口部分にあたり、孔は漏斗状に広くなる。外面には直径0.5cmの未貫通の孔があるが用途は不明である。7~9はI R 02 C-s・I R 10 C-s調査区出土の参考資料である。7はI R 10 C-s調査区出土の送風管の羽口部分である。出土層位はV層に相当し、6と同一層である。先端はガラス質化しており金属も付着する。8はI R 02 C-s調査区出土の埴壙である。出土層位はIV層に相当する。土師器腕の内外面に真土を塗り込む。土師器部分は高温で一部が発泡し須恵器に似た色調となっている。9はI R 02 C-s調査区出土の銅製品である。出土層位はIV層に相当する。器壁の内外面には被熱による凹凸がある。上から見るとわずかに湾曲し器壁も厚いことから、相輪などの大型銅製品と想定できる。10・11はI M 18 J-s調査区出土の恭仁宮式文字瓦である。10は耕作に伴う暗渠から、11は包含層からの出土で、10は「古」、11は「日奉」である。12はI R 10 C-s調査区のS D 19105 最下層出土の木簡状木製品である。木取は柾目で断面はくさび状である。両面とも鋭利な刃物で削っているが木簡としての仕上げ加工はない。墨痕状のものが確認できることから、奈良文化財研究所の協力により赤外線カメラによる判読を行った。その結果、墨書は確認できなかつたものの、形状から木簡を再加工した可能性は残るとの所見であった。13はI M 18 Q-s調査区のⅦ層出土の打製石鎌である。サスカイト製の無茎鎌で、中央部は素材剥離面が残り、側縁は二次調整によって鋸歯状となる。調整の特徴から繩文時代後期の石鎌である。^(注7)

4まとめ

今年度の調査で最大の成果があったのはI R 01 I-s調査区である。造構変遷は大きく5段階に分かれれる（第13図）。①恭仁宮造営前は自然の谷地形で、北東から南西方向に開く谷地形が存在したと想定できる。この谷地形を利用して恭仁宮造営時に物資の搬入をしていた可能性もある。②谷を恭仁宮造営時の加工木等を含む整地土で埋め立て、S D 19105を掘削する。③S A 19001周辺を整地し、



第13図 I-R 09 I-s 調査区構構変遷想定図 (1/200)



第14図 I-R 09 I-s・I-R 01 I-s 調査区周辺構構検出状況図 (1/400)

S A 19001・0902 を設置する。整地の段階によってさらに 2 段階に分かれる。③-1 S D 19105 を埋め立て、S A 19001 周辺の整地土を先行して盛土状に造成する。造成の平面的な規模は不明である。S X 19108 と S D 19106 はこの段階に造成・掘削をしていた可能性がある。③-2 S A 19001 の周辺を追加で整地し、掘立柱塀 S A 19001・0902 を設置する。この段階の整地面がⅦ層にあたり、恭仁宮の機能していた段階である。なお、S A 19001 に大極殿院回廊がどのように接続するのかは不明である。また、当地は周辺の中で最も低い地点であり、大極殿院から排水処理について今後の検証が必要である。④ S A 19001・0902 を解体し、塀の基礎も一部削平する。複数の細い筋状の小溝が集まる S X 19107 はこの段階に基礎を削り込んだ掘削具痕である。⑤褐色シルト混粗砂（V 層）で谷状地形が埋没するまで整地する。V 層は人為的な整地であり、出土遺物からみて山城国分寺造営に関連した整地の可能性が高い。この層は I R 10 C -s 調査区でも検出しており、同一層から輪の羽口と送風管が出土している（第 12 図 6・7）。また、I R 02 C -s 調査区では埴堀や被熱を受けた銅製品片も出土していることから、周辺で山城国分寺に関係する銅製品の鋳造を行っていた可能性が高い。

今年度の調査では、朝堂院区画の北西隅を検出した。これによって南東隅以外は全て判明したこととなる。朝堂院北面区画は、平成 30 年度の調査で大極殿院の南面区画である可能性が指摘されていた。しかし、今回の調査では大極殿院回廊と接続する明確な遺構は確認できず、接続方法は不明なままでなった。ただし、S A 19001 西側の整地土 S X 19108 は、大極殿院西面回廊内側柱列 S A 0701 の延長上に位置しており（第 14 図）、大極殿院回廊の基礎地業である可能性があるため、今後のさらなる検証が必要である。また、遺構の基盤土には恭仁宮造営時の加工木等を多量に含んでいることが確認できた。有機物の残ることの少ない恭仁宮跡では貴重な成果であり、周辺の調査を継続することで恭仁宮の造営に関わるさらに重要な情報を得られる可能性がある。

一方で、四阿殿の検出をめざした調査区では遺構を全く確認できなかった。四阿殿は今回の調査区の南側に建つ可能性もあるが、その場合でも朝堂院の北半は建物がない空間になる。今後も調査を継続し、朝堂院内部の構造を解明する必要がある。

（中居和志）

（注）

- (1) 京都府教育委員会 2019 「京都府埋蔵文化財調査報告書（平成 30 年度）」
- (2) 京都府教育委員会 2018 「京都府埋蔵文化財調査報告書（平成 29 年度）」
- (3) 古川匠 2020 「恭仁宮の構造と造営順序」『条里制・古代都市研究』35 号
- (4) 京都府教育委員会 1991 「埋蔵文化財発掘調査概報（1991）」
- (5) 京都府教育委員会 1984 「恭仁宮跡発掘調査報告 瓦編」
- (6) 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所 2019 「第 23 回古代官衙・集落研究集会 灯明皿と官衙・集落・寺院 研究発表資料集」
- (7) 上峯篤史 2018 「縄文石器 その視角と方法」京都大学学術出版会

2 府営農業農村整備事業関係遺跡

令和元（平成 31）年度発掘調査報告

京都府教育委員会では、府農林水産部が進める府営農業農村整備事業に係る埋蔵文化財の取扱いについて同部農村振興課と協議を行い、埋蔵文化財の保護と同事業との調整を図っている。事業着手前には、事業地内における埋蔵文化財包蔵地に対し、試掘・確認調査を実施して遺構・遺物の広がり等の詳細な内容を把握するとともに、やむを得ず本調査の必要な部分については、それぞれ関係する府及び各市町教育委員会との間で協定書を締結し、発掘調査を実施している。

令和元年度の府営農業農村整備事業に係る発掘調査は、京都府教育委員会、福知山市教育委員会が実施した。その内訳は、本調査 2 件である（付表 1）。

令和元年度の調査組織及び関係機関は以下のとおりである。調査期間中に協力いただいた関係機関及び関係者の方々には記して感謝したい。

《調査組織》

調査主体 京都府教育委員会

調査責任者 京都府教育庁指導部文化財保護課長 森下 衛

調査担当者 京都府教育庁指導部文化財保護課記念物担当副課長 石崎 善久

副主査 中居 和志

技師 北山 大熙

技師 川崎 雄一郎

調査事務局 京都府教育庁指導部文化財保護課

調査協力 福知山市教育委員会、京都府農林水産部農村振興課

また、現地調査、ならびに整理作業に当たっては、多数の方々の協力を得た。心より感謝したい。

付表 1 令和元（平成 31）年度調査遺跡一覧

1 京都府教育委員会が実施した調査

遺跡名	所在地	現地調査期間
川北遺跡（第3次）	福知山市川北地内	令和元年 12月 2日～令和元年 12月 6日

2 その他の機関が実施した調査

遺跡名	所在地	調査機関
上ヶ市遺跡（第2次）	福知山市川北地内	福知山市教育委員会

[1] 川北遺跡（第3次調査） かわきた

1 はじめに

川北遺跡は、福知山市川北に所在する。府営農業農村整備事業が実施されることから、関係部局との調整を経て、今年度は事業予定地の中で遺跡に影響が及ぶ水路部分に2箇所のトレンチを設定し、発掘調査を実施した。調査期間は令和元年12月2日から同12月6日で、調査面積は32m²である。

2 位置と環境

川北遺跡の所在する京都府福知山市字川北は、福知山盆地の西側、由良川右岸に位置する。周辺には南側に由良川、北側に山地があり、そこに挟まれるような形で遺跡が形成されている。近年、包蔵地内にて場整備事業が計画され、平成28年度及び同29年度に福知山市教育委員会によって試掘調査が行われ、包蔵地内の南西部において弥生土器を伴う遺構が確認されている。^(注1)また、包蔵地内に位置する稻粒神社周辺には中世土器を伴う遺構が認められ、中世の遺物包含層が存在することが確認されている。^(注2)これまで散布地として不明な点が多かった川北遺跡ではあるが、具体的な様相が明らかになりつつある。

次に調査地周辺の歴史的環境について概観する。

福知山市周辺で旧石器時代に遡る資料は、和田賀遺跡、奥野部遺跡などで旧石器が採取されているが、明確な遺構は確認されていない。

縄文時代も遺構は少ないが、武者ヶ谷遺跡の包含層から草創期に位置付けられる刺突文を施す完形の深鉢が出土したことは特筆される。半田遺跡では縄文時代後期の様相を示す石器類が出土しているが、土器の共伴事例がなく、明確な時期は不明である。

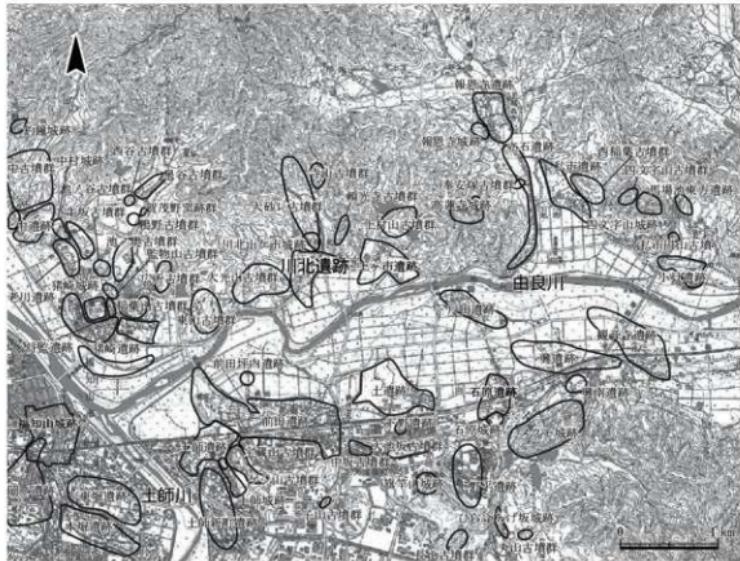
弥生時代に入ると遺跡の数が増加する。前田遺跡では、中期の方形周溝墓などの遺構が確認されている。觀音寺遺跡では、中期の環濠が確認され、銅鐸形土製品なども出土している。^(注3)また、付近では、磨製石剣が不時発見されている。隣接する興遺跡でも中期の環濠の一部と墓坑群が確認され、環濠の底から多量の土器や吉備地域との交流を示す分銅形土製品が出土している。^(注4)

古墳時代には多くの古墳が造営され続け、畿内地域と丹後地域を結ぶ、重要な地域として評価される。前期には広峯15号墳が築造される。広峯15号墳は全長40mの前方後円墳であり、木棺の中から「景初四年」の銘文をもつ盤龍鏡などが出土し、大きな話題となった。豊富谷丘陵墳墓群においては弥生時代後期から古墳時代中期まで継続して、総数100基を超える小さな墳墓や古墳が造営された。^(注5)中期には全長70mの円墳である私市円山古墳が築造される。円墳として京都府最大の規模を誇るのみならず、埋葬施設からは短甲や胡録など中央王権との深い関係を示す遺物が出土している。^(注6)由良川中流域を影響下においた首長の古墳として評価される。後期になると多くの横穴石室墳や群集墳が築造される。奉安塚古墳では墳形・規模が不明なもの、石室内から多量の須恵器や馬具類が発見され、一括出土例として貴重な資料となった。集落の様相のわかる遺跡は少ないが、後期の集落として石本遺

跡が挙げられる。掘立柱建物や竪穴建物が多数みつかり、多量の土器や木器などが出土している。^(OB7)

古代には、上ヶ市遺跡において、奈良時代から平安時代後期にかけての掘立柱建物跡が20棟ほど確認されており、在地領主の居館として評価されている。また、和久寺廃寺では、奈良時代に建立された中心伽藍と考えられる建物や付属施設が確認されている。瓦や須恵器、黒色土器が出土しており、平安時代まで存続していたことが判明している。出土した軒丸瓦は奈良県桜井市山田寺跡や京都市北野廃寺などの出土瓦と同系統の文様であり、寺院を建立した勢力などを考える上で重要な資料となっている。^(OB8) 生産遺跡としては高内鎌谷遺跡で40基以上の窯跡が確認されている。瓦や須恵器が大量に出土し、奈良時代から平安時代にかけて操業されていことが判明している。^(OB9)

中世には、大内城跡において平安時代から鎌倉時代にかけての掘立柱建物跡や中国製陶磁器が多量に見つかっている。この地域は平安時代の終わりから六人部荘に属しており、荘園を管理する荘官の館であった可能性がある。館が鎌倉時代に廃絶した後には、墳墓が築かれ、常滑焼の蔵骨器が埋納されていた。^(OB10) 安土桃山時代から江戸時代にかけて築かれた福知山城は、本丸と天守台に野面積みの石垣を用いており、近世初頭の特徴を残している。発掘調査によって、天守台の拡張や多数の石塔などの転用石の使用が判明した。



第15図 川北遺跡の位置と主要な周辺遺跡（国土地理院「福知山東部」1/50,000）

3 調査の概要

第1・2トレンチの調査（第16図・第17図）

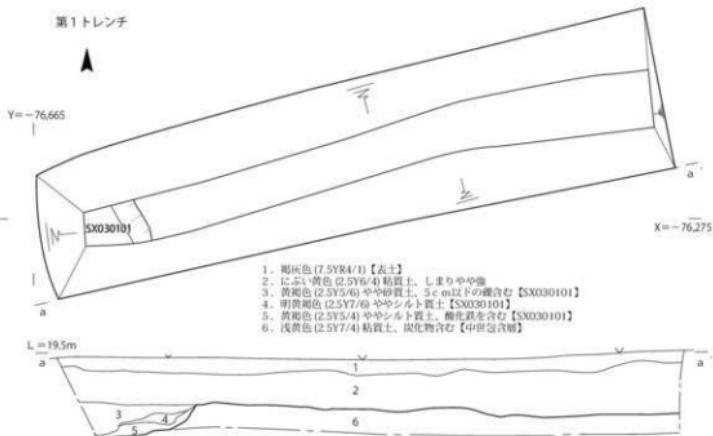
以下では、各トレンチについて詳細を述べる。

計画水路の幅と掘削深度に合わせて、 $10\text{m} \times 2.5\text{m}$ の調査区と $3\text{m} \times 2.5\text{m}$ の調査区を設定し、バッカホウによって掘削した。第1トレンチでは表土及び近代の堆積土を除去したところ、下層に中世遺物の包含層（第6層）を確認できた。第6層上面、トレンチの西端にて中世の遺構（S X 030101）を検出した。これ以上の拡張が不可能であったため遺構の全容は不明であるが、土坑の可能性がある。

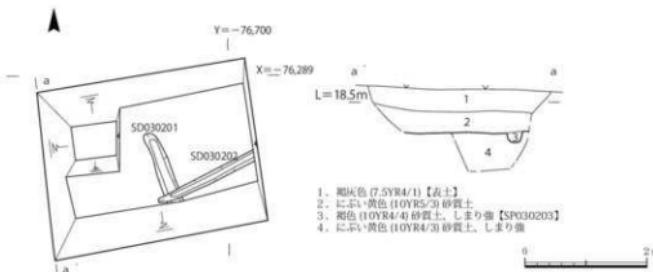


第16図 調査位置図 (1/2,000)

第1トレンチ



第2トレンチ



第17図 第1・2トレンチ平面・土層断面図 (1/80)

第6層には土器器や鐵滓、炭化物が含まれていた。

第2トレンチについては、表土及び近代の堆積土を除去したところ、下層（第4層上面）より中世の包含層を確認できた。第1トレンチに比べて、遺物も少なく、細片のみであった。中世包含層の上面より南北・東西方向の溝（SD030201・030202）が検出された。また、トレンチ西壁にわずかにかかる遺構を土層断面で確認した。ともに同じ埋土であり、遺物は出土せず、時期は不明である。

出土遺物（第18図）

包含層、遺構内から遺物がコンテナ1箱出土している。包含層から出土した遺物は細片が多く、図化できるものは限られる。以下では、比較的の残存率の良好なものを中心に報告する。

1・2は土器器皿である。ともに口縁部が厚手で浅く内外面にナデ調整を行っている。1は第1トレンチのSX030101から出土したものである。2～5は1トレンチの包含層から出土したものであ



第 18 図 第 1・2 トレンチ出土遺物実測図 (1/4)

る。3は須恵器の鉢である。4は中国製白磁の口縁部である。玉縁口縁で、平安時代末のものである。5は輪羽口である。被然部分のみ青灰色になっている。

第2トレンチから出土した遺物においては図化できるものがなかった。

4 緒論

本調査では調査範囲が限られ、出土遺物も少ないものの、各トレンチで遺構・遺物を確認できた。遺構の性格等は不明な点も多いが、包含層からは中世土器以外に羽口や鉄滓が出土している。第1次調査第13グリッドからも同様の遺物が出土しているため、周辺に製鉄関連遺構がある可能性が高い。^(注2)

以上のように、平成28年度から継続的に行われてきた川北遺跡の調査によって、これまで不明とされてきた遺跡の様相が次第に明らかになってきた。今後、これらの成果をもとに川北遺跡の実態を解明することが期待される。

なお、次年度以降もは場整備が計画されており、必要な箇所については調査予定である。

(北山大熙)

(注)

- (1) 福知山市教育委員会 2017「川北遺跡」「福知山市文化財調査報告書」第63集
- (2) 福知山市教育委員会 2018「川北遺跡第2次」「福知山市文化財調査報告書」第67集
- (3) 福知山市教育委員会 1995「興・觀音寺遺跡」「福知山市文化財調査報告書」第29集
- (4) 福知山市市史編さん委員会 1966「福知山市史」第1巻
- (5) 財團法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 1982「豊富谷丘陵遺跡昭和56年度発掘調査概要」「京都府遺跡調査概報」第1冊
- (6) 財團法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 1989「私市円山古墳」「京都府遺跡調査概報」第36冊
- (7) 財團法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 1987「京都府遺跡調査報告書」第8冊
- (8) 福知山市教育委員会 1993「上ヶ市遺跡」「福知山市文化財調査報告書」第21集
- (9) 福知山市教育委員会 1985「和久寺跡第1次調査概報」「福知山市文化財調査報告書」第5集
- (10) 夜久野町教育委員会 1994「高内鎌谷遺跡発掘調査概報」「夜久野町文化財調査報告」第3集
- (11) 財團法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 1984「京都府遺跡調査報告書」第3冊

3 国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」

関係遺跡令和元（平成 31）年度発掘調査報告

亀岡市の中央を流れる桂川（大堰川）の右岸で、近畿農政局による国営緊急農地再編整備事業が計画された。対象となったのは、亀岡市千代川町、大井町、本梅町、曾我部町、余部町、薄田野町、追分町にまたがる農地である。事業対象地では、多くの埋蔵文化財が調査対象となることが予想されたことから、近畿農政局、京都府、京都府教育委員会、亀岡市、亀岡市教育委員会の間で協議を重ね、切土施工等によりやむを得ず影響を受ける部分について、発掘調査を実施することで合意に達している。

平成 26 年度には、平成 27 年 2 月 12 日付で近畿農政局、京都府知事、亀岡市長の 3 者間において「国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」における埋蔵文化財の発掘調査に関する覚書」を交換した。今年度は、この覚書に基づき、平成 31 年 4 月 1 日付で近畿農政局長、京都府教育委員会教育長、亀岡市長の 3 者間において「平成 31 年度国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」における埋蔵文化財の発掘調査に関する協定書」を締結した上で、京都府教育委員会、亀岡市教育委員会、公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターの 3 機関において発掘調査を分担して実施することとなった。

令和元年度の調査組織及び調査機関は以下のとおりである。調査期間中、調査に参加していただいた方々、ご協力をいただいた関係機関の方々及び土地所有者の皆様には記して感謝したい。

《調査組織》

調査主体 京都府教育委員会

調査責任者 京都府教育庁指導部文化財保護課長 森下 衛

調査担当者 京都府教育庁指導部文化財保護課記念物担当副課長 石崎 善久

主査 奈良 康正

副主査 中居 和志

技師 北山 大熙

技師 川崎 雄一郎

調査事務局 京都府教育庁指導部文化財保護課

調査協力 亀岡市教育委員会、亀岡市経済部国営事業推進課、亀岡市余部町自治会、余部町整備委員会、曾我部町圃場整備委員会、近畿農政局、京都府農林水産部農村振興課、京都府南丹広域振興局、京都府南丹教育局、公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

また、現地調査、ならびに整理作業に当たっては、多数の方々の協力を得た。心より感謝したい。

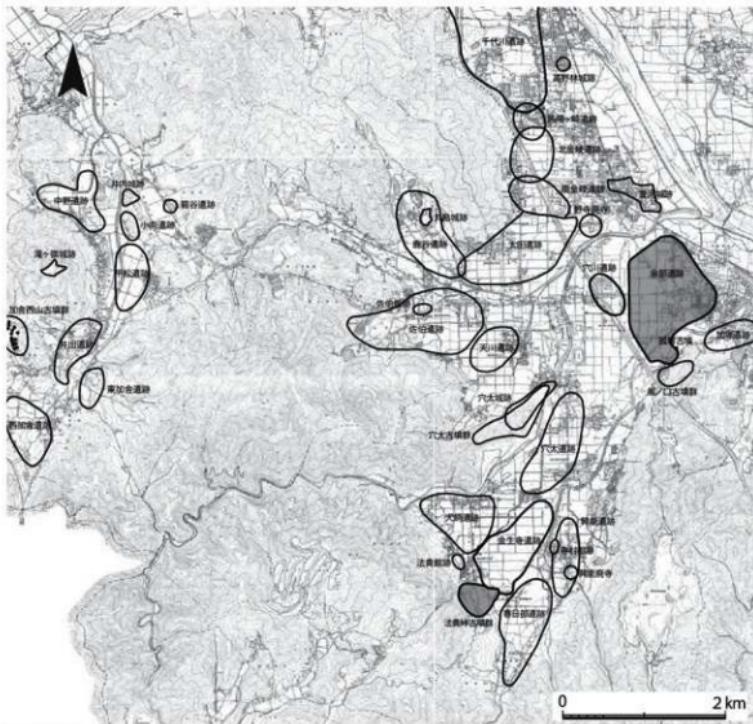
付表2 令和元（平成 31）年度調査遺跡一覧

1 京都府教育委員会が実施した調査（令和元（平成 31）年度）

遺跡名	所在地	現地調査期間
余部遺跡（第16次）	亀岡市余部町塞又地内	令和元年5月27日～令和元年8月31日
法貴峠古墳群（第1次）	亀岡市曾我部町中中小路	令和元年10月1日～令和元年12月20日

2 その他の機関が実施した調査（令和元（平成 31）年度）

遺跡名	所在地	調査機関
犬飼遺跡（第3次）	亀岡市曾我部町犬飼地内	公益財團法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
金生寺遺跡（第5・6・7次）	亀岡市曾我部町中地内	公益財團法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
余部遺跡（第17・18次）	亀岡市余部町塞又地内	亀岡市教育委員会



第19図 調査対象遺跡及び周辺（1/60,000）

[1] 余部遺跡(第16次調査)・法貴峰古墳群(第1次調査)

1 はじめに

令和元年度の調査は余部町塞又地内及び曾我部町中中小路の2箇所で実施した。

余部町塞又地内にて実施した余部遺跡第16次調査では、昨年度の第14次調査に引き続き、事業予定で切土による遺構面への影響が確実な範囲で、調査の同意を得られた耕作地に調査区を設定した。調査区の面積は約1,306m²である。調査期間は令和元年5月27日から令和元年8月31日である。

曾我部町中中小路では、昨年測量調査を実施した法貴峰20号墳の発掘調査を実施した。調査期間は令和元年10月1日から令和元年12月20日である。

調査・整理期間の関係から、詳細は、平成30年度実施調査報告と併せて次年度以降の報告を予定している。そのため、今年度は調査の概要のみを記す。

2 調査の概要

(1) 余部遺跡第16次調査

今年度は、第14次調査の際に調査区南東部で確認した弥生時代から古代にかけての遺構面の調査を行った。主な遺構は溝と土坑である。溝は杭列を伴う水路と判断され、埋土からは縄文時代から古代にかけての土器、石器、木製品などが多数出土した。土坑からは弥生時代から古墳時代にかけての土器、勾玉、鉄鎌などが出土した。

(2) 法貴峰古墳群第1次調査

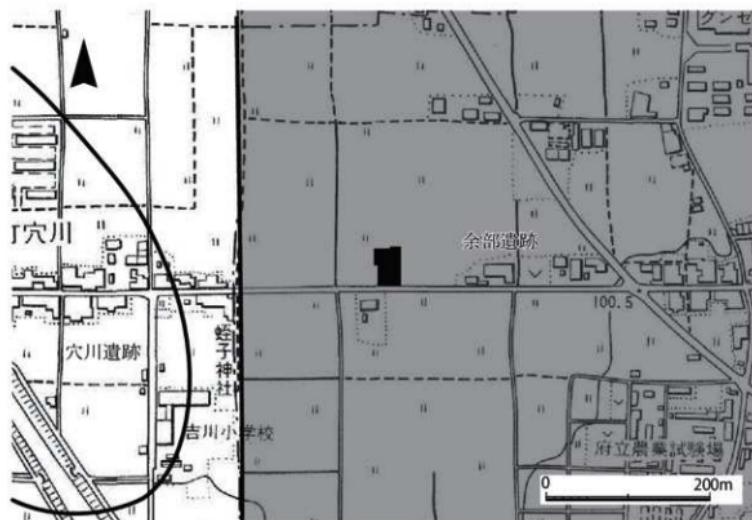
法貴峰古墳群は、靈仙ヶ岳の西南斜面裾部に位置する古墳時代後期の群集墳であり、調査対象となつた20号墳はその東端の段丘崖上に立地する。現況は、半壊した横穴式石室が地表に露出している。昨年度の測量調査の結果、墳形が前方後円墳と推定されたことを受け、今年度は前方部の主軸上にトレチを設定し、墳形と規模の確認を行った。調査の結果、前方部と認識していた部分は中世以降の盛土であり、墳形は円墳であることが判明した。墳丘は直径13m程度に復元できる。

3 まとめ

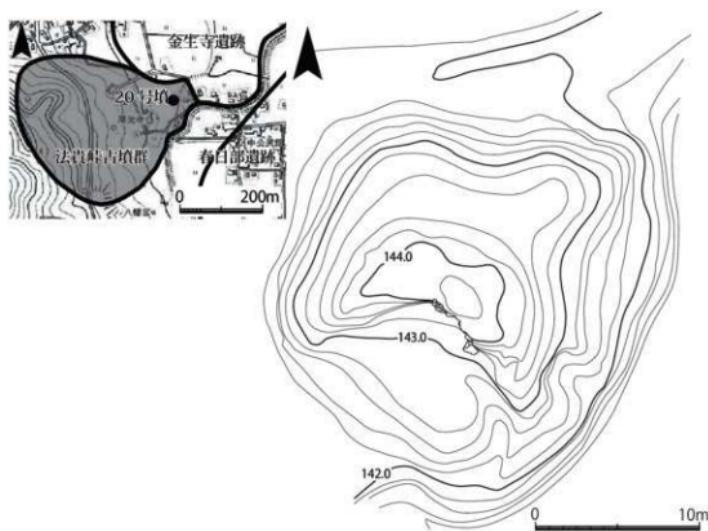
余部遺跡第16次調査で検出した遺構からは、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての土器が出土し、既往の調査では未確認であった同時期の遺構が遺跡範囲の西側に展開していたことが判明した。また、溝から出土した多数の木製品は丹波地域では出土事例が少なく、水路の機能を含め、当時の生産活動を復元する上で有効な資料である。

法貴峰20号墳は、横穴式石室を持つ直径約13m程度の円墳であると確認された。墳丘の遺存状況は悪く、中世以降に、墳丘中央部の盛土が著しく流失していることが判明した。また、今回の調査では、葺石や埴輪、段築などの外表施設は認められなかった。

(川崎雄一郎)



第20図 余部遺跡第16次調査地点 (1/6,000)



第21図 法貴峯20号墳位置図 (1/12,000) 及び墳丘測量図 (1/300)

4 平成 30・31 年、令和元年府内遺跡 試掘・確認調査等報告

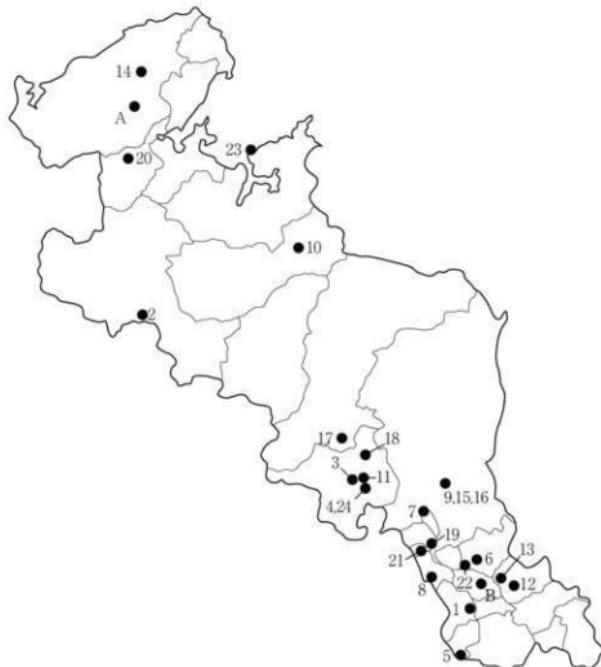
京都府教育委員会では、埋蔵文化財包蔵地における開発事業に伴い、各事業主体者の協力を得ながら、国庫補助事業府内遺跡として、試掘・確認調査、分布調査等を実施している。

平成 31 年 1 月から令和元年 12 月にかけて当教育委員会では、第 22 図、付表 3 に示すとおり総数 26 件の試掘・確認調査等、分布調査を実施した。道路拡幅工事に伴う調査が多く行われた。

24. 矢田遺跡は、府道拡幅工事に伴う調査で、中世の柱穴や溝が検出された。詳細は次年度に報告する予定である。このほか 1. 大將軍遺跡、3. 加塚遺跡などの調査を実施したが、遺構及び遺物は確認されなかった。そのほか、A. 松田古墳群等で分布調査を実施し、新規古墳を確認した。

次項では、特に成果の得られた試掘・確認調査について記載する。

(北山大熙)



第 22 図 平成 31 年、令和元年試掘・確認調査等位置図（番号は付表 3 に対応）

付表 3 平成 31 年、令和元年試掘・確認調査等一覧

調査月日	遺跡名称	所在地	概要	調査原因	備考
1 1月 8 日	大将軍遺跡	京田辺市	顯著な遺構・遺物無し	堤防改修	
2 1月 16 日	塙津古墳群	福知山市	顯著な遺構・遺物無し	砂防ダム建設	
3 2月 7 日	加塙遺跡	亀岡市	顯著な遺構・遺物無し	財務局庁舎改修	
4 2月 18 日、 3月 11 ~ 14 日	矢田遺跡	亀岡市	遺構・遺物を検出	府道拡幅	p.38 掲載
5 4月 8 日	乾谷大崩遺跡	精華町	顯著な遺構・遺物無し	国道拡幅	p.44 掲載
6 6月 4 日	宇治市街遺跡	宇治市	顯著な遺構・遺物無し	警察署改修	
7 6月 10 日	中海道遺跡	向日市	顯著な遺構・遺物無し	府道拡幅	p.45 掲載
8 6月 25 日	石城跡	八幡市	顯著な遺構・遺物無し	UR 住宅改修	
9 8月 5・21 日、 9月 27 日、 10月 24 日、 11月 8 日	平安宮跡	京都市	顯著な遺構・遺物無し	府立高校改修	
10 8月 19 日	光明寺境内	綾部市	顯著な遺構・遺物無し	公衆トイレ建設	
11 9月 2 日	龜山城跡	亀岡市	顯著な遺構・遺物無し	府立高校改修	
12 9月 3 日	北垣内遺跡	宇治田原町	顯著な遺構・遺物無し	ポスト改修	
13 9月 9 日	郷之口遺跡	宇治田原町	顯著な遺構・遺物無し	郵便局改修	
14 9月 20 日	奈具遺跡	京丹後市	顯著な遺構・遺物無し	府立高校改修	
15 10月 7 日	平安京跡	京都市	顯著な遺構・遺物無し	府営住宅改修	
16 10月 7 日	平安京跡	京都市	顯著な遺構・遺物無し	府立高校改修	
17 10月 29 日	西田城跡	南丹市	顯著な遺構・遺物無し	府道拡幅	
18 10月 30 日、 11月 5 日	出雲遺跡	亀岡市	顯著な遺構・遺物無し	溜池閥連道路建設	p.47 掲載
19 11月 11 日	長岡京跡	長岡京市	顯著な遺構・遺物無し	雨水施設新設	
20 11月 13 日	家ノ下遺跡	与謝野町	顯著な遺構・遺物無し	溜池閥連道路建設	
21 11月 25 日	長岡京跡	大山崎町	顯著な遺構・遺物無し	河川敷整備	
22 11月 29 日	マメ塚古墳	宇治市	顯著な遺構・遺物無し	交番改築	
23 12月 3 日	白石浜遺跡	舞鶴市	顯著な遺構・遺物無し	擁壁工事	p.48 掲載
24 12月 23・24 日	矢田遺跡	亀岡市	遺構・遺物を検出	府道拡幅	次年度報告
A 5月 8・9 日	松田古墳群ほか	京丹後市	古墳の新規確認等	自動車専用道路建設	分布調査
B 7月 31 日	-	城陽市	遺跡確認できず	自動車専用道路建設	分布調査

[1] 佐伯遺跡試掘・確認調査（第11次調査）

1はじめに

佐伯遺跡は亀岡市薄田町佐伯に位置する、縄文時代から中世にかけての複合遺跡である。歴史的には、「和名類聚抄」にみられる「佐伯郷」や中世の佐伯庄に比定されており、これまで亀岡市教育委員会、京都府教育委員会、公益財團法人京都府埋蔵文化財調査研究センターによって10次にわたる調査が行われている。平成27年度からは、国営は場整備事業に伴い公益財團法人京都府埋蔵文化財調査研究センター（以下、府埋文センター）によって大規模な発掘調査が行われ（第7～9次調査）、古代に遡る時期の古瓦や掘立柱建物が多数検出されており、古代において当地域の中心的な役割を担った遺跡であったと考えられている。^(注1)

今回の調査は、ほ場の設計変更により切土が発生した箇所と、昨年度に引き続きほ場整備地内で当初の予定がない暗渠排水路掘削が予定された箇所の試掘確認調査を行ったもので、佐伯遺跡の第11次調査となる。実施期間は平成30年5月15～17日、5月24日、10月16・24日にかけて行い、調査面積は約160m²である。調査にあたっては、農林水産省近畿農政局の協力を得た。

2 調査の成果

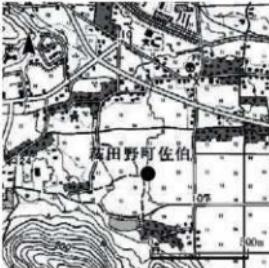
（1）各調査区の概要

今回調査を行ったのは、切土予定地1箇所と暗渠排水路予定地8箇所の計9箇所である。調査区1は幅約3m長さ約30mで設定した。調査区2から9では約0.3m幅では場の大きさに合わせて掘削を行った。多くの調査区では地山を検出したのみであったが、部分的に安定面あるいは遺構を検出した地点があった。以下、その概要を調査区ごとに報告する。

調査区1（第25図） 切土予定の表土下約1mまで掘削を行い、土師器の小片を含む包含層を確認したが、遺構面となる安定した面は確認できなかった。そのため、予定された切土工事では遺構への影響はなく、面的調査の必要性はないと判断した。

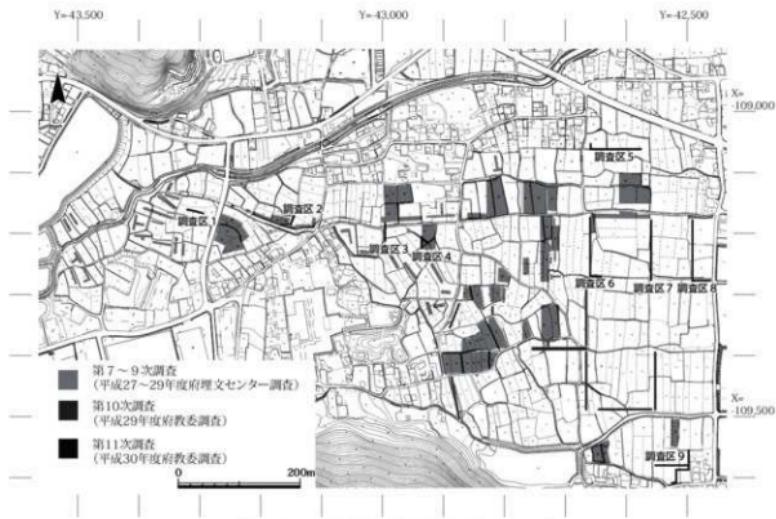
調査区2（第26図） 地表面から約0.4mまで安定面を検出したものの、遺構・遺物とも検出できなかった。さらに地表面から約0.7mまで掘削を行ったが遺構・遺物とも確認できなかった。安定面以下は無遺物であることから地山と判断した。

調査区3（第26図） 地表面から約0.7mまで掘削を行い、調査区の北半で安定面を検出した。安定面以下は無遺物であることから地山と判断した。遺構・遺物とも確認できなかった。



第23図 佐伯遺跡位置図（国土地理院

1/25,000 「亀岡」

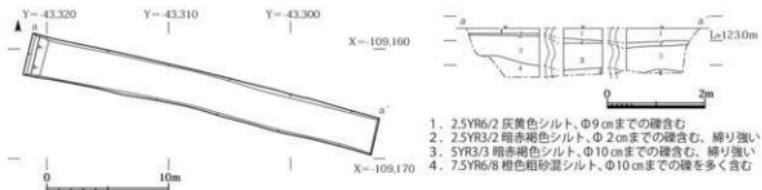


第24図 佐伯遺跡調査区位置図(1/8,000)

調査区4（第26図）地表面から約0.6mまで掘削を行い、調査区の北半で安定面を検出した。層序は調査区3と同一で、安定面以下は無遺物であることから地山と判断した。遺構・遺物とも確認できなかった。

調査区5（第27図）地表面から約0.5mまで掘削を行い、2箇所（D・E地点）で南北方向の溝を検出した。調査地は西に向かって高くなる地形であり、西ほど高い位置で安定面を検出した。安定面以下まで掘削を行ったものの無遺物であることから、安定面以下は地山と判断した。いずれの遺構もこの安定面から掘削している。溝SD501は、調査区中央のD地点で検出した南北溝である。幅約6.2m、深さ約0.3mである。埋土は粘質のある極細砂であり、出土遺物はない。溝SD502は調査区の西よりのE地点で検出した南北溝である。幅約1.4m、深さ約0.4mである。埋土は粘質の強い黒色シルトで、埋土中から時期不明の須恵器片が出土した。SD501・502は南から北に向けて傾斜している。

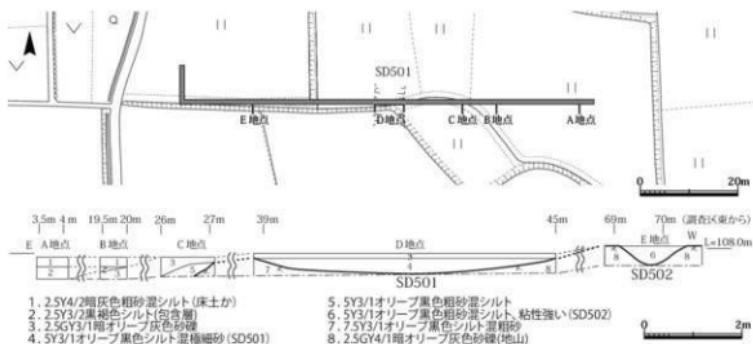
調査区6（第28・29図）地表面から約0.7mまで掘削を行い、5箇所で遺構を検出した。表土直下で調査区全面にわたって安定面を検出した。安定面以下は砂礫とシルトの互層となる堆積であったが、無遺物であることから安定面以下は地山と判断した。いずれの遺構もこの安定面から掘削している。溝SD601・602は、調査区の北端のA地点で検出した北西から南東方向の溝である。SD601は幅約1.6m、深さ約0.4m、SD602は幅約2.0m、深さ約0.6mである。SD602は、断面の状況から、再掘削していることがわかる。これらの溝は、東側に隣接する佐伯遺跡第8次調査12トレチで調査した溝SD12につながるものである。府埋文センターの調査ではこのSD12からは墨書き器をはじめとして、平安時代の遺物が多数出土している。SD12は1条の溝として報告されているが、



第25図 調査区1平面・断面図(1/400, 1/100)

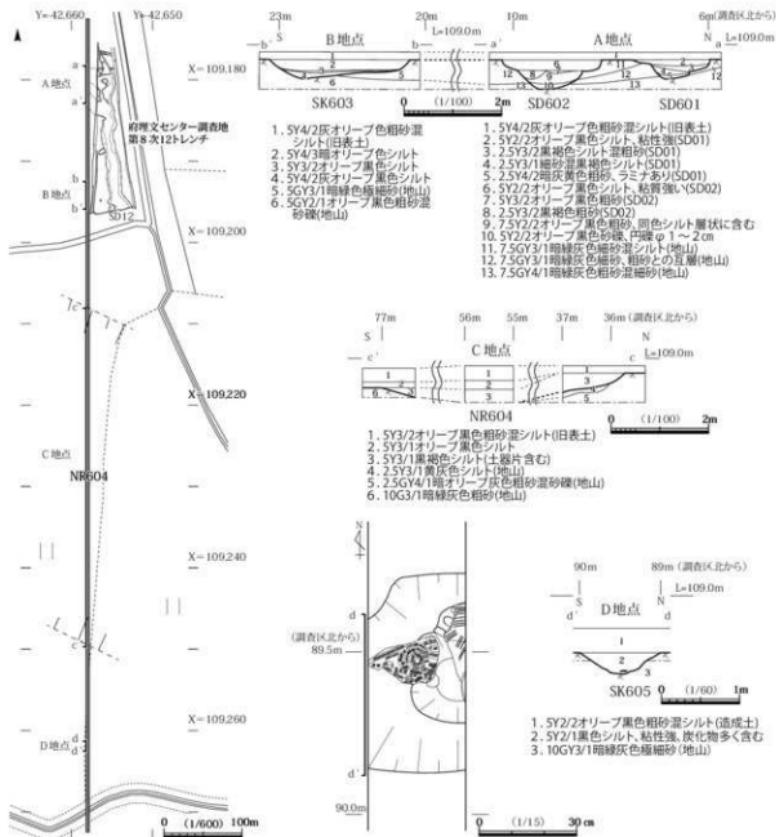


第26図 調査区2・3・4断面図(1/40)



第27図 調査区5の位置と南壁断面図(1/1,000, 1/100)

今回検出のSD 601・602が合流したのがSD 12である可能性が高い。SD 601・602からは土器と須恵器の小片を検出した。土坑SK 603はB地点で検出した。長さ約2.9m、深さ約0.4mである。調査区東西壁の観察から調査区東側までは統かない。出土遺物はない。自然流路N R 604は、調査区の中央部のC地点で検出した。調査区北から36m及び77mの地点で肩を確認できた。幅は約41m、深さは不明である。幅からみて人工とは考えにくく、自然の河川である可能性が高い。土坑SK 605は、調査区の南端近くのD地点で検出した。南北長0.6m以上、深さ約0.3mである。土坑の中層から2個体分の縄文土器が出土した。縄文土器は中期末のものであり、中期末の確実な構造に伴う縄文土器

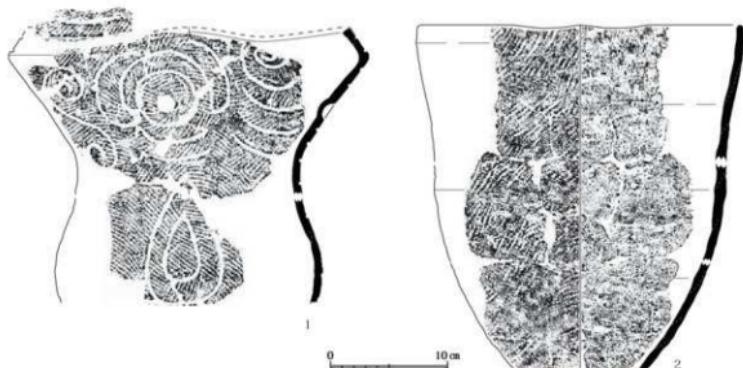


第28図 調査区6の位置、各地点の平面・断面図

は佐伯遺跡で初めての事例である。

調査区7 地表面から約0.7mまで掘削を行ったが、表土直下で青灰色シルトの安定面を確認したが、遺構・遺物は確認できなかった。無遺物であることから、安定面は地山と判断した。

調査区8 地表面から約0.5mまで掘削を行い、4箇所で遺構を検出した。調査区の大半で安定面が露出しており、安定面以下は無遺物であることから安定面以下は地山と判断した。いずれの遺構もこの安定面から掘削している。A地点では土坑SK801・802を検出し、B地点では柱穴SP803、C地点では柱穴SP804、D地点で柱穴SP805を検出した。SK801は幅約1.5m、深さ約0.3m、SK802は幅約1.0m、深さ約0.3mである。SP803・804はいずれも幅約0.7m、深さ約0.3mである。SP804は、幅約0.7m、深さ約0.3mである。いずれの遺構も出土遺物はなく、時期は不明である。



第29図 調査区6出土遺物実測図(1/4)

調査区9 地表面から約0.3mまで掘削を行い、1箇所で遺構を検出した。表土直下で調査区全面にわたって安定面を検出した。安定面以下は河川由来の砂礫や自然木が多く含むが、無遺物であることから安定面以下は地山と判断した。A地点で検出した溝SD901は、南東から北西に流れる溝である。幅約0.7m、深さ約0.2mである。地形の傾斜に直交することから人工の溝と判断できるが、出土遺物がなく時期は不明である。

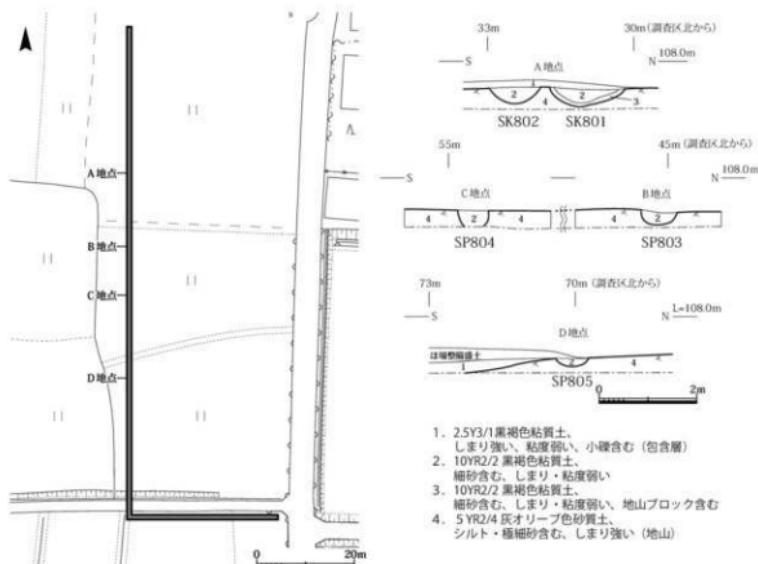
(2) 出土遺物 (第29図)

整理箱3箱分の遺物が出土したが、図化可能なのは調査区6出土の縄文土器に限られる。

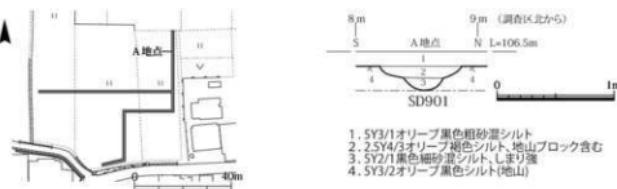
1は縄文土器の深鉢である。外面にはスヌが付着する。キャリバー形の口縁部をもち、残存部の状況から波状口縁となる可能性がある。内面はナデ調整、外面全面に文様と縄文を施す。口縁部には2条の沈線とその間に縄文を充填する。口縁部下位には左にS字文、中央に複雑な円形文、右に渦巻文と連弧文を施す。円形文の詳細は、中心を内側に窪ませ、周間に円形文を施す。さらに外側上半にC字文、下半は連弧文とする。円形文の下位には涙滴形の区画文を施す。縄文は文様の施工後に施しており、特に円形文部分には中央の窪みを中心として放射状に縄文を施す。文様構成と形態から、深鉢A3類であり、縄文時代中期末の北白川C式4期に位置付けることができる。⁽²²⁾ 2は縄文土器の深鉢である。外面にはスヌが付着する。わずかにくびれをもち、内面はナデ調整、外面は縄文を施す。口縁端部にも縄文を施す。

3 おわりに

今回の調査は、限られた面積の調査であったが、重要な成果を上げることができた。中でも調査区6で出土した縄文時代中期の土器は、先述のように佐伯遺跡で初めての縄文時代中期の遺構に伴う遺物である。亀岡盆地全体でみても、完形に近い形の土器が明確な遺構から出土したのは、大堀川左岸

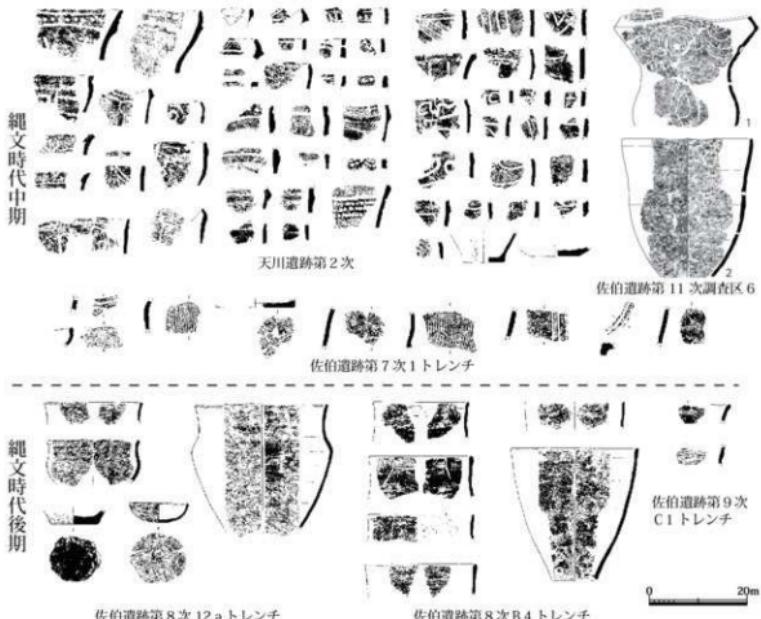


第30図 調査区8の位置と西壁断面図 (1/1,000, 1/100)



第31図 調査区9の位置とSD901断面図 (1/2,000, 1/40)

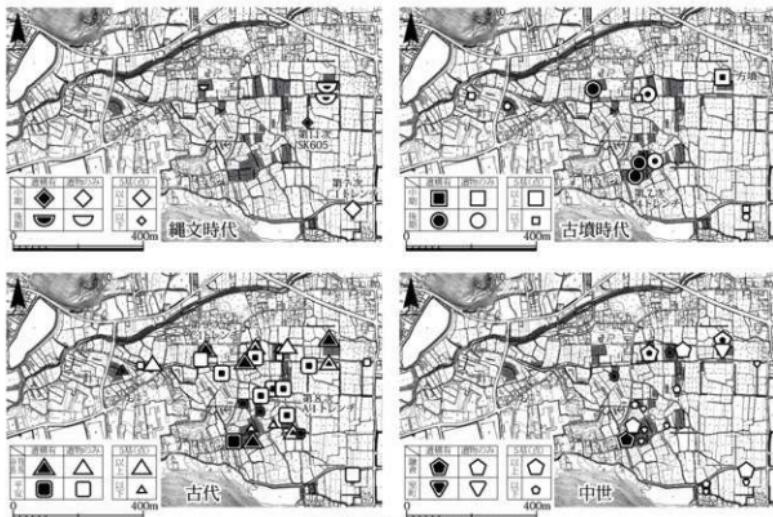
にある時塚遺跡第6次調査の土坑出土例に次ぐ事例である。そこで、佐伯遺跡でこれまでに出土した縄文土器と、本遺跡に隣接する天川遺跡の自然河川から出土した縄文土器と合わせて比較する（第32図）。なお、天川遺跡出土の縄文土器は北白川C式に位置付けられる資料であり、亀岡盆地では最もまとまった縄文時代中期の資料である。ただし、自然河川からの出土のため細片が多く、文様構成の全体が分かれる資料も少ない。それでも、渦巻文やキャリバー形の口縁をもつ土器があることは本報告資料と共に通する点であるが、全体の数量から見ると少數派である。佐伯遺跡第7次調査1トレンチ資料は、天川遺跡の資料よりも細片が多く全体像がつかみにくい。それでも、文様をもつ土器の比率が高くないことはわかる。山城地域出土の北白川C式の資料では、本報告資料と類似したものはなく、丹後地域で同時期の平式に類似する。なお、縄文時代後期には佐伯遺跡での出土資料が増え、土器の



第32図 佐伯・天川遺跡出土縄文土器(1/10)

全形がわかる資料も増加する。そして、縄文時代中期よりさらに加飾が少なくなる傾向にあることがわかる。

佐伯遺跡におけるは場整備関連の調査報告は今回の報告をもって最終となる。そのため、これまでに明らかとなった時期別の遺構検出地点を示す(第33図)。縄文時代の遺構・遺物は、散発的に見つかっているものの量が少ない。前述のとおり遺物総量は中期よりも後期に多くなる。続く弥生時代はごくわずかな後期の土器が出土しているのみである。次に明確な遺構・遺物が確認できるのは古墳時代中期である。遺跡の北半で方墳などが確認できるが数は少ない。古墳時代後期に入ると、遺構・遺物とも増加し、遺跡の南北に分布が分かれる傾向がみえる。特に第7次調査4トレンチに遺構・遺物とも集中する。続く飛鳥・奈良時代においても引き続き南北に分布が分かれているが、遺物量が増加する傾向にある。佐伯遺跡第9次調査C1トレンチでは掘立柱塀が作られ、円面鏡や瓦塔が出土することから官衙ないし寺院的な要素が強まる。さらに平安時代には、これまで遺構・遺物のなかった府埋文センター第8次A1トレンチのような遺跡の中央部分にも遺構・遺物が広がるようになる。しかし、鎌倉時代には遺構・遺物とも減少していき、室町時代にはさらに減少する。これは、室町時代に現在の集落域へと居住域が移動したためである可能性を考えておきたい。以上のように、今回の調査をはじめとするこれまでの調査によって、佐伯遺跡の様相が明らかになってきた。こうした成果を今



* 図形の大小は、検出遺構数と報告書掲載遺物数を基とする
第33図 佐伯遺跡時期別遺構検出地点 (1/15,000)

後も十分に活かしていく必要がある。

(中居和志)

(注)

- (1) 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 2019「平成27～29年度国営緊急農地整備再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡 佐伯遺跡第7～9次発掘調査報告」「京都府遺跡調査報告集」第178冊
- (2) 泉拓良・家根祥多 1985「中末期縄文土器の分析」「京都大学埋蔵文化財調査報告」Ⅲ 京都大学埋蔵文化財研究センター
- (3) 財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 2008「時塚遺跡6・8・10次」「京都府遺跡調査報告集」第127冊
- (4) 亀岡市教育委員会 2012「天川遺跡第2次発掘調査報告書」
- (5) 柴彥彦 2010「山城地域における北白川C式土器の地域性について」「京都府埋蔵文化財論集」第6集 財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
- (6) 財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 1997「平遺跡発掘調査概報」「京都府遺跡調査概報」第79冊

[2] 矢田遺跡試掘・確認調査（第3次調査）

1 はじめに

矢田遺跡は亀岡市上矢田町、下矢田町にまたがる散布地として周知されてきた遺跡である。近年で

は奈良時代末期から平安時代初期頃の掘立柱建物が見つかり、古代の集落跡が展開する可能性が指摘されている。周囲には医王谷古墳群などの古墳群が形成されており、中世には矢田城跡、矢田館跡などの遺跡が確認されている。

今回の調査は、府道枚方亀岡線の道路拡幅に伴って行われ、平成29年度の第1次調査から3度目の調査となる。調査地は亀岡市下矢田町君塚地内で、調査は平成31年2月18日、同年3月11日から3月14日まで行い、調査面積は113m²である。調査にあたっては、京都府南丹土木事務所の協力を得た。



第34図 矢田遺跡位置図（国土地理院
1/25,000「亀岡・法貴」）

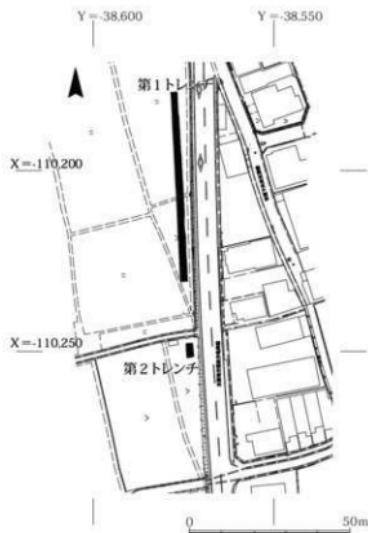
2 調査の成果

(1) 各調査区の概要

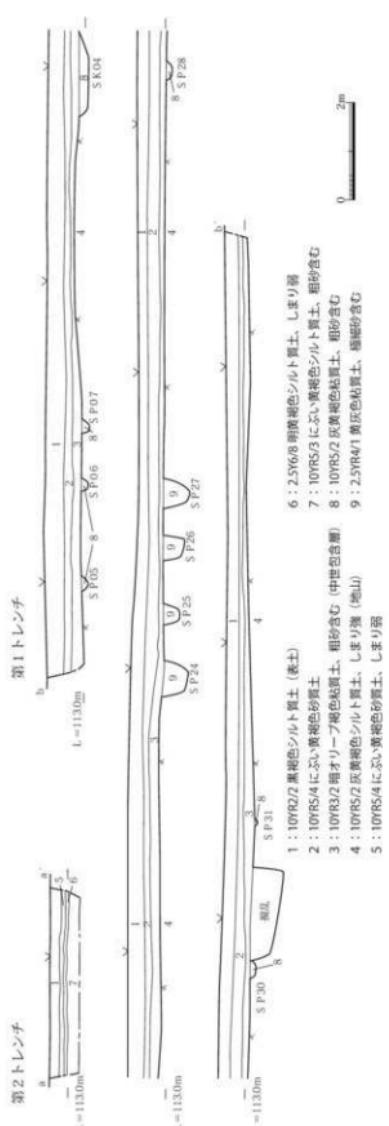
第1トレーンチは地山を含めて、4層に分けられる（第36図）。第1層は表土、第2層は近世の遺物を含む包含層である。第3層は古代から中世の遺物を多く含む包含層である。第4層上面は遺構面であり、柱穴を60基、土坑を2基、溝を1条検出することができた。

柱列S A 01（第37図） 調査区中央で検出した南北に延びる柱穴列である。S P 24・26・27は一辺約0.6～0.8mの平面隅丸方形で、S P 25は一辺約0.4mの平面円形を呈し、深さは約0.3～0.5mを測り、S P 25はやや浅くなっている。柱間はほぼ等間隔で、約1.1～1.2mである。主軸はN-4°-Wである。掘立柱建物跡の可能性はあるが、柱痕跡や柱抜取り痕は検出できなかつた。S P 25からは奈良時代の須恵器が出土しており、遺構の時期を示している。

柱列S A 02（第37図） 調査区中央南よりで検出した南北方向に延びる柱穴列である。調査区内で柱穴4基（SP15・16・17・18）を検出した。柱穴は一辺約0.3～0.5mの平面円形を呈しており、深さ0.2～0.3mを測る。柱間は1.1～1.3mである。埋土は灰黄褐色でしまりが弱い。主軸はN-7°-Wである。掘立柱建物の一部である可能性はあるが、S A 01と同様に柱痕跡や柱抜取り痕は検出できなかつた。中世の遺物が出土している。



第35図 矢田遺跡トレーンチ配置図（1/1,500）



第36図 第1・2トレンチ西壁断面図 (1/100)

土坑SK03（第37図） 調査区南端で検出した円形の土坑である。南北幅は1.2m以上ある。断面形状は二箇所深い部分があり、埋土は灰黄褐色粘質土で、しまりが弱い。瓦器碗や土師器が出土しており、遺構の形成時期は鎌倉時代である。

土坑SK04（第37図） 調査区中央南よりで検出した不整形の土坑である。南北幅は1.6m以上ある。断面形状は半円形を呈し、埋土はSK03と同様である。出土遺物も同時期である。

柱穴SP21（第38図） 調査区中央南、SK04の南側に位置する円形の柱穴である。直径0.4m、深さ0.5mを測る。埋土は黒褐色、シルト質土でしまりが強い。柱抜取り痕と掘方が確認できる。また、完形の瓦器碗（第39図18）が出土している。

調査区で検出したその他の柱穴の埋土は灰黄褐色（10YR5/2）粗砂混じり、褐色（10YR5/1）などであった。直径は0.1～0.5m、深さは0.1～0.5mを測る。これらの柱穴からは中世の遺物が出土している。

第2トレンチは表土及び近世の遺物を含む層まで掘削を行った。さらにその下層（第7層）で無遺物で砂層を検出した。第1トレンチで検出した中世包含層は認められず、顯著な遺構・遺物を確認できなかった。

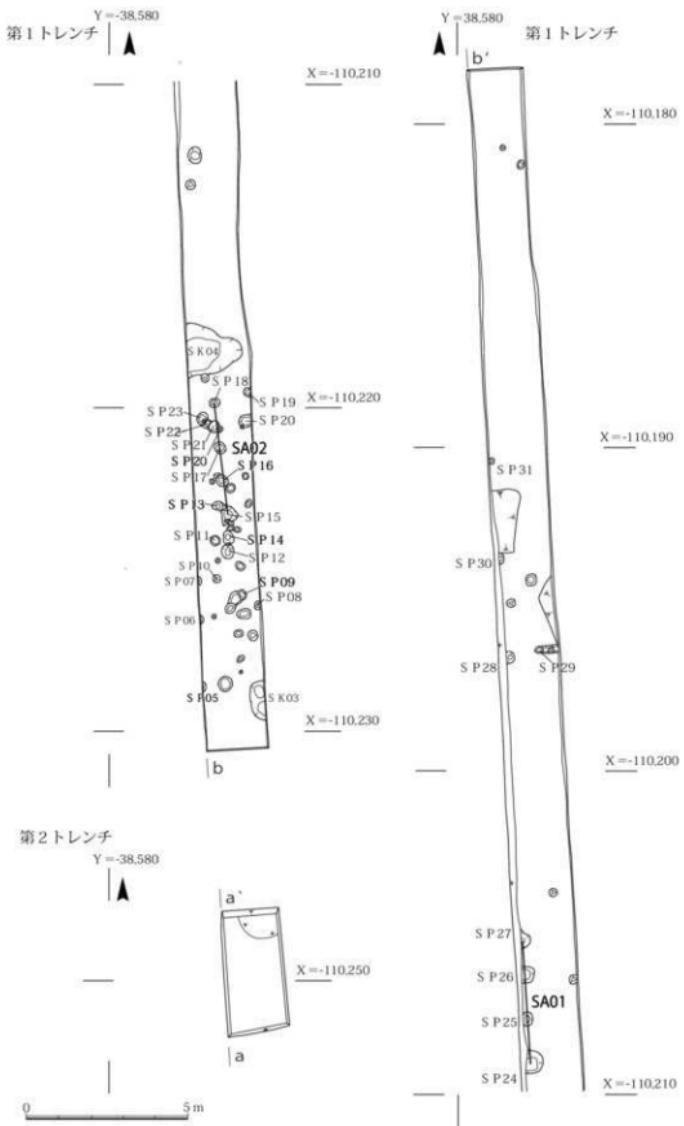
(北山大熙)

(2) 出土遺物（第39図）

今回の調査ではコンテナ2箱分の遺物が出土した。内訳としては、大部分が中世の土器であり、土師器や瓦器がその大半を占める。これに須恵器や磁器が少量含まれる。遺物は細片が多いが、國化できるものを示した。

1～9はSK04から出土した遺物である。

1～4は土師器皿である。いずれも手づくね成



第37図 第1・2トレンチ平面 (1/150)

形であり、口縁部はヨコナデ調整する。5～8は瓦器碗である。底部が残るものには、断面三角形の低い高台が付く。体部は内湾して立ち上がり、口縁部は丸く収める。6は内面にヘラミガキがみられるが、それ以外の個体では摩滅が激しく、明瞭でない。いずれも丹波型瓦器碗である。9は瓦質土器羽釜である。口縁部にはヨコナデが施され、短い羽が付く。

10～14はSK 03から出土した遺物である。10・11は瓦器碗である。いずれも体部が内湾して立ち上がり、端部は丸く収める。10は丹波型瓦器碗とみられる。11には内面にヘラミガキがみられる。12は瓦質土器羽釜である。13は東播系須恵器鉢である。口縁部がやや外反しており、端部は上方に突出する。14は滑石製石鍋の再加工品である。外面には石鑿と思われる工具のケズリ跡が残る。温石などに転用されたと考えられる。

15～18はSP 21から出土した遺物である。15・16は土師器皿である。いずれも手づくねである。15は厚手で小型の皿で、体部が短く立ち上がる。16は口縁部が大きく外反する。17・18は瓦器碗である。17は断面台形の高台が付く。器高に対して口径が大きく、やや扁平である。18は断面三角形の低い高台が付く。体部は内湾して立ち上がり、端部は丸く収める。内面にはヘラミガキがみられ、見込みには鋸歯文の暗文がある。全体にひずみが大きい。

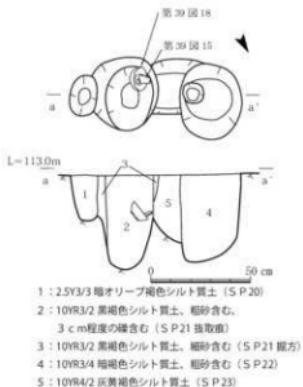
19～34はそのほかの遺構から出土した遺物である。出土遺構については図とともに記載した。19～26は土師器皿である。いずれも手づくねで、口径8cm前後の小皿が多い。27～31は瓦器碗である。いずれも丹波型瓦器碗とみられる。32・33は東播系須恵器鉢である。32は体部が直線的で、口縁端部は上方に延びる。33は口縁端部を丸く収めている。片口が残る。34は須恵器杯Aである。

今回の調査で出土した遺物の年代観は、瓦器碗を中心求めることができる。SK 04から出土した瓦器碗はⅡ期2～3段階とみられることから、13世紀中葉～後半頃の年代観が与えられる。SK 03・SP 21においても、17のように高台に古い要素を残す個体もあるが、10や18がⅡ期3段階になるとみられ、13世紀後半の遺構とみるのが妥当であろう。そのほかの遺構からも、概ねⅡ期2～3段階頃の瓦器碗が出土しており、13世紀中葉～後半の年代観が与えられる。なお、SP 25出土の34のみ奈良時代の遺物である。

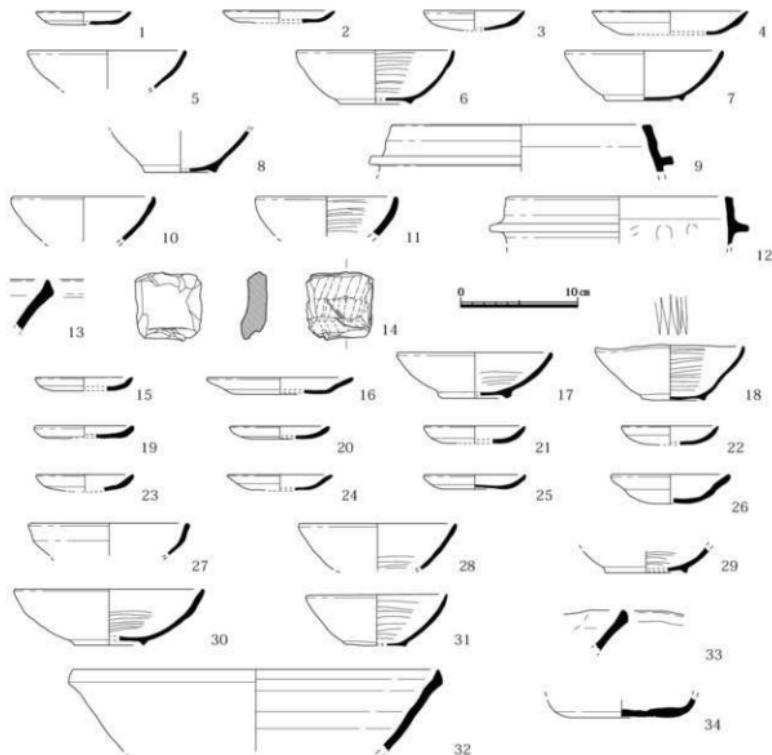
（岡田健吾）

3まとめ

今回の調査では、第1トレンチ全面にわたって、中世包含層（第3層）が確認でき、下層（第4層上面）からは柱列、土坑、柱穴など多くの遺構が検出できた。SA 01からは古代の須恵器が出土しており、第2次調査で検出された古代の掘立柱建物とはほぼ同時期のものであり、広い範囲に古代の集落跡が展



第38図 SP 21 遺物出土状況 (1/25)



1~9 : SK04 出土、10~14 : SK03 出土、15~18 : SP21 出土、19・20 : SP09 出土、

21・26 : SP14 出土、22 : SP16 出土、23・24 : SP19 出土、25 : SP10 出土、27 : SP06 出土、

28 : SP13 出土、29 : SP08 出土、30 : SP17 出土、31 : SP29 出土、32 : SP18 出土、

33 : SP11 出土、34 : SP25 出土

第 39 図 矢田遺跡出土遺物実測図 (1/4)

開していた可能性が高まった。また、鎌倉時代の瓦器や土師器などが柱列や柱穴等から出土した。周辺の丘陵や周辺には矢田城跡や矢田館跡などの中世の遺跡が隣接しており、関連する遺構が広がっていると想定される。今後、これらの成果をもとに地域史の復元に努めていく必要がある。

(北山大熙)

(注)

- (1) 京都府教育委員会 2019「矢田遺跡試掘・確認調査（第2次調査）」「京都府埋蔵文化財調査報告書 平成30年度」
- (2) 伊野近富ほか 1985「亀岡盆地出土の瓦器について」『京都考古』第37号 京都考古刊行会

いぬいだにおおくずれ
〔3〕乾谷大崩遺跡試掘・確認調査（第2次調査）

1 はじめに

乾谷大崩遺跡は、精華町大字乾谷小字大崩に所在する散布地である。今回の調査は、国道163号の拡幅事業に伴って実施した。平成26年度には、同事業に伴い公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターによって発掘調査が行われており、近世の水田跡が検出されている。

調査は平成31年4月8日に実施した。調査面積は16m²である。調査に当たっては、国土交通省近畿地方整備局京都国道事務所の協力を得た。

2 調査の概要

調査対象地内に2m四方のトレンチを4箇所設定した（第41図）。各トレンチで現地表面下1.4m～2.0mまで掘削した。トレンチによって堆積状況には多少の違いはあるが、概ね近似した状況を示している。現地表下0.4～1.2mまでは耕作土がみられ、それ以下では水成堆積が確認された（第41図）。傾向として、国道に近いトレンチでは耕作土が浅く、北側の丘陵に近いトレンチでは耕作土が厚い。トレンチによっては、ラミナ状砂層の堆積が複数層みられることから、洪水などによる流水があったものとみられる。2トレンチでは下層確認のため、現地表下2.8mまで断ち割りを行なったが、シルト質の河川堆積が続くことが確認された。また、各トレンチでは顯著な遺構・遺物は見つからなかった。

3まとめ

今回見つかった河川堆積は調査地の南側を流れる山田川に起因するものとみられ、調査地はその氾濫原にあたっていたとみられる。耕作土については、遺物が出土しなかったため詳細な時期は不明であるが、周辺の調査成果からみて近世以降の所産である可能性が高い。調査地周辺では、北から南に向かって、安定した場所から順に土地利用が行われていったと推測される。

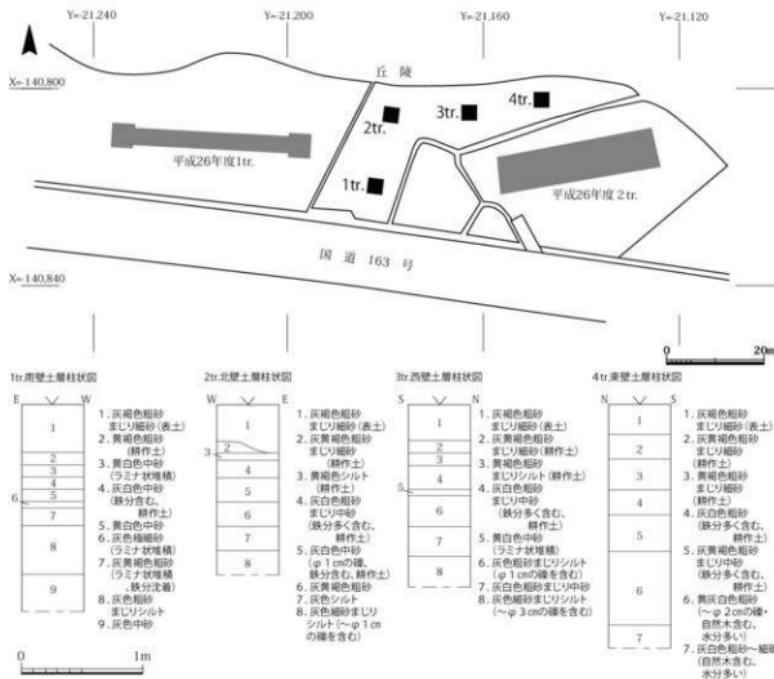
調査の結果、当該地における本発掘調査の必要性ないと判断した。

（岡田健吾）

（注）公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 2016「(2) 乾谷大崩遺跡」『京都府遺跡調査報告集』第165冊



第40図 乾谷大崩遺跡位置図（国土地理院 1/25,000 「奈良」）



第41図 トレーン位置図・土層柱状図 (1/1,000, 1/40)

[4] 中海道遺跡試掘・確認調査（第76次調査）

1 はじめに

中海道遺跡は、向日市物集女町中海道、御所海道ほかに所在し、旧石器時代から近世の集落遺跡で、これまで各機関による発掘調査成果が蓄積されている。今回、京都府乙訓土木事務所が事業を進めている府道西京高槻線の拡幅に伴い、試掘確認調査（中海道遺跡第76次調査）を実施した。調査箇所は、西京高槻線と府道中山稲荷線の交差点北側である。

調査は令和元年6月10日に実施した。調査面積は30m²である。調査にあたっては、京都府乙訓土木事務所の協力を得た。



第42図 中海道遺跡位置図 (国土地理院 1/25,000「京都西南部」)

2 調査の概要

調査トレンチは、2箇所に設定した。北から第1・2トレンチである。

第1トレンチは、表土下0.5mまでが現代盛土（第1・2層）で、遺物を包含する第3層の下に、流路堆積と考えられる第4層を検出した。そして第4層をさらに掘削したところ、トレンチ南端部で地山（第5層）を検出した。第5層の上面を第4層が覆っているため、トレンチのほぼ全面が流路内部に位置すると考えられる。

また、地山の検出状況から、流路の南端がトレンチのすぐ南に位置する可能性が高い。

第2トレンチも第1トレンチとほぼ同様の堆積状況を示すが、流路堆積の検出標高は第1トレンチよりも低い。また、流路上端の検出位置から、流路本体はトレンチ以東に存在すると考えられる。

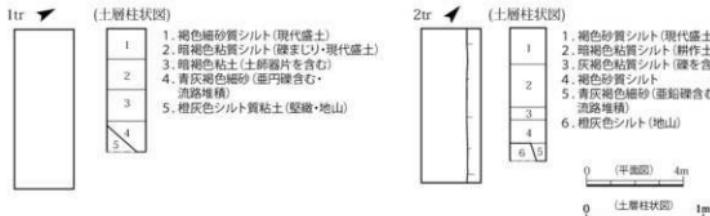
両トレンチで流路堆積を地山まで断ち切ったが、遺物は出土しなかった。したがって、流路の時期は不明である。

3 まとめ

当調査地点で検出した流路は、現在の西京高槻線と重複する位置を北西から南東に流れていたと考えられる。既往の調査を参照すると、中山稻荷線との交差点南側の第17次調査地では、西京高槻線と並行する古墳時代から中世の遺物を含む溝や、南西から北東に流れる流路が検出されている。当調査地点の流路はいざれかに合流していた可能性がある。

（古川 匠）

（注）財團法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 1990「中海道遺跡第17次」「京都府遺跡調査概報」第39冊



第44図 中海道遺跡平面図・柱状図 (1/200・1/40)

[5] いざも 出雲遺跡試掘・確認調査（第21次調査）

1 はじめに

出雲遺跡は亀岡市千歳町地内に所在する縄文時代から中世の複合集落と周知されている遺跡である。近年の調査では、平安時代前期の溝や幅6m以上の規模をもつ中世の大溝などが確認されている⁽¹⁾。また、周辺地域の三日市遺跡では丹波国分寺創建瓦の集積遺構が検出されるなど、周辺にも重要な遺跡が所在している。今回、京都府南丹広域振興局が進めているため池（段ノ池）改修に係る工事用進入路の建設に伴い、試掘確認調査を実施した。調査は令和元年10月30日と同年11月5日の2日間で実施し、面積は27m²、調査にあたっては、京都府南丹広域振興局の協力を得た。

2 調査の概要

工事の予定されている地点に3m四方の調査区を2箇所、5m×2mの調査区を1箇所設けた。工事で影響のある地表から約1.3mまで掘削した。すべての調査区において、表土を除去後、0.5~0.6mほどのしまりの弱い、黄褐色の土砂の堆積を検出した。さらに下層よりしまりの弱い、こぶし程度の礫を含むにぶい黄褐色の堆積を確認した。各調査区では、遺物・遺構は確認できなかった。また、各トレンチの堆積層は二次的な移動による堆積層であると判断される。

3 まとめ

今回の試掘確認調査では、出雲遺跡内の東南部に位置する地点に調査区を設定した。各トレンチでは、厚く土砂が堆積しており、遺構面はより深い位置にあることが判明した。今回の施工計画では遺跡に影響はなく、本発掘調査は必要ないと判断した。

(北山大熙)

(注) 公益財團法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 2019『京都府遺跡調査報告集』第179冊



第45図 出雲遺跡位置図（国土地理院）

1/25,000 「亀岡」



第46図 出雲遺跡トレンチ位置図（1/1,000）

[6] 白石浜遺跡試掘・確認調査（第2次調査）

1 はじめに

白石浜遺跡は舞鶴市瀬崎に所在する平安時代の製塩遺跡として周知されている遺跡である。舞鶴瀬崎法面整備土木工事に伴い、試掘確認調査を実施した。調査は令和元年12月3日に実施し、調査面積は12m²、調査にあたっては、近畿中部防衛局の協力を得た。

2 調査の概要

工事の予定されている地点に3m×1mの調査区4箇所を設け、地表から0.9mまで掘削した。すべての調査区において、表土を除去後、厚さ0.3mほどのしまりの弱い浅黄褐色の土砂の堆積を検出した。さらに下層より、しまりの強い茶褐色の安定面を確認した。一部、断ち割ったが、遺物等は確認できず、地山と判断した。各調査区では遺物・遺構を確認できなかった。

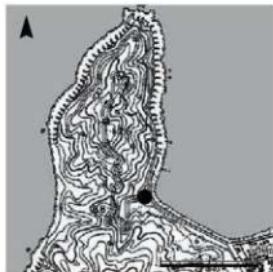
3 まとめ

今回の試掘確認調査は、瀬崎の浜の西側に位置する山の裾部分に調査区を設定し、すべての調査区で土砂の堆積及び地山面を確認できた。遺物・遺構は確認できなかつたものの、旧地形を復元する上で、重要な成果を得ることができた。

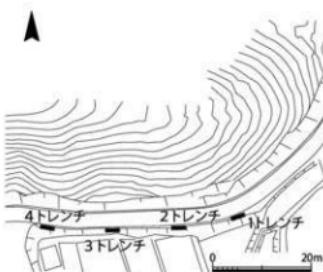
当該地点について本発掘調査は必要ないものと判断した。

(北山大熙)

(注) 舞鶴市の発掘調査によって平安時代の製塩土器などが出土している。



第47図 白石浜遺跡位置図（国土地理院
1/25,000 「丹後由良」）



第48図 白石浜遺跡トレーンチ位置図（1/1,000）

5 平成 30・31 年、令和元年における

埋蔵文化財の発掘

[1] 平成 30・31 年、令和元年の動向

平成 30 年度の京都府内における周知の埋蔵文化財包蔵地の件数は 17,996 件（平成 31 年 4 月 1 日時点）であるが、同年度、包蔵地内において実施される土木・建築工事等に際して提出された文化財保護法第 93・94 条に基づく届出・通知は、付表 5 のとおり 3,691（平成 29 年度：3,139）件であった。これは、前年度と比較すると 552 件増加している（前年度比約 118%）。

このうち、民間の土木・建築工事等に伴う法第 93 条の届出は 3,430（平成 29 年度：2,892）件で、538 件の増加である（前年度比約 119%）。内訳件数は、京都市 1,717 件、乙訓地域 842 件、山城地域 397 件とこの 3 地域が上位を占め、3 地域の届出件数の合計は 2,956 件となり、府内全体の約 86% となる。しかし、今年度は中丹・南丹地域をはじめとする府内全域で増加傾向を示している。特に中丹地域での増加が顕著で、152（平成 29 年度：78）件となっており、前年度の 2 倍近い件数となっている。

一方、公共事業に係る土木・建築工事に伴う法第 94 条の通知は、平成 14 年の 318 件をピークに、平成 20 年度には 177 件とおおむね半減した。平成 24 年度から平成 26 年度にかけては 230 件前後で推移していたが、平成 27 年度に 257 件とわずかながら増加した。平成 28 年度には 236 件と再び減少に転じたが、平成 29 年度は 247 件とわずかながら増加した。平成 30 年度には 261 件となり、昨年度からの増加傾向が維持されている。公共事業の開発規模は大きなものが多く、今後も動向を注視する必要がある。

府内の埋蔵文化財専門職員（公益財団法人調査機関の職員含む）は、平成 7 年の 206 人をピークに市町村合併等により減少傾向にある。平成 31 年 4 月 1 日時点における府内の専門職員の配置数は 149 名（公益財団法人・嘱託職員等含む）であり、配置は 24 市町（組合）のうち 18 市町（組合）で、配置率はおよそ 75% である。専門職員の配置市町（組合）は前年から 1 減となり、精華町が無配置となった。府内全体で専門職員は 3 名減員しており、異動・退職等による減員を回復できておらず、現状で未配置は 6 市町（組合）に及ぶ。当該自治体での埋蔵文化財保護行政を適切に遂行し、保護体制を充実させるためにも新たな人員の配置が喫緊の課題である。

令和元（平成 31）年度は、文化庁の国庫補助を受け、京都府をはじめとして、府内の 18 市町において発掘調査等事業が実施されている。事業内容は、域内の埋蔵文化財の範囲内容を確認する詳細分布調査、開発に対応する緊急発掘調査及び史跡等の保存・整備に伴う調査等である。また、同じく国庫補助事業である地域の特色ある埋蔵文化財活用事業は、京都府、向日市、長岡京市、南丹市において実施された。京都府では、平成 30 年度に引き続き小学校高学年児童を対象に、丹後地域及び乙訓地域の史跡等を当課職員の解説により巡る「文化財 1 day パスツア」を実施した。そのほかに、公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターへの委託事業として、普及啓発事業と出土品再整理事

業を実施した。

今年度は、文化財保護法の前身である史蹟名勝天然紀年物保存法が施行されて 100 年を迎える節目の年であった。文化庁主催の「発掘された日本列島展」でも特別展示がなされるなど、今後の 100 年を見据え、貴重な文化財の保存と適切な活用の両立をいかに行うべきか、認識をあらたにするいい機会となった。本府でも記念物 100 年事業として文化庁事業に参加し、向日市文化資料館、ふるさとミュージアム丹後（京都府立丹後郷土資料館）、ふるさとミュージアム山城（京都府立山城郷土資料館）においてパネル展を実施した。

国の文化審議会では、「文化財の確実な継承に向けたこれからの時代にふさわしい保存と活用の在り方について」において、「少子高齢化・過疎化を背景としてこれまで価値づけが明確でなかった未指定文化財を含めた文化財をまちづくりに活かしつつ、地域社会総がかりで、その継承に取り組んでいくことが重要」との方針が示され、都道府県教育委員会では、文化財の保存及び活用に関する総合的な施策を示す「文化財保存活用大綱」を、市町村教育委員会では、当該区域における文化財の保存及び活用に関する総合的な計画である「文化財保存活用地域計画」を作成することができると定められている。京都府教育委員会においても、府内における適切な文化財の保存と活用が一層推進されることを目的に「京都府文化財保存活用大綱」の策定を進めており、令和 2 年 4 月 1 日から施行する予定である。これは、京都府が文化財の保存と活用のための各種の取組を進めていく上での基盤となるものであるとともに、市町村の策定する「文化財保存活用地域計画」の指針となるものである。

令和元（平成 31）年度から、文化庁と奈良文化財研究所主催による埋蔵文化財専門職員を対象とした文化財マネジメント職員養成研修が実施されている。これは、地域の特色ある文化財の価値や魅力を発見し、それを施策に反映する能力をもった人材育成を目的とし、地方公共団体の埋蔵文化財専門職員等が対象とされている。第 1 回は東京都、第 2 回は京都府において実施され、受講者には、主催者から修了証が付与された。修得した知識等を今後の文化財保護行政に活用することが大いに望まれる。

京都府が設立した公益財團法人京都府埋蔵文化財調査研究センターは、昭和 56 年の設立以来、1,000 件以上の発掘調査を実施し、府内の埋蔵文化財の保存と活用に大きな役割を果たしている。令和元（平成 31）年度は、19 件の発掘調査等を実施した。丹後・中丹地域では国道や府道の新設、砂防施設の整備等に伴う調査を、南丹地域では府道の新設、農林水産省近畿農政局が進める国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」に伴う発掘調査を実施し、それぞれの調査において重要な成果を得ている。また、京都市域では、昨年度に引き続き教育庁の新行政棟及び文化庁移転施設の整備事業に伴い平安京跡で発掘調査が実施されている。山城地域では、府道新設や、国土交通省による国道 24 号寺田拡幅及び西日本高速道路株式会社が進める新名神高速道路建設事業等の大型公共事業に伴う発掘調査を実施しており、多くの成果が得られている。これらの成果については、現地説明会の実施や、ホームページにおける配信、考古学講座の実施などにより広く府民へと還元している。

また、当教育委員会からの委託による「地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」として、以下の事業についても実施した。令和元（平成 31）年度に府内で実施された発掘調査成果の速報展示「発掘

された京都の歴史 2019」及び企画展示「幻の古代寺院」を開催した。8月3日から25日にかけて向日市文化資料館、9月4日から16日にふるさとミュージアム丹後（京都府立丹後郷土資料館）、9月28日から10月14日にふるさとミュージアム山城（京都府立山城郷土資料館）にて巡回展示され、期間中に3,285名の参加を得た。また、体験学習として実施した勾玉づくりや軒丸瓦コースター作成には、合わせて356名の参加が得られた。このほかに、発掘調査成果を府民に広く公開し、活用することを目的に埋蔵文化財セミナーを開催しており、今年度は6月に「丹波の古代寺院を探る！－新たなる寺院発見か！？－」をテーマに亀岡市において、11月には「淀川水系の古墳を考える！－縦体朝の地域有力者たち－」と題して長岡京市で、また令和2年2月には「弥生時代の住宅事情－弥生人の住まいの実像に迫る－」として京都市で計3回実施され、357名の参加を得た。

ふるさとミュージアム山城・丹後（京都府立山城・丹後郷土資料館）においても、府内の発掘調査の成果についての講演会や速報展などを開催している。山城郷土資料館では、4月27日から6月16日まで、企画展「木津川流域の首長墳－最新の調査成果から－」を開催し、木津川流域の古墳から出土した副葬品や埴輪を展示し、最新の研究成果が紹介された。10月26日から12月15日まで、特別展「光秀と幽斎～花開く武将文化～」（丹後郷土資料館連携企画）を開催し、山城地域での文化人と交流に着目した展示がなされた。また、9月22日には、当課の史跡恭仁宮跡保存活用調査と連携し、山城管内の中学生以上を対象に恭仁宮発掘探検隊を実施した。丹後郷土資料館では、9月28日から11月17日まで、企画展「光秀と幽斎～丹波・丹後の攻防と支配～」を開催し、織田信長の命により丹波・丹後に攻め込んだ明智光秀と細川幽斎の攻略戦と、その後の支配の様子を城郭出土資料等からわかりやすく解説する展示がなされた。

（奈良康正）

[2] 府内の主な発掘調査

平成31年1月から令和元年12月にかけて府内で実施された主な発掘調査について、時代ごとに概観する。

①旧石器時代・縄文時代

長岡京市伊賀寺遺跡では、縄文時代中期と後期の集落跡が見つかった。竪穴建物が合計9基検出されたほか、掘り込み状遺構からは縄文土器がまとまって出土した。中期末の集落は南北150m、東西200m以上の範囲に広がっており、一部は後期の集落の範囲と重なっていることが明らかとなった。また、異形石器埋納遺構が検出された。城陽市水主神社東遺跡では、木津川が形成した流路を利用した縄文時代晩期の木組み遺構や杭跡、木道などの遺構が見つかった。水場を利用して木材を加工するなどの機能を持っていたとみられる。周辺からはオニグルミ、トチノキなどの種子やカシなどの加工木が多く出土している。同様の遺構は東日本には類例があるが、西日本では非常に珍しく、注目すべき成果である。京丹後市浜詰遺跡では同志社大学による学術調査が61年ぶりに実施され、縄文時代

中期末から後期初頭の包含層が確認され、縄文土器や石器、動物骨などが出土した。また、旧石器時代末の石器も出土している。

②弥生時代

八幡市美濃山遺跡では、昨年度に引き続き集落の調査が行われ、竪穴建物や溝などの遺構の広がりが確認された。亀岡市余部遺跡では水路3条が検出された。水路からは弥生時代から古代の木製農耕具が多数出土している。舞鶴市満願寺跡では、弥生時代後期の土器が出土した。

③古墳時代

京都市南区唐橋遺跡では、古墳時代後期の竪穴建物3基や柱穴、溝などが見つかった。長岡市伊賀寺遺跡では、古墳時代後期の竪穴建物7基などの遺構が検出された。また、小型彷彿鏡やガラス小玉などの遺物が出土していることが注目される。長岡市長岡京跡右京第1194次調査では、古墳時代の長方形土坑や捉瓶埋納遺構などが見つかっている。城陽市芝山遺跡では、古墳時代中期から後期の竪穴建物1基、円墳4基、方墳2基が見つかった。円墳は直径17～20m、方墳は一辺約10mの規模で、埋葬施設が検出されたものはいずれも木棺直葬であった。円墳の1基からは鉄槍・鉄刀・鉄鎌などが出土した。城陽市史跡久津川車塚古墳では後円部で調査が行われ、三段築造の直径が上段約66m、中段約85.5m、下段約110mの規模になることが発掘調査で明らかとなった。京丹後市史跡銚子山古墳では南西くびれ部で調査が行われ、3段築造のすべての段でくびれが確認され、後円部と前方部の段築のとりつきや各段築の高さなどが明確となった。

④飛鳥・奈良時代

長岡市伊賀寺遺跡で飛鳥時代の竪穴建物3基、掘立柱建物6棟などの遺構が検出された。竪穴建物は平面隅丸方形でいずれも竈を伴っている。集落は南北200m、東西250m以上の範囲に広がる大規模な集落であったと考えられる。木津川市史跡春宮宮跡では、朝堂院を囲む掘立柱塀の北西隅が見つかった。これにより朝堂院北面と西面の規模が確定した。また、北西隅の柱穴のすぐ西側では南北方向の溝が見つかっており、排水に関するものであると考えられる。

⑤長岡京期

京都市伏見区長岡京跡左京第607次調査では、貴族の邸宅とみられる掘立柱建物3棟が見つかった。最大の建物は東西5間、南北2間で2面庇付きの規模である。3棟の建物の配置から、邸宅の正殿と脇殿の関係が考えられ、寝殿造の原型である可能性がある。向日市長岡京跡左京第606次調査では、一条条間北小路の路面及び両側溝が約25mにわたって確認された。側溝の幅は約0.5～0.6m、深さは約0.1～0.2mである。南側溝からは平城宮式軒丸瓦が出土している。左京第608次調査では、左京城で初めて北一条大路の両側溝が確認された。道路幅は24mに復元でき、左京城における条坊復元の定点が得られた。左京第609次調査では、二条条間南小路の路面及び両側溝が見つ

かった。側溝は幅約 1.0 m～1.2 m、深さ約 0.3 m であり、約 4.0 m 分を検出した。過去の周辺の調査でも同様の遺構が見つかっており、これを追認する成果が得られた。左京第 611 次・612 次調査では、一条大路南側溝が見つかった。溝の規模は、第 611 次調査では幅 2.3 m 以上、深さ約 0.4 m を測る。第 612 次調査では幅 2.6～2.7 m 以上、深さ約 0.4 m を測る。それぞれの溝底からは土師器皿 1、2 枚が出土したほか、木簡片や獸骨が出土した。向日市渋川遺跡では、包含層から円面鏡が出土した。周辺に長岡京関連の遺跡が広がっている可能性がある。長岡京市長岡京跡右京第 1180 次調査では、長岡京遷都直前から直後の時期の邸宅跡が見つかった。掘立柱建物 3 棟が見つかっており、いずれも北で西に 8° 振れた方位に向きが揃う。最大の建物は南北 9 間、東西 2 間で 2 面庇付きの規模である。また、柵や溝といった区画施設のほか、井戸や池状遺構などが見つかっている。長岡京の造営に関わった人物の邸宅であった可能性が考えられる。右京第 1194 次調査では、西三坊間東小路の路面及び両側溝が見つかった。東側溝は幅約 1.5 m、深さ約 0.3 m、西側溝は幅約 2.4 m、深さ約 0.8 m でそれぞれ約 15 m 分が検出された。長岡京市乙訓寺では、長岡京期の不整形土坑群が見つかった。土坑群は平面積円形を呈し、3.6 m 間隔で並ぶ。また、20 m 間隔で並ぶ平面隅丸方形の土坑群も検出され、これらは掘立柱建物を構成する遺構である可能性がある。

⑥平安時代

[平安時代前期]

京都市上京区平安宮跡では、内裏回廊跡の調査で切石組の地下水路遺構が見つかった。水路は幅・深さ 0.7 m を測り、約 2 m 分が確認された。側面には切石がはめられ、底面には河原石が敷かれていた。周辺の調査でも過去に同様の遺構が見つかっており、同一遺構であると考えられる。中京区平安京右京二条三坊九町跡では平安時代前期の池跡が見つかった。貴族の邸宅跡と推定される。池は南北 5 m、東西 7 m の規模で、9 世紀後半には廃絶したようである。また、綠釉瓦が出土していることが注目される。南区平安京右京九条二坊四町跡・九条大路跡では、九条大路と羅城跡が初めて確認された。九条大路が見つかったことにより、平安京の四辻の大路の遺構がすべて確認され、平安京の範囲が考古学的に確定した。当初の九条大路は道路幅が約 30 m あり、「延喜式」の規定に基づいて施工されていたことが明らかとなった。また、大路の南側では幅 3 m 高さ 0.15 m の高まりが検出され、羅城の基底部が残存していることが判明した。羅城と大路の間には幅 15 m の大走も確認された。羅城は從来、羅城門周辺にのみ築かれていたと考えられていたが、想定よりも長く施工されていたことが明らかとなつた。南区史跡西寺跡では、講堂跡と塔跡で調査が行われた。講堂跡では基壇が検出され、礎石や地覆座、唐居敷などが良好な状態で出土した。また、焼土層が見つかり、永祚 2 年（990）の焼亡の状況を示していると考えられる。西寺跡の講堂は東寺の講堂と朱雀大路を軸に対称の場所に造られていることが明らかとなったが、柱間や建物規模は東寺のものとは異なることも判明した。一方、史跡指定地外の塔跡推定地では壇地業が 12 箇所見つかった。地業は直径 2 m あり、基盤の目状に 1 m 間隔で並んでいた塔の可能性がある。近くでは鉄造関係の遺構も見つかった。北区北野麻寺では、9 世紀代の遺物を多量に含む土取坑が見つかった。出土遺物には、二彩壺、灰釉と綠釉の多口瓶、淨瓶、

土師器や多量の瓦が含まれる。軒瓦は從来出土している北野庵寺のものと同型式である。

〔平安時代中期〕

京都市上京区公家町遺跡では瓦の集積遺構が見つかった。瓦には被熱の痕跡があるものが多く、火災に遭ったものと考えられる。法成寺所用と考えられる縁軸丸瓦や平等院と同型式の軒平瓦が含まれており、藤原氏との関係が想定される。上京区平安京左京一条三坊三町跡では、近衛大路と考えられる路面が検出された。また、11世紀後葉の土師器皿と共に伴して柄穴を持つ礎石状の石材が4点出土した。平安宮内から持ち込まれたものである可能性がある。北区平安京右京一条二坊十六町跡では、平安時代中期の土御門大路の南側溝や横列が見つかったほか、土坑から二彩陶器多口瓶が出土した。二彩陶器多口瓶は出土の類例が少なく貴重なものである。東山区六波羅政序跡では、平安時代中期の墓跡7基が見つかり、笠塔婆3基が出土した。笠塔婆は国内最古級のもので、最大のものは高さ推定1.8mある。鳥辺野の葬送地に関連するものであると考えられる。

〔平安時代後期〕

京都市中京区平安京左京四条四坊一町跡では、平安時代後期の高倉小路西側溝やそれに伴う堀、門が見つかった。中級貴族の邸宅に伴うものであると考えられる。また、室町時代後期には高倉小路側溝が下京惣構の堀へと造り替えられていることが確認された。中京区平安京右京二条二坊十二町跡では、平安時代末期の野寺小路東側溝や掘立柱建物群などが見つかった。南区平安京左京八条二坊五町跡では、平安時代後期の池跡が見つかった。池は幅12m×11m、深さ0.3mを測る。12世紀後半に構築され、12世紀末には埋没したとみられる。存続期間から平重盛の小松邸に伴うものであると考えられる。また、池の中からは泉の可能性がある土坑が検出されている。東山区六波羅政序跡では、平安時代後期の堀が見つかった。これまで実態がほとんど不明であった平家の屋敷の一部である可能性が考えられる。堀は東西15m、上幅3m、下幅18m、深さ1.3mの逆台形で、南側に幅1.5mの土塁が伴う。さらに、土留めの石垣も見つかっており、白磁などの陶磁器も十数点出土している。左京区白河街区跡では、平安時代後期の園池遺構や南北溝、鎌倉時代から室町時代の東西溝、南北溝などが見つかった。池は12世紀前半に谷を埋めて造られており、その後改修されている。改修後には規模を縮小するが、景石を伴った園地となり、12世紀末には埋没する。南北溝は街路側溝になる可能性が考えられる。

⑦鎌倉時代・室町時代

京都市南区平安京左京八条二坊五町跡では、鎌倉時代前半から中頃と室町時代後半の土坑、井戸、溝等の遺構が見つかり、調査地に所在した戒光寺に関連するものであると考えられる。また、猪熊小路の東側溝とみられる南北溝も見つかっている。向日市久々相遺跡では、鎌倉時代とみられる里道遺構と桶型容器埋納遺構2基が見つかった。うち、1基からは中国銭5枚が出土しており、祭祀に関連する遺構であるとみられる。向日市長岡京跡左京第606次調査では、巨礫や瓦器塊が出土した中世

の土器埋納遺構が見つかっている。長岡京市乙訓寺では、中世の乙訓寺に関わる区画溝や掘立柱建物が見つかった。亀岡市大銅遺跡では、鎌倉時代後期から南北朝時代の巨大な堀を持つ方形居館が見つかった。居館には2つの区画があり、周囲を堀や崖で区画する。堀は最大で幅8m、深さ2mある。当該期の大規模な居館の構造が判明した事例として貴重な成果である。また、中国製の縁軸陶器や白磁が出土していることも注目される。亀岡市金生寺遺跡では、鎌倉時代の掘立柱建物4棟が見つかった。土師器や瓦器碗が出土しており、当時の一般的な集落であるとみられる。亀岡市余部遺跡では、鎌倉時代の溝が見つかり瓦器碗などが出土した。福知山市本庄遺跡では2条の溝が検出され、土師器や瓦器が多量に出土した。舞鶴市満願寺跡では、鎌倉時代と室町時代の礎石建物3棟や焼土層、石組溝などを見つかった。最も古い建物は鎌倉時代初期のもので、創建期満願寺に関わるものであるとみられる。次の段階の建物は南北5間以上×東西9間以上の大規模なものである。また、出土遺物には白磁水注などの優品が含まれており注目される。京丹後市丹波丸山古墳群では、石積みの経塚が見つかった。中からは須恵器の甕を用いた経筒外容器が出土したが、腐食のためか、内容物は確認されなかった。

⑧ 戦国時代

京都市上京区平安京左京一条三坊三町跡では、戦国時代の堀が3条見つかった。下京区妙満寺の構え跡では、井戸や柱穴などの遺構が見つかり、輸入陶磁器や瓦、敷壇などが出土した。妙満寺に関連するものであると考えられる。伏見区指月城跡では本丸を囲む内堀跡で調査が行われ、堀の幅は約30mに及ぶ可能性が高いことがわかった。調査では深さ3.4m以上の造成土の堆積が確認され、大規模な造成が行われていることが明らかとなった。木津川市上津遺跡では、御靈神社境内の調査において、瓦をL字状に敷いた遺構や土師器皿の集積遺構などが見つかった。

⑨ 近世

京都市上京区公家町遺跡では、天明大火の焼土層が確認されたほか、地下式通路の遺構が見つかった。また、禁裏御用品が出土しており、公家屋敷に関連するものであると考えられる。向日市近世向日町遺跡では、江戸時代の町屋「富永屋」の基礎地業を検出した。白色小疋混じりの赤褐色土の埋土を硬く叩き締めており、建物に接する部分では厚さ0.4mの整地がされていることが明らかとなつた。

(岡田健吾)

付表4 平成30年度埋蔵文化財専門職員及び埋蔵文化財包蔵地数市町村別一覧

(平成31年4月1日現在)

年度等 市町村	28				29				30				周知の 埋蔵文化財 包蔵地
	職員	嘱託	財団職員	小計	職員	嘱託	財団職員	小計	職員	嘱託	財団職員	小計	
京都府	9		32	41	10		28	38	10		28	38	
京都市	12		37	49	12		45	57	12		45	57	1,387
丹後市	3			3	4			4	4			4	6,242
				0				0				0	19
	伊根町												
	与謝野町	1	1		2	1	1		2	1	1		2
中丹	宮津市	2			2	3			3	3			3
	舞鶴市	2			2	2	1		3	2	1		3
	福知山市	3			3	3			3	2			2
	綾部市	1			1	1			1	1			1
南丹	亀岡市	2	1		3	2	1		3	2	1		3
	南丹市	1			1	1			1	1			1
	京丹波町				0				0				0
	向日市	1	1	5	7	1		5	6	1		5	6
乙訓	長岡京市	3	1	5	9	2	1	7	10	2	1	7	10
	大山崎町	2			2	2			2	2			2
	宇治市	4	3		7	4	3		7	4	3		7
	久御山町		1		1				0				0
山城	城陽市	2			2	2			2	1			1
	八幡市	1	2		3	1	1		2	1	1		2
	京田辺市	1			1	1			1	1			1
	宇治田原町				0				0				0
城	井手町		1		1		1		1		1		1
	木津川市	3	1		4	3	2		5	3	2		5
	精華町	1			1		1		1		0		105
	和束町				0				0				23
南山城村	笠置町				0				0				7
	南山城村				0				0				10
合計	54	12	79	145	55	12	85	152	53	11	85	149	17,996

※周知の埋蔵文化財包蔵地の件数については、公開された遺跡地図により把握したものである。

※各市町村欄には、市町村単位での周知の埋蔵文化財包蔵地数を示し、合計欄にその総計を示している。

※埋蔵文化財専門職員とは埋蔵文化財に関する専門的な知識や経験をもって、埋蔵文化財行政に係る職務に従事するものを示している。

付表 5 平成 30 年度埋蔵文化財関係届出・通知件数市町村別一覧

市町村	土木工事による発掘			埋蔵文化財発掘調査			文化財認定	
	届出	通知	計	届出	報告	計		
丹後	京丹後市	17	7 (2)	24 (2)	5	3	7	8
	宮津市	2	2	4	0	1	1	1
	与謝野町	9 (2)	1	10 (2)	0	4	4	1
	伊根町	0	0	0	0	0	0	0
	小計	28 (2)	10 (2)	38 (4)	5	8	12	10
中丹	舞鶴市	35 (4)	4	39 (4)	1	7	7	2
	福知山市	96 (11)	23 (7)	119 (18)	0	10	10	2
	綾部市	21	4 (1)	25 (1)	0	1	0	0
	小計	152 (15)	31 (8)	183 (23)	1	18	17	4
	亀岡市	238 (25)	3 (2)	241 (27)	2	6	6	2
南丹	南丹市	51	1	52	0	2	2	0
	京丹波町	5	0	5	0	0	0	0
	小計	294 (25)	4 (2)	298 (27)	2	8	8	2
乙調	向日市	287 (6)	25 (2)	312 (8)	9	0	9	10
	長岡京市	406 (25)	38 (3)	444 (28)	15	0	15	14
	大山崎町	149 (8)	4	153 (8)	0	6	6	3
	小計	842 (39)	67 (5)	909 (44)	24	6	30	27
	宇治市	105 (13)	12 (1)	117 (14)	0	3	3	6
山城	久御山町	10 (1)	0	10 (1)	0	1	1	0
	城陽市	46 (2)	0	46 (2)	5	4	9	10
	八幡市	79 (5)	7	66 (5)	3	4	7	2
	京田辺市	69 (16)	5	74 (16)	0	0	0	0
	宇治田原町	5 (1)	0	5 (1)	1	0	1	0
	井手町	7	0	7	0	0	0	1
	木津川市	75 (4)	5 (1)	80 (5)	1	9	9	9
	精華町	1	1	2	0	1	1	0
	和束町	0	0	0	0	0	0	0
	笠置町	0	0	0	0	0	0	0
	南山城村	0	0	0	0	0	0	0
	小計	397 (42)	30 (2)	427 (44)	10	21	30	28
京都市		1,717 (194)	119 (25)	1,836 (219)	48	174	220	44
合計		3,430 (317)	261 (44)	3,691 (363)	90	235	317	115

※ () 内は発掘調査を指示した件数である。

付表6 土木工事等による発掘届出・通知件数一覧

地域	年度 27	28			29			30		
		届出	通知	小計	届出	通知	小計	届出	通知	小計
丹後	25	20	9	29	21	5	26	28	10	38
中丹	70	69	15	84	78	28	106	152	31	183
南丹	163	138	6	144	234	5	239	294	4	298
乙調	667	681	52	733	741	73	814	842	67	909
山城	287	259	48	307	317	29	346	397	30	427
京都市	1,371	1,429	106	1,535	1,501	107	1,608	1,717	119	1,836
合計	2,583	2,596	236	2,834	2,892	247	3,139	3,430	261	3,691

付表7 埋蔵文化財発掘調査届出・報告件数一覧

地域	年度 27	28			29			30		
		届出	報告	小計	届出	報告	小計	届出	報告	小計
丹後	5	2	11	13	4	7	11	5	7	12
中丹	8	2	7	9	1	14	15	1	16	17
南丹	2	1	4	5	2	17	19	2	6	8
乙調	39	31	5	36	32	0	32	24	6	30
山城	24	9	19	28	9	17	26	10	20	30
京都市	169	39	137	176	36	128	164	48	172	220
合計	247	84	183	267	84	183	267	90	235	325

付表8 埋蔵文化財認定件数一覧

地域	年度 20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
		14	5	12	3	3	2	3	2	6	8
丹後	7	11	4	2	5	2	7	5	2	13	4
中丹	24	8	7	8	5	6	11	4	4	4	2
南丹	56	42	43	42	38	46	32	46	35	36	27
乙調	30	27	25	25	23	25	21	13	18	26	28
山城	32	98	101	53	61	63	41	39	37	31	44
合計	163	191	192	133	135	144	115	109	102	118	115

付表 9 令和元（平成 31）年度埋蔵文化財国庫補助事業一覧

事業主体	発掘調査等		地域の特色ある埋蔵文化財 活用事業 事業内容等
	事業名	内容等	
京都府	府内調査	各種開発確認、農業基盤整備本調査、保存目的、詳細分布調査等	バスツアー、体験学習、普及啓発紙作成
京都市	市内調査	各種開発確認、個人住宅、零細企業、保存目的、詳細分布調査等	
向日市	市内調査	各種開発確認、個人住宅、保存目的、詳細分布調査等、出土遺物保存処理	体験学習、市民考古学講座、史跡案内、講演会、石室公開
長岡京市	市内調査	各種開発確認、個人農地、保存目的、出土遺物保存処理	体験学習、シンポジウム
大山崎町	町内遺跡	各種開発確認、保存目的	
宇治市	市内遺跡	各種開発確認、保存目的	
城陽市	市内遺跡	各種開発確認、保存目的、出土遺物保存処理	
京田辺市	市内遺跡	各種開発確認、保存目的	
木津川市	市内遺跡	各種開発確認、詳細分布調査等	
井手町	町内遺跡	各種開発確認、保存目的、詳細分布調査等	
亀岡市	市内遺跡	各種開発確認、農業基盤整備本調査、詳細分布調査等	
南丹市	市内遺跡	各種開発確認、保存目的	講演会
京丹波町	町内遺跡	各種開発確認、詳細分布調査等	
綾部市	市内遺跡	保存目的、出土遺物保存処理	
福知山市	市内遺跡	各種開発確認、保存目的	
舞鶴市	市内遺跡	各種開発確認	
宮津市	市内遺跡	各種開発確認、出土遺物保存処理	
京丹後市	市内遺跡	各種開発確認、保存目的	
与謝野町	町内遺跡	各種開発確認、保存目的	

付表10 令和元（平成31）年度（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター委託事業一覧

【発掘調査・委託事業】

番号	遺跡名	所在地	委託者	関連工事名
1	芝山遺跡ほか	城陽市	西日本高速道路株式会社	道路建設事業
2	奥城土遺跡ほか	宇治田原町	西日本高速道路株式会社	道路建設事業
3	小橋尻遺跡ほか	城陽市	西日本高速道路株式会社	道路建設事業
4	美濃山遺跡	八幡市	西日本高速道路株式会社	道路建設事業
5	木津川河床遺跡	八幡市	府流域下水道事務所	水道施設事業
6	犬飼遺跡	亀岡市	府南丹土木事務所	道路建設事業
7	犬飼遺跡ほか	亀岡市	農林水産省近畿農政局	ほ場整備事業
8	水主神社東遺跡ほか	城陽市	国土交通省京都国道事務所	道路建設事業
9	平安京跡	京都府	総務部	施設建設事業
10	満願寺跡	舞鶴市	府中丹東土木事務所	砂防築堤事業
11	岡田国遺跡	木津川市	国土交通省京都国道事務所	道路建設事業
12	上野遺跡	京丹後市	府丹後土木事務所	道路建設事業
13	丹波丸山古墳群ほか	京丹後市	府丹後土木事務所	道路建設事業
14	稚児野遺跡	福知山市	国土交通省福知山河川国道事務所	道路建設事業
15	稻泉遺跡	福知山市	府中丹西土木事務所	道路建設事業
16	川向遺跡ほか	京丹後市	府丹後土木事務所	道路建設事業
17	茶壺藏跡	宇治市	府山城北土木事務所	道路建設事業
18	菖蒲谷口遺跡	舞鶴市	国土交通省福知山河川国道事務所	道路建設事業
19	長岡京跡・開田遺跡	長岡京市	府乙訓土木事務所	道路建設事業
20	出土文化財再整理事業	-	府教育委員会	出土品再整理
21	普及啓発事業	-	府教育委員会	普及啓発事業

【普及啓発】

1 刊行図書

- 「京都府遺跡調査報告書」第 177・178 冊
「京都府埋蔵文化財情報」第 136・137 号
『もっと知りたい 京都の遺跡』第 5・6 号

2 埋蔵文化財セミナー・シンポジウム

- 第 141 回「丹波の古代寺院を探る！－新たな寺院発見か！？－」
令和元年 6 月 15 日（土）於：ガレリアかめおか
浅田洋輔「瓦と瓦塔から見た古代寺院－佐伯遺跡の調査成果を中心に－」
樋口隆久「亀岡盆地における古代寺院建立」
上原真人「丹波国における律令制成立期の寺院－山背国と対比しつつ－」

- 第 142 回「淀川水系の古墳を考える！－繼体朝の地域有力者たち－」

- 令和元年 11 月 9 日（土）於：長岡市立産業文化会館
菅 博絵「京都府南部の墓制－城陽市芝山古墳群の調査成果を中心に－」
堀 真人「古墳時代後期の墓制－近江の繼体朝を中心に－」
今西康宏「中小古墳からみた繼体朝の摂津－三島地域を中心に－」

- 第 143 回「弥生時代の住宅事情－弥生人の住まいの実像に迫る－」

- 令和 2 年 2 月 15 日（土）於：イオンモール KYOTO
中川和哉「弥生時代後期の屋外排水溝を備える竪穴住居－八幡市美濃山遺跡を中心に－」
正岡大実「河内弥生人の住まいに迫る－大阪府八尾南遺跡の竪穴住居－」
若林邦彦「弥生～古墳時代移行期と集落と社会」

3 展覧会・体験講座

- 発掘された京都の歴史 2019 「まぼろしの古代寺院」
令和元年 8 月 5 日～25 日 於：向日市文化資料館
令和元年 9 月 4 日～16 日 於：府立丹後郷土資料館
令和元年 9 月 28 日～10 月 14 日 於：府立山城郷土資料館
夏休み考古学体験教室「幻玉をつくろう」
令和元年 8 月 6 日～8 日 於：公益財團法人京都府埋蔵文化財調査研究センター研修室
向日市まつり「軒丸瓦のコースターをつくろう！」
令和元年 11 月 16・17 日 於：向日市競輪場

4 共同研究

- 面 将道・中川和哉「北部九州における瀬戸内技法の流入時期について」
山本 梢・引原茂治「丹波地域における瓦器碗の地域性」
加藤雄太・上井佐紀「中世丹後の土器・陶磁器」
川上晃生・増田孝彦・小池 寛「美濃山遺跡における竪穴建造物及び出土遺物からみた集
団関係－弥生時代後期を中心として－」

付表11 平成30年度発掘調査報告書等刊行状況

【報告書等】

- ・『京都府埋蔵文化財調査報告書 平成30年度』京都府教育委員会 平成31年3月（恭仁宮跡、女布遺跡、千代川遺跡、余部遺跡、法貴寺古墳群、平安京跡、佐伯遺跡、守町旧城、法成寺跡、宮津城跡、矢田遺跡、岡田国遺跡、満願寺跡、光明寺境内）
- ・『京都府遺跡調査報告集』第177集 公益財團法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 平成31年3月（女布北・女布遺跡、奈具遺跡、阿良須遺跡）
- ・『京都府道跡調査報告集』第178集 公益財團法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 平成31年3月（佐伯遺跡、出雲遺跡、中古墳群、三日市遺跡、車塚遺跡）
- ・『京都市内遺跡発掘調査報告 平成30年度』京都市文化市民局 平成31年3月（平安京右京九条一坊十三町跡、史跡西寺跡、唐橋遺跡、平安京右京九条一坊十二・十三町跡、史跡西寺跡、唐橋遺跡、植物園北遺跡、室町殿跡（花の御所）、上京遺跡、白川街区跡、中臣遺跡、中臣十三塚、伏見城跡、指月城跡、泰長老遺跡）
- ・『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成30年度』京都市文化市民局 平成31年3月（平安京左京四条二坊十二町跡、平安京左京五条二坊七町跡、平安京左京五条三坊三町跡、烏丸小路遺跡。平安京左京六条四坊十五町跡、平安京左京八条二坊十町跡、平安京左京九条一坊十一町跡、史跡教王護国寺境内、平安京右京三条一坊十一町跡、壬生遺跡、平安京右京九条一坊十四町跡、史跡西寺跡、唐橋遺跡、愛宕山遺跡。市名勝有清園庭園及び聚碧園庭園、大原延暦寺別院境内、得長寿院跡、白河街区跡、岡崎遺跡、円勝寺跡、岡崎遺跡、革嶋船跡、山田桜谷古墳群）
- ・『京都市内遺跡調査報告 平成30年度』京都市文化市民局 平成31年3月（平安宮朝堂院跡、聚楽遺跡、平安宮右近衛府跡、鳳堀遺跡。平安京左京北辺三坊七町、八町跡、平安京左京一条三坊十六町跡、公家町遺跡、内膳町遺跡、新在家構え跡、平安京左京一条三坊十五町跡、新在家構え跡、旧二条所跡。平安京左京四条四坊一町跡、烏丸御池遺跡。平安京左京五条三坊十三町跡、烏丸小路遺跡、平安京左京八条二坊一町跡、東市跡、平安京左京九条四坊一町跡、烏丸町道路、御土居跡、平安京右京一条二坊十四町跡、御土居跡、平安京右京七条二坊七町跡、西市跡、衣田町遺跡。史跡賀茂御祖神社境内、一ノ井遺跡、中臣遺跡、伏見城跡）
- ・『平成30年度京都市埋蔵文化財出土遺物文化財指定準備業務報告書 御土居（西九条周辺）出土品』京都市文化市民局 平成31年3月
- ・『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2017-12』公益財團法人京都市埋蔵文化財研究所 平成30年5月（六波羅政府跡、京焼窯跡（井野祝峰窯））
- ・『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2017-13』公益財團法人京都市埋蔵文化財研究所 平成30年7月（平安京右京七条一坊二・四・七、八町跡、御土居跡、堂ノ口町遺跡）
- ・『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2017-14』公益財團法人京都市埋蔵文化財研究所 平成30年7月（長岡京跡、淀城跡）
- ・『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2017-15』公益財團法人京都市埋蔵文化財研究所 平成30年8月（平安京右京三条三坊五町跡）
- ・『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2018-1』公益財團法人京都市埋蔵文化財研究所 平成30年8月（音羽・五条坂窯跡（浅見五郎助窯））
- ・『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2018-2』公益財團法人京都市埋蔵文化財研究所 平成30年8月（伏見城跡）
- ・『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2018-3』公益財團法人京都市埋蔵文化財研究所 平成30年10月（上京遺跡）
- ・『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2018-4』公益財團法人京都市埋蔵文化財研究所 平成30年12月（長岡京左京三条四坊六町跡）
- ・『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2018-5』公益財團法人京都市埋蔵文化財研究所 平成31年2月（大藪遺跡・下久世構跡）
- ・『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2018-6』公益財團法人京都市埋蔵文化財研究所 平成31年3月（周山庵寺）
- ・『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2018-7』公益財團法人京都市埋蔵文化財研究所 平成31年3月（史跡・名勝高台寺庭園）
- ・『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2018-8』公益財團法人京都市埋蔵文化財研究所 平成31年3月（北野庵寺・北野遺跡）
- ・『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2018-9』公益財團法人京都市埋蔵文化財研究所 平成31年3月（平安京右京六条一坊十一・十四町跡）
- ・『イビソク京都市内遺跡調査報告書』第16輯『平安京左京三条四坊十五町跡-龟屋町・上白山町における埋蔵文化財発掘調査報告書-』株式会社イビソク 平成30年8月

- ・『イビソク京都市内遺跡調査報告書』第 17 輯『平安京左京九条四坊三町跡・烏丸町遺跡・東九条南山王町における埋蔵文化財発掘調査報告書』株式会社イビソク 平成 30 年 8 月
- ・『イビソク京都市内遺跡調査報告書』第 18 輯『白河街区跡・聖護院山王町における埋蔵文化財発掘調査報告書』株式会社イビソク 平成 30 年 8 月
- ・『イビソク京都市内遺跡調査報告書』第 19 輯『平安京左京三条三坊十二町跡・烏丸御池遺跡・柿本町における埋蔵文化財発掘調査報告書』イビソク 平成 30 年 8 月
- ・『イビソク京都市内遺跡調査報告書』第 20 輯『平安京右京四条二坊一町跡・壬生上大竹町における埋蔵文化財発掘調査報告書』イビソク 平成 30 年 8 月
- ・『嵯峨遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書』国際文化財株式会社 平成 31 年 3 月
- ・『長岡京左京二条四坊一町跡・東土川遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書』国際文化財株式会社 平成 30 年 8 月
- ・『平安京右京七条一坊四町跡・堂ノ口町跡埋蔵文化財発掘調査報告書』国際文化財株式会社 平成 30 年 12 月
- ・『平安京左京六条二坊二町・南門前町調査』古代文化調査会 平成 28 年 9 月
- ・『平安京左京三条三坊四町・烏丸御池跡・町頭町の調査』古代文化調査会 平成 29 年 3 月
- ・『平安京跡・烏丸丸太町遺跡』古代文化調査会 平成 29 年 4 月
- ・『平安京右京六条四坊七町跡・西京極遺跡』京都市右京区西院月双町 115、114 の一部の発掘調査 株式会社四門 平成 31 年 3 月
- ・『平安京左京四条四坊三町跡』京都市中京区東洞院通蜻葉下る元竹田町 643、645、646、646-1 の発掘調査 株式会社四門 平成 31 年 3 月
- ・『長岡京左京一条四坊七町跡 600 次発掘調査報告書』地域文化財研究所 平成 30 年 12 月
- ・『長岡京跡左京一条三坊十・十一町発掘調査報告書』株式会社文化財サービス 平成 30 年 8 月
- ・『平安京左京二条坊十・十五町(高陽院)跡発掘調査報告書』株式会社文化財サービス 平成 31 年 3 月
- ・『中久世遺跡発掘調査報告書』株式会社文化財サービス 平成 31 年 3 月
- ・『歴史文化研究所発掘調査報告書』第 6 集『上久世遺跡』歴史文化研究所 平成 30 年 3 月
- ・『平安京左京九条三坊九町跡・烏丸町遺跡』公益財團法人元興寺文化財研究所 平成 30 年 3 月
- ・『向日市埋蔵文化財調査報告書』第 110 集『長岡京墨書土器集成』公益財團法人向日市埋蔵文化財センター 平成 31 年 2 月
- ・『向日市埋蔵文化財調査報告書』第 107 集『長岡宮跡・修理式遺跡』公益財團法人向日市埋蔵文化財センター 平成 31 年 3 月
- ・『向日市埋蔵文化財調査報告書』第 112 集『長岡宮跡ほか』公益財團法人向日市埋蔵文化財センター 平成 31 年 3 月
- ・『長岡京市文化財調査報告書』第 73 集『勝龍寺城跡外郭土塁・空堀の調査』公益財團法人長岡京市埋蔵文化財センター 平成 31 年 3 月
- ・『大山崎町埋蔵文化財調査報告書』第 54 集『鳥居前古墳』大山崎町教育委員会 平成 31 年 3 月
- ・『宇治市埋蔵文化財発掘調査報告書』第 91 集『宇治二子山古墳・山本古墳発掘調査報告書』宇治市教育委員会 平成 31 年 3 月
- ・『木津川市内遺跡発掘調査報告書平成 30 年度』木津川市教育委員会 平成 31 年 3 月(木津遺跡、上猶西遺跡、椿井大塚山古墳、吐師遺跡、上津遺跡、木津平城跡)
- ・『亀岡市文化財調査報告書第 96 集「国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡発掘調査; 手手遺跡第 4 次(平成 29 年度); 余部遺跡第 15 次(平成 30 年度)』亀岡市教育委員会 平成 31 年 3 月(手手遺跡、余部遺跡、丹波亀山城跡)
- ・『福知山市文化財調査報告書』第 69 集『福知山市教育委員会 平成 31 年 3 月(猪崎遺跡)』
- ・『市内遺跡発掘調査報告書 平成 30 年度』京丹後市教育委員会 平成 31 年 3 月(女布遺跡、林遺跡、大将軍遺跡)
- ・『舞鶴市文化財調査報告』第 50 集『京都府舞鶴市田畔遺跡第 2 次発掘調査報告書』舞鶴市 平成 31 年 3 月
- ・『舞鶴市文化財調査報告』第 51 集『田辺城跡第 31 次発掘調査報告書』舞鶴市 平成 31 年 3 月
- ・『平成 30 年度与謝野町国庫補助事業発掘調査報告書』与謝野町教育委員会 平成 31 年 3 月(梅谷遺跡、温江遺跡、大鳳呂南墳墓群)

【雑誌等】

- ・『京都府埋蔵文化財情報第 134 号』公益財團法人京都府埋蔵文化財センター 平成 30 年 11 月(『城陽市下水主遺跡から出土した绳文時代晚期の木製品類と自然木の樹種について』(能城 修一・村上 由美子・佐々木 由香・筒井 崇史) / 『京都府亀岡市佐伯遺跡の発掘調査』(村田和弘) / 平成 29 年度発掘調査略報(上野遺跡/阿良須遺跡第 3 次/三日市遺跡第 14 次・草塚遺跡第 12 次/美濃山遺跡第 7 次/水主神社東遺跡第 9 次/芝山遺跡第 17 次 1 地区) / 平成 30 年度発掘調査略報(女

- 布遺跡第9次）長岡跡調査だより・130／センター動向（平成30年2月～平成30年10月）
- ・「京都府埋蔵文化財情報第135号」公益財団法人京都府埋蔵文化財センター 平成31年3月（「近年の京都府の文化財保護行政 一暫定登録文化財を中心にして」（磯野浩光）／「平成29年度京都府内の埋蔵文化財調査」（筒井豊史）／「共同研究平安京における16～17世紀にかけての輸入陶磁器－平安京跡左京一条三坊二町出土の東南アジア陶器－」（篠部侑真・引原茂治・武本典子・田原栄葉）／「資料紹介 平安京左京北辺三坊五町の葵紋の京焼について」（加藤雄太）／平成29年度発掘調査略報（上野遺跡第2次・平遺跡第4次／奈具遺跡第5次／丹波丸山古墳群第3次／春日部遺跡第2次／水主神社東遺跡第11次・小橋尻遺跡第6次／水主神社東遺跡第10次・小橋尻遺跡第7次／芝山遺跡第18・19次（L・M地区）／岡田国遺跡第6次）長岡京跡調査だより・131／センター動向（平成30年11月～平成31年2月）
 - ・「研究紀要」第2号 京都市文化財保護課 平成31年3月（「史跡妙光寺境内調査報告」（馬瀬智光）／「鳴滝藤ノ木古墳調査報告」（熊井亮介）／「近歳における木製品の用材選択」（黒須彌希子）／「愛宕神社境内採集の桃山茶陶」について（西森正晃）／「一字一石大乘妙塔調査報告」（新田和央））
 - ・「長岡京市埋蔵文化財センター年報平成29年度」公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター 平成31年3月（長岡京跡右京第1155次（7 ANGKR - 3地区）・上里遺跡・長岡京跡右京第1156次（7 ANKYR - 7地区）・長岡京跡右京第1157次（7 ANRHK - 14地区）・駒遺跡・長岡京跡右京第1158次（7 ANGTE - 4地区）・上里遺跡・長岡京跡右京第1159次（7 ANKNT - 13地区）・開田遺跡・長岡京跡右京第1161次（7 ANOSZ - 6・OND - 4地区）・長岡京跡右京第1163次（7 ANIKI - 5地区）・今里遺跡・長岡京跡右京第1164次（7 ANKTR - 7地区）・開田遺跡・長岡京跡右京第1166次（7 ANMSA - 2地区）・神足遺跡・開田古墳群・近世勝龍寺城跡・長岡京跡右京第1167次（7 ANGHQ - 1地区）・南栗ヶ塚遺跡・長岡京跡右京第1168次（7 ANGHQ - 2地区）・南栗ヶ塚遺跡・長岡京跡右京第1169次（7 ANQNM - 4地区）・南栗ヶ塚遺跡・久保古墳群・長岡京跡左京第593次（7 ANLZS - 7地区）・馬場遺跡・海印寺跡第5次（7 CKP - DB - 1地区）・奥海印寺遺跡）

【図録等】

- ・「京瓦－生産者の足跡－」『京都市文化財ブックス』第33集 京都市文化市民局 平成31年3月
- ・「発掘された京都の歴史 いにしえの技とデザイン 2018」京都府埋蔵文化財調査研究センター 平成30年8月
- ・「文字のさやき 京都府出土の文字資料」京都府立山城郷土資料館 平成30年10月
- ・「芝・井ノ内古墳群」公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター 平成30年5月

付表 12 平成 30 年度埋蔵文化財発掘調査届出・報告一覧

(92 条に基づく届出)

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
1	美濃山遺跡	八幡市美濃山出島地内	公益財團法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	岩松保・増田孝彦・荒木灑奈・橋本稔	平成 30 年 4 月 9 日～平成 30 年 10 月 12 日
2	上京遺跡	京都市上京区元誓願寺通大宮東入寺今町 510 番、512 番 1	公益財團法人京都市埋蔵文化財研究所	末次由紀恵・モンペティ恭代	平成 30 年 3 月 28 日～平成 30 年 5 月 11 日
3	音羽五条坂窯跡	京都市東山区五条橋東四丁目 450	公益財團法人京都市埋蔵文化財研究所	木下保明	平成 30 年 3 月 26 日～平成 30 年 4 月 13 日
4	平安京跡・烏丸町遺跡	京都市南区東九条上殿田町 48 番	古代文化調査会	家崎孝治	平成 30 年 3 月 30 日～平成 30 年 5 月 18 日
5	長岡京跡・東土川遺跡	京都市南区久世東土川町 366 番 1	国際文化財株式会社	河野凡洋	平成 30 年 4 月 9 日～平成 30 年 5 月 31 日
6	周山庵寺	京都市右京区京北周山町中山 39 番地の 4 (周山中学校)	公益財團法人京都市埋蔵文化財研究所	李銀眞・小檜山一良	平成 30 年 4 月 9 日～平成 30 年 9 月 14 日
7	平安京跡・西京極遺跡	京都市右京区西院町 115、114 の一部	株式会社四門京都支店	千喜良淳	平成 30 年 5 月 7 日～平成 30 年 7 月 6 日
8	伏見城跡	京都市伏見区桃山長岡越中東町 118 番地ほか	公益財團法人京都市埋蔵文化財研究所	松永修平	平成 30 年 4 月 16 日～平成 30 年 4 月 27 日
9	平安京跡	京都市下京区西七条北東野町 90 番地ほか	公益財團法人京都市埋蔵文化財研究所	鈴木康高・南孝雄	平成 30 年 4 月 16 日～平成 30 年 5 月 27 日
10	長岡京跡	京都市伏見区久我原町 9-16、南区久世大藪町 560-1、32・33・615	株式会社地域文化財研究所	影山美智与	平成 30 年 4 月 4 日～平成 30 年 4 月 30 日
11	長岡京跡・森本遺跡・岸ノ下遺跡・辰巳遺跡	向日市寺戸町西野辺 25	公益財團法人向日市埋蔵文化財センター	中島信親	平成 30 年 4 月 16 日～平成 30 年 4 月 27 日
12	春日部遺跡・金生寺遺跡	亀岡市曾我部町春日部、中、法貴、寺	公益財團法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	細川康晴・村田和弘・黒坪一樹・浅田洋輔	平成 30 年 5 月 7 日～平成 30 年 8 月 30 日
13	嵯峨遺跡	京都市右京区嵯峨天龍寺車道町 2 番 1 ほか 5 筒	国際文化財株式会社西日本支店	村尾政人	平成 30 年 4 月 23 日～平成 30 年 8 月 11 日
14	長岡京跡・西小路遺跡	向日市上植野町西小路 10 番の一部、11 番の一部	公益財團法人向日市埋蔵文化財センター	梅本康広・中塚良	平成 30 年 5 月 14 日～平成 30 年 5 月 31 日
15	女布遺跡	京丹後市久美浜町女布小字初岡 829 番 1 ほか	公益財團法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	細川康晴・綾部侑真	平成 30 年 6 月 14 日～平成 30 年 7 月 30 日
16	平安京跡・烏丸町遺跡	京都市南区東九条室町 55 番地	古代文化調査会	小松武彦	平成 30 年 5 月 28 日～平成 30 年 9 月 8 日

京都府埋蔵文化財調査報告書（令和元（平成 31）年度）

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
17	長岡京跡	京都市伏見区久我西出町8番地18ほか	公益財團法人京都市埋蔵文化財研究所	小檜山一良	平成30年6月4日～平成30年8月17日
18	平安京跡・東本願寺前古墓群	京都市下京区七条通新町東入西境町146	関西文化財調査会	平尾政幸	平成30年5月25日～平成30年9月25日
19	長岡京跡	向日市上植野町切ノ口12-3ほか	公益財團法人向日市埋蔵文化財センター	梅本康広	平成30年6月4日～平成30年6月15日
20	長岡京跡・今里遺跡・乙訓寺	長岡京市今里三丁目地内	公益財團法人長岡京市埋蔵文化財センター	福家恭	平成30年6月18日～平成30年7月31日
21	芝山遺跡	城陽市富野中ノ芝地内	公益財團法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	岩松保・石井清司・桐井理揮・菅博絵	平成30年7月9日～平成30年11月29日
22	平安京左京九条四坊二町跡・烏丸町遺跡	京都市南区東九条東山王町1-15ほか	株式会社イビソク関西支店	熊谷洋一	平成30年6月18日～平成30年8月31日
23	六勝寺跡（延勝寺跡）・白河街区跡・岡崎遺跡	京都市左京区岡崎成勝寺町2-1	京都大学文化財総合研究センター	伊藤淳史	平成30年7月17日～平成30年10月17日
24	長岡京跡	京都市南区久世東土川町17-1ほか6筆	株式会社文化財サービス	大西晃靖・辻純一・望月麻佑	平成30年6月7日～平成30年6月30日
25	公家町遺跡	京都市上京区京都御苑15（京都御苑内桂宮邸跡）	公益財團法人京都市埋蔵文化財研究所	田中利津子	平成30年6月4日～平成30年6月29日
26	平安京跡	京都市下京区油小路通下魚ノ棚下る油小路町284、286、317-2	有限会社京都平安文化財	植山茂	平成30年6月26日～平成30年9月30日
27	平安京跡	京都市中京区錦小路通烏丸通東入る元法然寺町691-2	関西文化財調査会	小田桐淳	平成30年7月2日～平成30年9月30日
28	平安京跡・高陽院跡・二条城北遺跡	京都市中京区油小路通丸太町大文字町50ほか	株式会社文化財サービス	辻純一ほか	平成30年7月2日～平成30年10月31日
29	小桶尻遺跡	城陽市富野島垣内地内	公益財團法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	中川和哉・福山博章・橋本稔・武本典子	平成30年7月9日～平成31年1月31日
30	上野遺跡	京丹後市丹後町上野地内	公益財團法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	中川和哉・面将道	平成30年7月16日～平成30年11月30日
31	公家町遺跡	京都市上京区寺町通石薬師下る染殿町665番1	学校法人同志社	浜中邦弘	平成30年8月20日～平成30年8月25日
32	平安京跡	京都市中京区西ノ京勧学院町3、南聖町2	有限会社京都平安文化財	小泉信吾	平成30年8月1日～平成30年9月15日

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
33	岩倉忠在地遺跡	京都市左京区岩倉大鷦町 89	同志社大学歴史資料館	若林邦彦・浜中邦弘	平成 30 年 8 月 27 日～平成 30 年 11 月 26 日
34	平安京跡	京都市中京区堺町通六角下る甲屋町 392 ほか	古代文化調査会	水谷明子	平成 30 年 7 月 23 日～平成 30 年 9 月 22 日
35	奥海印寺遺跡	長岡京市奥海印寺南垣外 7 番 1 ほか	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター	岩崎誠	平成 30 年 8 月 6 日～平成 30 年 8 月 20 日
36	長岡京跡	向日市森本町佃 8、9、10-1	公益財団法人向日市埋蔵文化財センター	中島信親	平成 30 年 8 月 6 日～平成 30 年 8 月 24 日
37	長岡京跡・開田城 ノ内遺跡・十三 遺跡	長岡京市天神一丁目 213-1 ほか	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター	福家恭	平成 30 年 8 月 20 日～平成 30 年 12 月 17 日
38	平安京跡	京都市下京区中堂寺栗田町 90、91、92	公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所	松永修平・木下保明	平成 30 年 7 月 11 日～平成 31 年 3 月 31 日
39	木津川河床遺跡	八幡市八幡池底地内	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	中川和哉・岡崎研一・武本典子	平成 30 年 8 月 27 日～平成 31 年 1 月 30 日
40	長岡京跡・開田 古墳群	長岡京市長岡一丁目 511-3 ほか	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター	湯本整	平成 30 年 9 月 3 日～平成 30 年 9 月 26 日
41	丹波丸山古墳群	京丹後市峰山町丹波	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	細川康晴・竹原一彦	平成 30 年 9 月 10 日～平成 30 年 11 月 15 日
42	岡田国遺跡	木津川市木津馬場南	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	中川和哉・福山博章	平成 30 年 9 月 17 日～平成 30 年 11 月 30 日
43	高陽院跡・平安 京跡・二条城北 遺跡	京都市中京区東堀川 丸太町下る七丁目 5、6-1	合同会社アルケス	持田透・加世田悠仁	平成 30 年 8 月 27 日～平成 30 年 10 月 12 日
44	六勝寺跡(得長 寿院跡)・白河街 区跡・岡崎遺跡	京都市左京区岡崎徳成町 5 番	学校法人京都外国语大学	南博史	平成 30 年 9 月 20 日～平成 30 年 11 月 15 日
45	平安京跡・烏丸 御池遺跡	京都市中京区堺町通 三条上る大阪材木町 696-1、700	株式会社イビソク	石井明日香	平成 30 年 9 月 11 日～平成 31 年 2 月 6 日
46	奈具遺跡・奈具 谷遺跡	京丹後市弥栄町黒部 地内	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	細川康晴・桐井理揮	平成 30 年 9 月 18 日～平成 30 年 11 月 30 日
47	長岡京跡・開田 古墳群	長岡京市長岡一丁目 319-20	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター	原秀樹	平成 30 年 10 月 9 日～平成 30 年 11 月 7 日
48	奥海印寺遺跡	長岡京市奥海印寺野 辺田 18-1、19-1 ほか	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター	山本輝雄	平成 30 年 10 月 1 日～平成 30 年 11 月 14 日
49	長岡京跡・伊賀 寺遺跡	下長岡京市海印寺下 内田、岸ノ下の各一部	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター	岩崎誠・湯本整	平成 30 年 10 月 1 日～令和元年 9 月 5 日

京都府埋蔵文化財調査報告書（令和元（平成 31）年度）

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
50	笠屋遺跡	向日市寺戸町西田中瀬 19 番 2	公益財団法人向日市埋蔵文化財センター	梅本康広	平成 30 年 8 月 30 日～平成 30 年 9 月 7 日
51	笠屋遺跡	向日市寺戸町小畠 8 番 1 の一部	公益財団法人向日市埋蔵文化財センター	中島信親	平成 30 年 9 月 25 日～平成 30 年 10 月 10 日
52	北野庵寺・北野遺跡	京都市北区北野下白梅町 56 番地	公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所	岡田麻衣子	平成 30 年 9 月 25 日～平成 30 年 11 月 22 日
53	寺町旧城・平安京跡	京都市下京区寺町通四条下る貞安前之町 620	古代文化調査会	板谷桃代	平成 30 年 9 月 25 日～平成 30 年 12 月 28 日
54	平安京跡	京都市上京区下長者町通新町西入蔽ノ内町	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	中川和哉・綾部侑真	平成 30 年 10 月 22 日～平成 31 年 2 月 28 日
55	大殿遺跡・下久世構跡	京都市南区久世殿町 526 番地 1	公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所	末次由紀恵	平成 30 年 9 月 10 日～平成 30 年 10 月 24 日
56	平安京跡・堂ノ口町遺跡	京都市下京区朱雀正会町 1 番 30、朱雀堂ノ口町 20 番 4	国際文化財株式会社	河野凡洋	平成 30 年 9 月 10 日～平成 30 年 9 月 28 日
57	春日部遺跡・金生寺遺跡・犬飼遺跡	龜岡市曾我部町寺、法貴、犬飼	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	細川康晴・村田和弘・浅田洋輔・武本典子	平成 30 年 10 月 22 日～平成 31 年 2 月 27 日
58	六波羅政庁跡・法住寺殿跡・方広寺跡	京都市東山区茶屋町 527 京都国立博物館内	公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所	小檜山一良	平成 30 年 10 月 22 日～平成 31 年 2 月 28 日
59	長岡京跡・宝善院院座寺	向日市寺戸町西野 6 番	公益財団法人向日市埋蔵文化財センター	田原葉月	平成 30 年 10 月 25 日～平成 30 年 11 月 1 日
60	植物園北遺跡	京都市左京区下鴨南芝町 30 番地の 1	公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所	布川豊治	平成 30 年 11 月 5 日～平成 30 年 12 月 14 日
61	平遺跡	京丹後市丹後町平	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	中川和哉・面将道・加藤雄太	平成 30 年 11 月 1 日～平成 30 年 12 月 15 日
62	長岡京跡・長法寺七ツ塚古墳群	長岡京市长法寺北島地内	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター	中島哲夫	平成 30 年 11 月 19 日～平成 30 年 12 月 18 日
63	公家町遺跡	京都市上京区寺町通石業師下る染巻町 665 番 1、5	学校法人同志社	浜中邦弘・若林邦彦	平成 30 年 12 月 1 日～平成 31 年 4 月 30 日
64	六波羅政庁跡・音羽五条坂窯跡	京都市東山区五条橋東 4 丁目 450 ほか	株式会社文化財サービス	菅田薫	平成 30 年 11 月 29 日～平成 31 年 3 月 29 日
65	中久世遺跡	京都市南区久世殿町 70 番地	株式会社文化財サービス	辰巳陽一	平成 30 年 12 月 3 日～平成 30 年 12 月 28 日
66	長岡京跡・開田城之内遺跡・十三遺跡	長岡京市天神一丁目 213-1 ほか	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター	福家恭	平成 30 年 11 月 9 日～平成 30 年 12 月 17 日
67	長岡京跡	向日市森本町佃 8、9、10-1	公益財団法人向日市埋蔵文化財センター	中島信親・田原葉月	平成 30 年 12 月 3 日～平成 31 年 3 月 29 日
68	長岡京跡	長岡京市緑が丘 419 番 81、429 番 1	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター	山本輝雄	平成 30 年 12 月 17 日～平成 31 年 1 月 19 日

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
69	長岡京跡	長岡京市梅が丘二丁目 60 番	公益財團法人長岡京市埋蔵文化財センター	中島皆夫	平成 30 年 12 月 4 日～平成 30 年 12 月 28 日
70	長岡京跡	長岡京市天神二丁目 101 - 2 の一部	公益財團法人長岡京市埋蔵文化財センター	原秀樹	平成 30 年 12 月 13 日～平成 30 年 12 月 27 日
71	長岡京跡	長岡京市友岡二丁目 228 - 3, 229 の一部	公益財團法人長岡京市埋蔵文化財センター	原秀樹	平成 31 年 1 月 7 日～平成 31 年 1 月 16 日
72	長岡京跡・今里 遺跡	長岡京市栗生田内 41 番	公益財團法人長岡京市埋蔵文化財センター	福家恭	平成 31 年 1 月 15 日～平成 31 年 3 月 11 日
73	平安京跡・烏丸 綾小路遺跡	京都市下京区烏丸通 松原上る東側因幡堂町 717 ほか	古代文化調査会	上村憲章	平成 31 年 1 月 7 日～平成 31 年 3 月 29 日
74	公家町遺跡	京都市上京区京都御苑 15 (京都御苑内桂宮邸跡)	公益財團法人京都市埋蔵文化財研究所	田中利津子	平成 30 年 12 月 3 日～平成 30 年 12 月 28 日
75	平安京跡・唐橋 遺跡	京都市南区唐橋大宮尻町 22	公益財團法人京都市埋蔵文化財研究所	李銀眞・木下保明	平成 30 年 12 月 3 日～平成 31 年 10 月 31 日
76	長岡京跡	京都市伏見区久我西出町 5 番 15	有限会社京都平安文化財	小泉信吾・小森俊寛	平成 30 年 12 月 6 日～平成 31 年 2 月 28 日
77	平安京跡	京都市中京区西ノ京銅駄町 76 番 1 ほか	古代文化調査会	小松武彦	平成 30 年 12 月 7 日～平成 31 年 1 月 30 日
78	相国寺旧境内・公 家町遺跡	京都市上京区今出川通烏丸東入玄武町 601 番地	学校法人同志社	若林邦彦・浜中邦弘	平成 31 年 1 月 15 日～平成 31 年 1 月 19 日
79	長岡京跡	向日市森本町竹園子 7 番、下町田 8 番・19 番 1	公益財團法人向日市埋蔵文化財センター	梅本康広・中塚良	平成 31 年 1 月 15 日～平成 31 年 3 月 8 日
80	水主神社東遺跡	城陽市寺田大畔	公益財團法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	中川和哉・福山博章	平成 31 年 1 月 15 日～平成 31 年 2 月 28 日
81	満願寺跡	万願寺万願寺家ノ前 ほか	公益財團法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	細川康晴・面将道	平成 31 年 2 月 4 日～平成 31 年 3 月 31 日
82	長岡京跡・開田遺 跡・開田古墳群	長岡京市開田三丁目 115 番	公益財團法人長岡京市埋蔵文化財センター	福家恭	平成 31 年 3 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日
82	平安京跡・烏丸 御池遺跡	京都市中京区高倉三条下る丸屋町 160 番地	公益財團法人京都市埋蔵文化財研究所	松永修平	平成 31 年 3 月 4 日～令和元年 5 月 16 日
84	大覚寺 4 号墳(狐 塚古墳)	京都市右京区嵯峨大覺寺門前堂ノ前町 10 - 1 - 4	龍谷大学	國下多美樹	平成 31 年 2 月 14 日～平成 31 年 3 月 22 日

京都府埋蔵文化財調査報告書（令和元（平成 31）年度）

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
85	芝山遺跡・芝山古墳群	城陽市富野北ノ芝・中ノ芝	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	小池寛・石井清司・菅博絵	平成 31 年 4 月 8 日～令和元年 12 月 27 日
86	小樋尻遺跡	城陽市富野小樋尻・久保田、寺田島垣内地内	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	小池寛・竹村亮仁	平成 31 年 4 月 8 日～令和元年 12 月 17 日
87	白河街区跡	京都市左京区岡崎天王町 26 番 5	株式会社文化財サービス	大西健吾	平成 31 年 3 月 25 日～令和元年 6 月 30 日
88	平安京跡	京都市上京区下立売通新町西入戸ノ内町	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	中川和哉・綾部侑真	平成 31 年 4 月 8 日～令和 2 年 2 月 27 日
89	美濃山遺跡	八幡市美濃山出島地内	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	小池寛・増田孝彦・荒木瀬奈	平成 31 年 4 月 4 日～令和 2 年 2 月 27 日
90	保安塚・長井野塚・奥城土遺跡	宇治田原町郷之口字治山、長井野、禅定寺奥城土	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	小池寛・加藤雅士	平成 31 年 4 月 8 日～令和元年 8 月 9 日

(99 条に基づく報告)

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
1	山科本願寺南殿跡	京都市山科区音羽伊勢宿町 32 番 78	京都市文化市民局	熊井亮介	平成 30 年 3 月 5 日
2	平安京跡	京都市右京区花園寺ノ中町 8	京都市文化市民局	熊井亮介	平成 30 年 3 月 7 日～平成 30 年 3 月 8 日
3	平安京跡	京都市下京区朱雀分木町 80 番地ほか	京都市文化市民局	奥井智子	平成 29 年 2 月 26 日～平成 30 年 2 月 27 日
4	長岡京跡	京都市伏見区久我原町 9-16、京都市南区久世大森町 560-1・32・33・615	京都市文化市民局	奥井智子	平成 30 年 2 月 19 日
5	平安京跡	京都市中京区大宮通鯉小路下る鯉大宮町西側 75 番 1、77 番 1・2	京都市文化市民局	奥井智子	平成 30 年 3 月 9 日
6	嵯峨遺跡・宝幢寺境内	京都市右京区嵯峨北堀町 32 番 3 ほか	京都市文化市民局	鈴木久史	平成 30 年 3 月 12 日～平成 30 年 3 月 13 日
7	中久世遺跡	京都市南区久世殿町 86-5・6・7・8	京都市文化市民局	新田和央	平成 30 年 3 月 26 日
8	嵯峨遺跡	京都市右京区嵯峨小倉山堂ノ前町 6-16、7-1・3	京都市文化市民局	新田和央	平成 30 年 3 月 27 日
9	上柏西遺跡	木津川市上柏鈴轄 1-1	木津川市教育委員会	大坪州一郎	平成 29 年 11 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日
10	馬場遺跡	八幡市八幡馬場 99-7、100-7、102-5、100-4 の一部、104-1 の一部	八幡市教育委員会	小森俊寛	平成 30 年 2 月 13 日～平成 30 年 3 月 30 日
11	木津平城跡・木津遺跡	木津川市木津殿城 149-13 の一部	木津川市教育委員会	大坪州一郎	平成 30 年 2 月 14 日～平成 30 年 3 月 30 日
12	太田地遺跡	福知山市字篠尾小字太田地 14 番 18・25、559 番、560 番	福知山市教育委員会	鷺田紀子	平成 30 年 3 月 29 日～平成 30 年 6 月 30 日
13	觀音芝遺跡	亀岡市篠町篠上中筋 52 番 1	亀岡市教育委員会	飛鳥井拓	平成 30 年 3 月 19 日
14	河原尻遺跡	亀岡市河原林町河原尻東垣内 1-2	亀岡市教育委員会	中澤勝・飛鳥井拓	平成 30 年 3 月 6 日
15	平安京跡・烏丸町遺跡・御土居跡	京都市南区西九条藏王町 11-6・49	京都市文化市民局	清水早織	平成 30 年 3 月 19 日
16	平安京跡・烏丸町遺跡	京都市南区東九条上殿田町 48	京都市文化市民局	清水早織	平成 30 年 3 月 23 日
17	平安京跡	京都市下京区油小路通下魚ノ棚下る油小路町	京都市文化市民局	清水早織	平成 30 年 3 月 20 日
18	平安宮跡・聚楽遺跡	京都市上京区中務町 926	京都市文化市民局	清水早織	平成 30 年 3 月 22 日

京都府埋蔵文化財調査報告書（令和元（平成 31）年度）

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
19	カシヅケ1号墳・ カシヅケ2号墳	南丹市園部町小山東 町カシヅケ地内	南丹市教育委員会	辻健二郎	平成 29年 5月 30日～ 平成 30年 3月 30日
20	原ヶ谷古墳	南丹市園部町小山東 町カシヅケ地内	南丹市教育委員会	辻健二郎	平成 29年 5月 30日～ 平成 30年 3月 30日
21	嵯峨遺跡	京都市右京区嵯峨天 龍寺車道町2番地1 ほか5筆	京都市文化市民局	鈴木久史	平成 30年 3月 14日～ 平成 30年 4月 16日
22	平安京跡・烏丸 町遺跡	京都市南区東九条室 町 55	京都市文化市民局	鈴木久史	平成 30年 4月 5日
23	平安京跡	京都市右京区西京極 北裏町 13	京都市文化市民局	新田和央	平成 30年 3月 28日
24	鹿苑寺（金閣寺） 隣接地	京都市北区衣笠馬場 町 18、19 - 2、20 - 1・2・3	京都市文化市民局	新田和央	平成 30年 3月 29日～ 平成 30年 3月 30日
25	正明寺遺跡	福知山市字正明寺小 字シボラ 1688 - 1 の 一部	福知山市教育委員会	鷺田紀子	平成 30年 4月 19日～ 平成 30年 4月 25日
26	久津川車塚古墳・ 横道遺跡・古宮 遺跡	城陽市平川山道8 - 8・16	城陽市教育委員会	浅井猛宏	平成 30年 4月 16日～ 平成 30年 4月 27日
27	平安京跡	京都市右京区西京極 細田町 5番、5番1・ 2・3	京都市文化市民局	赤松佳奈	平成 30年 4月 12日
28	鳥羽離宮跡	京都市伏見区竹田田 中宮町 43、44番地	京都市文化市民局	赤松佳奈	平成 30年 4月 13日
29	中臣遺跡	京都市山科区勤修寺 西栗栖野町 270	京都市文化市民局	新田和央	平成 30年 4月 23日
30	平安宮跡・鳳瑞 遺跡	京都市左京区御前通 下立売上る天満屋町 312番	京都市文化市民局	鈴木久史	平成 30年 4月 4日
31	如意寺跡	京都市左京区鹿ヶ谷 桜谷町 1 - 1	京都市文化市民局	赤松佳奈	平成 30年 4月 9日
32	平安京跡	京都市南区東山王町 21 - 4、22 - 1、23	京都市文化市民局	赤松佳奈	平成 30年 4月 10日
33	田辺城跡	舞鶴市字北田辺小字 七軒 164 番 6、165 番 3、166 番、166 番 4	舞鶴市	松崎健太	平成 30年 4月 27日
34	田辺城跡	舞鶴市字南田辺小字 南表町 23 番 9	舞鶴市	松崎健太	平成 30年 5月 16日
35	福来遺跡	舞鶴市字福来小字坪 ノ内 927 - 3ほか	舞鶴市	松崎健太	平成 30年 5月 11日
36	平安京跡・西ノ 京遺跡	京都市中京区西ノ京 桑原町 67、京都市右 京区西院金桶町 15 - 4・6	京都市文化市民局	新田和央	平成 30年 4月 27日
37	平安京跡・東本 願寺古墓群	京都市下京区七条新 町東入西堀町 146	京都市文化市民局	清水早織	平成 30年 4月 16日

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
38	一ノ井遺跡	京都市右京区太秦一ノ井町 24-1	京都市文化市民局	清水早織	平成 30 年 4 月 18 日～平成 30 年 4 月 19 日
39	大敷遺跡	京都市南区久世築山町 103-1、104-1、105-1、106-1、597	京都市文化市民局	清水早織	平成 30 年 4 月 20 日
40	長岡京跡	大山崎町大山崎町字円明寺小字西法寺 46 番 2 ほか	大山崎町教育委員会	角早季子	平成 30 年 6 月 1 日～平成 30 年 6 月 30 日
41	芝ヶ原遺跡	城陽市久世芝ヶ原 89-2・3、90-2、91-2	城陽市教育委員会	浅井猛宏	平成 30 年 5 月 23 日～平成 30 年 6 月 29 日
42	平安京跡	京都市下京区朱雀正会町 3-12 ほか	京都市文化市民局	馬瀬智光	平成 30 年 5 月 2 日
43	中臣遺跡	京都市山科区東野舞台町 93-1	京都市文化市民局	馬瀬智光	平成 30 年 5 月 1 日
44	長岡京跡	京都市南区久世東土川町 17 番 1 ほか 6 筆	京都市文化市民局	奥井智子	平成 30 年 5 月 9 日～平成 30 年 5 月 10 日
45	おうせんどう庵寺	京都市伏見区深草谷口町 111 番 20	京都市文化市民局	奥井智子	平成 30 年 5 月 11 日
46	平安京跡	京都市下京区朱雀正会町 1 番 9 ほか	京都市文化市民局	馬瀬智光	平成 30 年 5 月 2 日
47	長岡京跡	京都市伏見区羽束町菱川町 366-1	京都市文化市民局	黒須亜希子	平成 30 年 5 月 21 日
48	長岡京跡・古川城跡	京都市伏見区羽束町古川町 139-2 の一部、140、141、142-3・5、143、143-1・6・7、145-1・3、147 の一部	京都市文化市民局	清水早織	平成 30 年 5 月 16 日～平成 30 年 5 月 17 日
49	土師遺跡	福知山市宇土師小字才ノ木 632 番 1、53	福知山市教育委員会	鷺田紀子	平成 30 年 5 月 7 日～平成 30 年 5 月 31 日
50	平安京跡	京都市中京区錦小路烏丸東入元法然寺町 689 番、687 番	京都市文化市民局	奥井智子	平成 30 年 5 月 18 日
51	平安京跡・本押寺の構え跡	京都市下京区堀川通四条下る四条堀川町 272-5・6、醍醐通四条下る高野堂町 405 の一部、407-1 の一部、409 の一部、415-1・2・3、417	京都市文化市民局	奥井智子	平成 29 年 8 月 1 日～平成 30 年 5 月 28 日
52	平安京跡・寺町旧城	京都市下京区高倉通花屋町下る若松町 434-1、435-1・2、438-1	京都市文化市民局	黒須亜希子	平成 30 年 5 月 24 日～平成 30 年 5 月 25 日

京都府埋蔵文化財調査報告書（令和元（平成 31）年度）

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
53	平安京跡・烏丸 綾小路遺跡	京都市下京区東洞院通高辻下る灯籠町 562 ほか	京都市文化市民局	奥井智子	平成 30 年 6 月 5 日
54	平安京跡・堀川 御池遺跡	京都市中京区大宮通 御池下る三坊大宮町 148 ほか	京都市文化市民局	奥井智子	平成 30 年 6 月 6 日
55	平安京跡	京都市下京区中堂寺南町 131 番地ほか	京都市文化市民局	鈴木久史	平成 30 年 4 月 3 日～ 平成 30 年 5 月 29 日
56	法住寺殿跡	京都市東山区三十三間堂西 657	京都市文化市民局	奥井智子	平成 30 年 6 月 8 日
57	向島城跡	京都市伏見区向島二ノ丸町 9、6-1、 7-1、4-4 の一部	京都市文化市民局	奥井智子	平成 30 年 6 月 18 日
58	御土居跡	京都市北区大宮西臨 台町ほか地内	京都市文化市民局	鈴木久史・清水早穂	平成 30 年 5 月 14 日～ 平成 30 年 6 月 4 日
59	岡田国遺跡	木津川市木津八色	京都府教育委員会	古川匠	平成 30 年 5 月 29 日
60	木津遺跡	木津川市木津池田 6 ほか	木津川市教育委員会	大坪州一郎	平成 30 年 6 月 21 日～ 平成 30 年 6 月 22 日
61	室町殿跡（花の 御所）・上京遺跡	京都市上京区築山北半町 230	京都市文化市民局	熊井亮介	平成 30 年 4 月 9 日～ 平成 30 年 5 月 18 日
62	中臣遺跡	京都市山科区勤修寺東金ヶ崎町 6 番、113 番	京都市文化市民局	熊井亮介	平成 30 年 6 月 13 日
63	常盤柏ノ木古墳群	京都市右京区常盤柏ノ木町 2-2 の一部	京都市文化市民局	熊井亮介	平成 30 年 6 月 15 日
64	平安京跡・烏丸 綾小路遺跡	京都市下京区因幡堂町 717 番、658 番 2	京都市文化市民局	赤松佳奈	平成 30 年 5 月 21 日
65	長岡京跡・円明 寺跡	大山崎町字円明寺小字香田 2 番、6 番、5 番の一部	大山崎町教育委員会	古閑正浩	平成 30 年 7 月 3 日～ 平成 30 年 7 月 31 日
66	女布遺跡	京丹後市久美浜町女布小字黒田 907、 924、925、926 番地	京丹後市教育委員会	岡林峰夫・藤田智子	平成 30 年 7 月 2 日～ 平成 30 年 7 月 13 日
67	平安京跡・西市 跡・衣田町遺跡	京都市下京区西七条石ヶ坪町 16 番、18 番 1	京都市文化市民局	奥井智子	平成 30 年 6 月 20 日
68	平安京跡	京都市中京区堀町通六角下る甲屋町 392 ほか	京都市文化市民局	奥井智子	平成 30 年 6 月 22 日
69	平安京跡	京都市中京区壬生東高田町 1 番 15、20	京都市文化市民局	熊井亮介	平成 30 年 6 月 11 日～ 平成 30 年 6 月 12 日
70	長岡京跡・上里 北ノ町遺跡	京都市西京区大原野上里北ノ町ほか地内	京都市文化市民局	鈴木久史	平成 30 年 5 月 30 日～ 平成 30 年 6 月 1 日
71	下中遺跡・庵我 遺跡	福知山市宇池部 63、64 合番地	福知山市教育委員会	松本学博・鷺田紀子	平成 30 年 7 月 3 日～ 平成 30 年 7 月 31 日
72	算用田遺跡	大山崎町字円明寺小字算用田 6 ほか、小字井尻 23 ほか	大山崎町教育委員会	角早季子	平成 30 年 7 月 11 日～ 平成 30 年 9 月 30 日

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
73	女郎花遺跡	八幡市八幡女郎花 25 番地ほか5筆	八幡市教育委員会	備前知世	平成 30 年 7 月 2 日～ 平成 30 年 7 月 13 日
74	広野遺跡・広野 廃寺	宇治市広野町東裏 111-4	宇治市教育委員会	荒川史・大野 壽子・岡紗佑 里・松村真・ 久後千穂	平成 30 年 5 月 7 日～ 平成 30 年 6 月 22 日
75	梅谷遺跡	与謝野町字三河内 1054 番地、1055 番地	与謝野町教育委員会	白数真也	平成 30 年 5 月 22 日～ 平成 30 年 7 月 31 日
76	平安京跡	京都市下京区西七条 御領町 94	京都市文化市民局	清水早織	平成 30 年 6 月 29 日
77	山科本願寺跡・ 左義長町遺跡	京都市山科区西野離 宮町 39、44-1	京都市文化市民局	清水早織	平成 30 年 6 月 27 日
78	平安京跡	京都市中京区西ノ京 勧学院町 20-2、西 ノ京南聖町 2-2	京都市文化市民局	清水早織	平成 30 年 6 月 26 日
79	吐師遺跡	木津川市吐師松葉 40、41、41-2	木津川市教育委員会	大坪州一郎	平成 30 年 7 月 18 日～ 平成 30 年 9 月 31 日
80	温江遺跡	与謝野町字温江 393 番地 1・2	与謝野町教育委員会	白数真也	平成 30 年 7 月 13 日～ 平成 30 年 7 月 31 日
81	安祥寺下寺跡	京都市山科区御陵平 林町 1 番 49	京都市文化市民局	熊井亮介	平成 30 年 7 月 4 日
82	安祥寺下寺跡	京都市山科区御陵平 林町 1 番 49	京都市文化市民局	熊井亮介	平成 30 年 7 月 4 日
83	淀城跡	京都市伏見区淀木津 川市木津町 186-1	京都市文化市民局	熊井亮介	平成 30 年 7 月 5 日
84	塔遺跡	京都市右京区京北塔 町鷹巣前 42-1 ほか	京都市文化市民局	奥井智子	平成 30 年 7 月 11 日
85	平安京跡	京都市右京区西院西 溝崎町 1、2、3、 13	京都市文化市民局	奥井智子	平成 30 年 7 月 12 日～ 平成 30 年 7 月 13 日
86	平安京跡・高陽 院跡・二条城北 遺跡	京都市中京区堀川通 丸太町下る 7 丁目 5、6-1	京都市文化市民局	清水早織	平成 30 年 6 月 25 日
87	平安京跡・道ノ 口町遺跡	京都市下京区朱雀正 会町 1 番 30、朱雀堂 ノ口町 20 番 4	京都市文化市民局	奥井智子	平成 30 年 7 月 9 日
88	久津川車塚古墳	城陽市平川車塚 1 番 1・2	城陽市教育委員会	浅井猛宏	平成 30 年 7 月 17 日～ 平成 30 年 8 月 31 日
89	女布遺跡	京丹後市久美浜町女 布	京都府教育委員会	北山大熙・川 崎雄一郎	平成 30 年 6 月 25 日～ 平成 31 年 3 月 30 日
90	田辺城跡	舞鶴市字南田辺小字 元本丸 12 番 2・81、 小字元本丸跡 12 番 8、13 番 10、小字元 鉄門 16 番 6・28	舞鶴市	松崎健太	平成 30 年 8 月 1 日～ 平成 30 年 9 月 28 日
91	長岡京跡	京都市伏見区淀植爪 町 197-7、202-2	京都市文化市民局	鈴木久史	平成 30 年 7 月 20 日
92	平安京跡	京都市下京区東之町 ほか地内	京都市文化市民局	鈴木久史	平成 30 年 7 月 18 日

京都府埋蔵文化財調査報告書（令和元（平成 31）年度）

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
93	上里北ノ町遺跡	京都市西京区大原野 上里北ノ町ほか地内	京都市文化市民局	鈴木久史	平成 30 年 7 月 17 日
94	日吉ヶ丘遺跡	与謝野町字明石 2120 番地ほか	与謝野町教育委員会	白数真也	平成 30 年 7 月 19 日～ 平成 30 年 9 月 21 日
95	平安京跡	京都市中京区西ノ京 南聖町 9、10・5・ 6、12、24-4	京都市文化市民局	奥井智子	平成 30 年 7 月 30 日
96	平安京跡・壬生 遺跡	京都市中京区壬生森 町 65	京都市文化市民局	新田和央	平成 30 年 7 月 26 日
97	平安京跡・烏丸 御池遺跡	京都市中京区堀町通 姫小路下る大阪材木 町 700、696-1	京都市文化市民局	新田和央	平成 30 年 7 月 23 日
98	伏見城跡	京都市伏見区桃山町 大蔵 38 番	京都市文化市民局	鈴木久史	平成 29 年 7 月 12 日～ 平成 29 年 8 月 18 日
99	平安京跡	京都市中京区西ノ京 藤ノ木町 12-5 ほか、 西ノ京月輪町 1-1	京都市文化市民局	奥井智子	平成 30 年 8 月 1 日
100	平安京跡	京都市中京区烏丸通 二条上る藤絵屋町 261-1-2	京都市文化市民局	奥井智子	平成 30 年 8 月 3 日
101	音羽五条坂窯跡 (道仙窯)	京都市東山区五条坂 東四丁目 448-3	京都市文化市民局	熊井亮介	平成 30 年 6 月 14 日
102	大蔵遺跡・下久 世横跡	京都市南区久世殿城 町 526-1 の一部	京都市文化市民局	熊井亮介	平成 30 年 7 月 2 日～ 平成 30 年 7 月 27 日
103	太秦馬塚町遺跡	京都市右京区太秦中 筋 12-8・9	京都市文化市民局	黒須亜希子	平成 30 年 8 月 6 日
104	上久世遺跡	京都市南区上久世町 81	京都市文化市民局	黒須亜希子	平成 30 年 8 月 8 日
105	河原尻遺跡	亀岡市河原林町河原 尻東垣内 1-2	亀岡市教育委員会	飛鳥井拓	平成 30 年 7 月 4 日
106	北金岐遺跡・南 金岐遺跡	亀岡市大井町南金岐 尾垣内 9、10、11、 12-1、13、14-1、 15、25	亀岡市教育委員会	飛鳥井拓	平成 30 年 6 月 15 日
107	平安京跡・東市跡	京都市下京区大宮通 木津川市木津屋橋上 る上之町 416、416- 2 の一部	京都市文化市民局	奥井智子	平成 30 年 8 月 10 日
108	平安京跡	京都市下京区朱雀内 烟町 7 番 3・4、40 番地	京都市文化市民局	奥井智子	平成 30 年 8 月 8 日～ 平成 30 年 8 月 27 日
109	植物園北遺跡	京都市左京区下鴨南 芝町 30-1	京都市文化市民局	黒須亜希子	平成 30 年 8 月 9 日
110	得長寿院跡・白 河街区跡・岡崎 遺跡	京都市左京区岡崎德 成町 5	京都市文化市民局	清水早織	平成 30 年 8 月 13 日
111	北野天満宮境内	京都市上京区馬喰町 931 ほか	京都市文化市民局	清水早織	平成 30 年 8 月 14 日

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
112	北野庵寺	京都市北区下白梅町 56	京都市文化市民局	清水早織	平成 30 年 8 月 15 日
113	平安京跡・西京 極遺跡	京都市右京区西院日 照町 105 番	京都市文化市民局	清水早織	平成 30 年 8 月 17 日
114	土師新町遺跡	福知山市土師新町三 丁目 15 番ほか 9 筆	福知山市教育委員会	松本学博・鷺 田紀子	平成 30 年 8 月 28 日～ 平成 30 年 9 月 15 日
115	本堀遺跡	福知山市字堀小字小 谷 1677-2	福知山市教育委員会	山田喜大・鷺 田紀子	平成 30 年 9 月 5 日～ 平成 30 年 9 月 14 日
116	本堀遺跡	福知山市字天田小字 忠左衛門町 375-3・ 4・5・6	福知山市教育委員会	山田喜大・鷺 田紀子	平成 30 年 9 月 11 日～ 平成 30 年 9 月 21 日
117	平安京跡	京都市右京区太秦安 井北御所町 15 番	京都市文化市民局	奥井智子	平成 30 年 9 月 5 日
118	吐師遺跡	木津川市吐師松葉 40 ほか	木津川市教育委員会	大坪州一郎	平成 30 年 8 月 20 日～ 平成 30 年 9 月 14 日
119	平安京跡	京都市中京区西ノ京 中保町 81-1	京都市文化市民局	奥井智子	平成 30 年 9 月 7 日
120	平安京跡	京都市中京区西ノ京 小堀池町 10-1・2	京都市文化市民局	奥井智子	平成 30 年 9 月 3 日
121	平安京跡・烏丸 町遺跡	京都市南区東九条上 御雲町 15-1 ほか	京都市文化市民局	鈴木久史	平成 30 年 8 月 28 日
122	平安京跡・新在 家構え跡・旧二 条城跡	京都市上京区京都御 苑 438-1	京都市文化市民局	鈴木久史	平成 30 年 8 月 27 日
123	御土居跡・寺町 旧城	京都市中京区河原町 通三条上 恵比須町 434 番 1、三条通寺 町東入石橋町 23 番 2 ほか	京都市文化市民局	馬瀬智光	平成 30 年 9 月 10 日
124	乙方遺跡	宇治市宇治乙方面 内、菟道丸山地内	宇治市教育委員会	荒川史・大野 壽子・岡紗佑 里・上坂航・ 松村真・久後 千穂	平成 30 年 9 月 6 日～ 平成 30 年 9 月 28 日
125	平安京跡	京都市北区大将軍坂 田町 21 番 17	京都市文化市民局	清水早織	平成 30 年 9 月 18 日
126	長岡京跡	京都市伏見区羽束東 菱川町 262 番 20 ほか	京都市文化市民局	清水早織	平成 30 年 9 月 20 日
127	大風呂南墳墓群	与謝野町字岩瀧 1421 番地ほか	与謝野町教育委員会	白数真也	平成 30 年 9 月 25 日～ 平成 30 年 11 月 30 日
128	平安京跡	京都市中京区壬生天 池町 21 番の一部、21 番 4 の一部・6、壬 生花井町 1 番、1 番 6	京都市文化市民局	熊井亮介	平成 30 年 9 月 10 日
129	林遺跡・大将軍 遺跡	京丹後市網野町網野 小字林、大将軍	京丹後市教育委員会	岡林峰夫・奥 勇介	平成 30 年 9 月 25 日～ 平成 30 年 9 月 28 日
130	山崎津跡	大山崎町字大山崎小 字立嶋、柳島地内	大山崎町教育委員会	古閑正浩	平成 30 年 9 月 28 日

京都府埋蔵文化財調査報告書（令和元（平成 31）年度）

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
131	伏見城跡・指月城跡・泰長老遺跡	京都市伏見区桃山町泰長老官有地（桃山東台同宿舎）	京都市文化市民局	新田和央	平成 30 年 8 月 20 日～平成 30 年 9 月 28 日
132	平安京跡	京都市下京区麁屋町通高辻下る鏡屋町 221-1 ほか	京都市文化市民局	赤松佳奈	平成 30 年 8 月 23 日～平成 30 年 8 月 24 日
133	平安京跡・烏丸御池遺跡	京都市中京区高倉通三条下る丸屋町 165 ほか	京都市文化市民局	赤松佳奈	平成 30 年 9 月 25 日
134	福西古墳群	西京区大枝南福西町 3 丁目 18 番地 4	京都市文化市民局	赤松佳奈	平成 30 年 9 月 26 日
135	東院跡・長岡京跡	京都市南区久世殿町 309-1・2・310-1・2、311-3	京都市文化市民局	赤松佳奈	平成 30 年 9 月 28 日
136	円宗寺跡	京都市右京区御室芝橋町 1-4、30-4、3、1-3、1-22	京都市文化市民局	熊井亮介	平成 30 年 9 月 11 日
137	平安京跡・堀川御池遺跡	京都市中京区大宮通御池上る市之町 180 番地 1 ほか	京都市文化市民局	熊井亮介	平成 30 年 9 月 14 日
138	隅田口遺跡・女郎花遺跡	八幡市八幡隅田口 80 番 1、81 番、81 番 1・2、82 番、83 番 1、92 番から 97 番、97 番 1、98 番、98 番 1、99 番 6、100 番 1、101 番 1、102 番から 104 番、105 番 1、136 番 3、179 番、180 番、清水井 224・225 番合併、226 番 1・2	八幡市教育委員会	太田喬士	平成 30 年 9 月 25 日～平成 30 年 10 月 29 日
139	平安宮跡・鳳瑞遺跡	京都市上京区御前通下立売上る天満屋町 312 番	京都市文化市民局	清水早織	平成 30 年 5 月 28 日～平成 30 年 6 月 8 日
140	平安京跡・御土居跡	京都市中京区西ノ京北四町地内	京都市文化市民局	赤松佳奈	平成 30 年 8 月 22 日
141	六波羅蜜寺境内・六波羅政府跡	京都市東山区五条通大和大路上る東	京都市文化市民局	奥井智子	平成 30 年 10 月 3 日
142	平安京跡	京都市中京区西ノ京中保町 81-1	京都市文化市民局	奥井智子	平成 30 年 10 月 4 日
143	平安京跡・西寺跡・唐橋遺跡	京都市南区唐橋門脇町 17-7	京都市文化市民局	奥井智子	平成 30 年 10 月 5 日
144	中臣遺跡	京都市山科区東野森野町 45-1	京都市文化市民局	赤松佳奈	平成 30 年 8 月 21 日
145	平安京跡	京都市中京区壬生花井町 3 番地の一部、3-3-4	京都市文化市民局	赤松佳奈	平成 30 年 8 月 20 日

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
146	安国寺遺跡	宮津市字小松 528 番 ほか	宮津市教育委員会	河森一浩・中 谷可奈	平成 30 年 10 月 9 日～ 平成 30 年 12 月 21 日
147	宇治市街遺跡（川 西地区）	宇治市宇治妙楽 160 − 1 番地	宇治市教育委員会	荒川史・大野 壽子・岡紗佑 里・上阪航・ 松村真・久後 千穂	平成 30 年 9 月 6 日～ 平成 30 年 11 月 30 日
148	平安京跡・旧二 条城跡	京都市上京区室町通 出水上の近衛町 44	京都市文化市民局	奥井智子	平成 30 年 10 月 1 日
149	上京遺跡	京都市上京区元誓願 寺通油小路西入仲之 町 463 番 2、東堀川 通今出川下る東入西 今町 38、小川通今 出川下る西入東今町 381 番	京都市文化市民局	熊井亮介	平成 30 年 10 月 12 日
150	平安京跡	京都市右京区西院月 双町 57、58 − 1	京都市文化市民局	熊井亮介	平成 30 年 10 月 9 日～ 平成 30 年 10 月 10 日
151	平安京跡・西寺 跡・唐橋遺跡	京都市南区唐橋門脇 町 8 − 2 の一部	京都市文化市民局	熊井亮介	平成 30 年 10 月 11 日
152	大深町須恵器窯 跡	京都市北区西賀茂南 今原町 104	京都市文化市民局	奥井智子	平成 30 年 10 月 22 日
153	長岡京跡	京都市伏見区羽束師 菱川町 423・427	京都市文化市民局	奥井智子	平成 30 年 10 月 25 日 ～平成 30 年 10 月 26 日
154	上京遺跡	京都市上京区今出川 通室町西入堀出シ町 288、290 − 1・2、 291 − 1・2、292 番、 293 番の一部	京都市文化市民局	奥井智子	平成 30 年 10 月 23 日
155	六波羅政所跡・ 音羽五条坂窯跡	京都市東山区五条橋 東四丁目 450 − 1 ほ か	京都市文化市民局	新田和央	平成 30 年 10 月 15 日 ～平成 30 年 10 月 16 日
156	富ノ森城跡	京都市伏見区横大路 西海道地内	京都市文化市民局	黒須亜希子	平成 30 年 11 月 6 日～ 平成 30 年 11 月 7 日
157	伏見城跡・木幡 の関跡	京都市伏見区桃山紅 雪町 91 − 1、138、 139	京都市文化市民局	黒須亜希子	平成 30 年 11 月 9 日
158	中臣遺跡	京都市山科区柳沢番 所ヶ口町 188、189	京都市文化市民局	黒須亜希子	平成 30 年 11 月 8 日
159	大林遺跡	木津川市加茂町北大 林 37 番 1、52 番、 53 番	木津川市教育委員会	水澤拓志	平成 30 年 11 月 15 日 ～平成 30 年 11 月 16 日
160	平安京跡	京都市右京区太秦安 井柳通町 9 番地の 4 の一部ほか	京都市文化市民局	奥井智子	平成 30 年 11 月 19 日

京都府埋蔵文化財調査報告書（令和元（平成 31）年度）

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
161	平安京跡・西ノ京遺跡	京都市右京区西院春栄町39番地ほか	京都市文化市民局	熊井亮介	平成 30 年 10 月 17 日～平成 30 年 10 月 18 日
162	吐師遺跡	木津川市山城町木津川市上船サチエ 10 番	木津川市教育委員会	大坪州一郎	平成 30 年 11 月 14 日～平成 30 年 11 月 30 日
163	猪崎城跡	福地市山字猪崎小字城山	福知山市教育委員会	鷺田紀子	平成 30 年 11 月 13 日～平成 31 年 1 月 31 日
164	田辺城跡	舞鶴市字北田辺小字三ノ 38-1 ほか	舞鶴市	松崎健太	平成 30 年 11 月 21 日
165	平安京跡	京都市下京区五条通東洞院東入万寿寺寺町 140-2 ほか、同区間之町通五条上る朝妻町 115 ほか	京都市文化市民局	奥井智子	平成 30 年 11 月 21 日
166	中久世遺跡	京都市南区久世殿町 70 番地	京都市文化市民局	熊井亮介	平成 30 年 10 月 19 日
167	平安京跡	京都市下京区西洞院通四条下る妙伝寺町 701 番地	京都市文化市民局	熊井亮介	平成 30 年 11 月 14 日
168	植物園北遺跡	京都市左京区下鴨南芝町 30-1	京都市文化市民局	清水早織	平成 30 年 11 月 5 日～平成 30 年 11 月 21 日
169	鳥谷古墳群	京都市右京区京北下中町鳥谷 6-16・25・26	京都市文化市民局	熊井亮介	平成 30 年 11 月 1 日～平成 30 年 11 月 2 日
170	平安京跡	京都市中京区御幸町筋小路下る下丸屋町 322・325・328・330 ほか	京都市文化市民局	熊井亮介	平成 30 年 11 月 15 日
171	平安京跡・寺町旧城	京都市下京区寺町通四条下る貞安前之町 620	京都市文化市民局	鈴木久史	平成 30 年 8 月 31 日
172	平安京跡・烏丸鞍小路遺跡	京都市下京区妙伝寺 710 ほか	京都市文化市民局	鈴木久史	平成 30 年 11 月 26 日～平成 30 年 11 月 27 日
173	平安京跡	京都市下京区歓喜寺町 13 ほか	京都市文化市民局	鈴木久史	平成 30 年 11 月 28 日～平成 30 年 11 月 29 日
174	平安京跡・西寺跡・橋遺跡	京都市南区唐橋西寺町 11	京都市文化市民局	鈴木久史	平成 30 年 10 月 1 日～平成 30 年 11 月 8 日
175	平安京跡・公家町遺跡・内膳町遺跡・新在家構之跡	京都市上京区京都御苑 3	京都市文化市民局	新田和央・黒須亞希子・奥井智子	平成 29 年 10 月 16 日～平成 30 年 11 月 20 日
176	平安宮跡	京都市上京区西中筋町 10、11、12	京都市文化市民局	黒須亞希子	平成 30 年 12 月 7 日
177	平安京跡	京都市南区八条内田町 65、65-7	京都市文化市民局	黒須亞希子	平成 30 年 12 月 18 日

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
178	平安京跡	京都市右京区西京極 前田町 5 - 1・2・ 8・11	京都市文化市民局	黒須亜希子	平成 30 年 12 月 17 日
179	鎮守庵瓦窯跡	京都市北区西賀茂北 鎮守庵町 135	京都市文化市民局	清水早織	平成 30 年 12 月 14 日
180	音羽五条坂窯跡	京都市東山区五条橋 東六丁目 進行前町 556 番地	京都市文化市民局	清水早織	平成 30 年 12 月 13 日
181	平安京跡・烏丸 綾小路遺跡	京都市下京区綾小路 烏丸西入童侍寺町 171	京都市文化市民局	清水早織	平成 30 年 12 月 10 日
182	平安京跡・烏丸 綾小路遺跡	京都市下京区五条油 小路西入北側小泉町 87、89、90、94 番地	京都市文化市民局	熊井亮介	平成 30 年 12 月 3 日
183	平安京跡	京都市下京区四条通 油小路東入る傘鉢町 50	京都市文化市民局	熊井亮介	平成 30 年 12 月 6 日
184	山科本願寺跡	京都市山科区西野山 階町 37 - 2・6	京都市文化市民局	奥井智子	平成 30 年 12 月 3 日～ 平成 30 年 12 月 27 日
185	中久世遺跡	京都市南区久世中久 世町 2 丁目 103	京都市文化市民局	新田和央	平成 30 年 12 月 25 日 ～平成 30 年 12 月 26 日
186	平安京跡・西院 遺跡	京都市右京区西院高 田町 5、27	京都市文化市民局	新田和央	平成 30 年 12 月 20 日 ～平成 30 年 12 月 28 日
187	平安京跡・壬生 遺跡	京都市中京区西ノ京 小倉町 4 - 53 の一部	京都市文化市民局	熊井亮介	平成 31 年 1 月 8 日
188	鳥羽離宮跡・鳥 羽遺跡	京都市伏見区中島 道町 20	京都市文化市民局	熊井亮介	平成 31 年 1 月 7 日
189	長岡京跡	大山崎町字円明寺小 字横林 15 番 1	大山崎町教育委員会	角早季子	平成 31 年 1 月 21 日～ 平成 31 年 2 月 28 日
190	平安宮跡・聚楽 遺跡	京都市上京区竹屋町 通千本東入主税町 1143、1144	京都市文化市民局	黒須亜希子	平成 30 年 12 月 19 日
191	中臣遺跡	京都市山科区栗柄町 打越町 28 - 2、29 - 1 の一部・2 の一 部	京都市文化市民局	新田和央	平成 31 年 1 月 17 日
192	鳥羽離宮跡・竹 田城跡	京都市伏見区竹田中 内畠町 22、23、25	京都市文化市民局	新田和央	平成 31 年 1 月 18 日
193	今里遺跡	八幡市下奈良隅田地 内	八幡市教育委員会	備前知世	平成 31 年 1 月 28 日～ 平成 31 年 2 月 28 日
194	西山遺跡	城陽市久世下大谷 10 番 1 ほか	城陽市教育委員会	浅井猛宏	平成 31 年 2 月 14 日
195	倉谷遺跡	舞鶴市字倉谷小字カ ジヤ前 997 番 1 ほか	舞鶴市	松崎健太	平成 31 年 2 月 12 日
196	山科本願寺南殿跡	京都市山科区音羽伊 勢宿町 32 番 11	京都市文化市民局	馬瀬智光・廣 富亮太	平成 31 年 1 月 7 日～ 平成 31 年 1 月 18 日

京都府埋蔵文化財調査報告書（令和元（平成 31）年度）

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
197	上京遺跡・相国寺旧境内	京都市上京区室町通寺之内上る二丁目下柳原北半町 207	京都市文化市民局	黒須亜希子	平成 31 年 2 月 8 日
198	平安宮跡・聚楽遺跡	京都市上京区千本通下立売下る小山町 908 - 26 - 80 - 81	京都市文化市民局	黒須亜希子	平成 31 年 2 月 7 日
199	白河街区跡	京都市左京区岡崎天王町 26 番 5	京都市文化市民局	熊井亮介	平成 31 年 1 月 9 日～平成 31 年 1 月 10 日
200	平安京跡	京都市下京区五条通寺町西入御影堂前町 834 - 1、河原町通五条上る安土町 612	京都市文化市民局	奥井智子	平成 31 年 2 月 25 日
201	平安京跡・烏丸御池遺跡	京都市中京区高倉三条下る丸屋町 160 番地	京都市文化市民局	清水早織	平成 31 年 1 月 21 日
202	長岡京跡	京都市伏見区納所星柳ほか	京都市文化市民局	清水早織	平成 31 年 1 月 22 日～平成 31 年 1 月 24 日
203	佐山環濠集落	久御山町佐山反置 69 番 2 - 6 - 33	久御山町教育委員会	片田亮	平成 31 年 1 月 31 日
204	上津遺跡	木津川市木津宮ノ裏 285 番	木津川市教育委員会	大坪州一郎	平成 31 年 2 月 18 日～平成 31 年 2 月 22 日
205	北野庵寺・北野遺跡	京都市上京区下白梅町 60	京都市文化市民局	鈴木久史	平成 31 年 2 月 1 日
206	平安京跡・御土居跡	京都市下京区朱雀分木町 85 番地ほか	京都市文化市民局	鈴木久史	平成 31 年 1 月 29 日～平成 31 年 2 月 5 日
207	草池遺跡	福地山市字堀小字草池	福知山市教育委員会	鷺田紀子	平成 31 年 2 月 14 日～平成 31 年 3 月 31 日
208	和久市遺跡	福地山市字和久市町 67、68	福知山市教育委員会	山田喜大・鷺田紀子	平成 31 年 2 月 18 日～平成 31 年 3 月 8 日
209	御土居跡	京都市中京区河原町通三条下る三丁目奈良屋町 301 番 1 ほか	京都市文化市民局	鈴木久史	平成 31 年 2 月 26 日
210	平安京跡・土御門大路跡	京都市北区大将軍東叡司町 109 - 1、110	京都市文化市民局	黒須亜希子	平成 31 年 2 月 28 日
211	平安京跡・二条城北遺跡	京都市上京区堀川通丸太町上る上堀川町 121 番地ほか	京都市文化市民局	熊井亮介	平成 30 年 9 月 12 日
212	平安京跡	京都市南区八条町 471 - 5 ほか	京都市文化市民局	熊井亮介	平成 30 年 10 月 29 日～平成 30 年 10 月 30 日
213	中臣遺跡	京都市山科区西野山中臣町 71 - 29	京都市文化市民局	黒須亜希子	平成 30 年 6 月 18 日～平成 30 年 6 月 25 日
214	中臣遺跡	京都市山科区栗栖野打越町 33 - 1	京都市文化市民局	黒須亜希子	平成 30 年 4 月 9 日～平成 30 年 4 月 18 日
215	平安宮跡	京都市上京区下立売通七本松東入長門町 426、428、430 - 1、432 - 1	京都市文化市民局	馬瀬智光	平成 31 年 3 月 7 日

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
216	太秦馬塚町遺跡	京都市右京区太秦中筋町 11 番、12 番 21	京都市文化市民局	奥井智子	平成 31 年 3 月 4 日～平成 31 年 3 月 5 日
217	植物園北遺跡	京都市北区上賀茂池端町 22 番、28 番の各一部	京都市文化市民局	熊井亮介	平成 30 年 12 月 6 日
218	山科本願寺南殿跡	京都市山科区音羽伊勢宿町 32 番 30、82 番	京都市文化市民局	熊井亮介	平成 31 年 1 月 11 日
219	平安京跡・烏丸御池遺跡	京都市中京区新町通姉小路下る町頭町 99	京都市文化市民局	赤松佳奈	平成 31 年 1 月 21 日～平成 31 年 1 月 31 日
220	平安京跡・西ノ京遺跡	京都市中京区西ノ京下合町 19 ほか	京都市文化市民局	新田和央	平成 31 年 2 月 14 日～平成 31 年 2 月 15 日
221	上京遺跡・寺ノ内旧域	京都市上京区小川通寺之内下る射場町 552、554、556、558-1・3	京都市文化市民局	鈴木久史	平成 31 年 3 月 1 日
222	白河南殿跡	京都市左京区聖護院通薬草町 8-4 ほか	京都市文化市民局	鈴木久史	平成 31 年 2 月 27 日
223	白河南殿跡・白河街区跡	京都市左京区聖護院通蓮華藏町 8-1 の一部ほか	京都市文化市民局	鈴木久史	平成 31 年 2 月 27 日
224	平安京跡・妙満寺の構え跡	京都市下京区四条通堀川西入唐津屋町 523 ほか 3 筆	京都市文化市民局	黒須亜希子	平成 31 年 3 月 12 日
225	御土居跡	京都市中京区塩屋町 321	京都市文化市民局	奥井智子	平成 31 年 3 月 6 日
226	平安京跡・東市願寺前古墓群	京都市下京区木津川市木津屋橋通新町西入東塙小路町 592 番、592 番 1、601 番、726 番 1	京都市文化市民局	奥井智子	平成 31 年 3 月 8 日
227	平安京跡・西市跡・衣田町遺跡	京都市下京区西七条北衣田町 41	京都市文化市民局	黒須亜希子	平成 31 年 3 月 13 日
228	長岡京跡	京都市伏見区納所葉師堂 27-306 の一部	京都市文化市民局	黒須亜希子	平成 31 年 3 月 15 日
229	山崎津跡	大山崎町字大山崎小字立嶋、柳島地内	大山崎町教育委員会	角早季子	平成 31 年 3 月 18 日～平成 31 年 3 月 20 日
230	平安京跡	京都市上京区堀川通下長者町上る奈良物町	京都府教育委員会	中居和志・岡田健吾	平成 30 年 1 月 10 日
231	法成寺跡・寺町旧城	京都市下京区寺町通荒神口下る松陰町	京都府教育委員会	古川匠・中居和志・岡田健吾	平成 30 年 2 月 7 日～平成 30 年 2 月 9 日
232	矢田遺跡	龜岡市下矢田町君塚	京都府教育委員会	中居和志・岡田健吾・北山大熙	平成 30 年 4 月 11 日～平成 30 年 4 月 12 日
233	満願寺跡	舞鶴市万願寺地内	京都府教育委員会	中居和志・岡田健吾	平成 30 年 6 月 12 日

京都府埋蔵文化財調査報告書（令和元（平成 31）年度）

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
234	光明寺境内	綾部市睦寄町有安	京都府教育委員会	中居和志・岡田健吾	平成 30 年 7 月 2 日
235	余部遺跡	亀岡市余部町久下佐伯	京都府教育委員会	中居和志・北山大熙・川崎雄一郎	平成 30 年 11 月 1 日～平成 31 年 2 月 13 日

図 版

図版第1 恭仁宮跡第100次



(1) I R 09 I-s 調査区全景（北から）



(2) S A 19001・0902 検出状況（南西から）

図版第2 恭仁宮跡第100次



(1) IR 09 I-s 調査区南壁土層断面（北から）

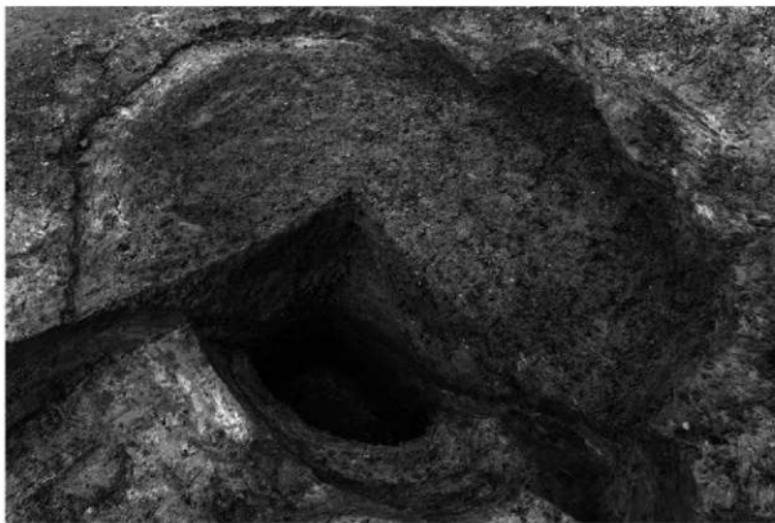


(2) IR 09 I-s 調査区東壁土層断面（南西から）

図版第3 恭仁宮跡第100次



(1) S D 19105 土層断面 (南西から)



(2) S P 19101 土層断面 (南西から)

図版第4 恭仁宮跡第100次



(1) IR 01 I-s 調査区全景 (西から)



(2) IR 01 I-s 調査区南壁土層断面 (北から)

図版第5 恭仁宮跡第100次



(1) IR01 I-s 調査区東壁土層断面（南西から）



(2) IR01 I-s 調査区西壁土層断面（東から）

図版第6 恭仁宮跡第100次



(1) IM 18 J-s 調査区全景（北から）

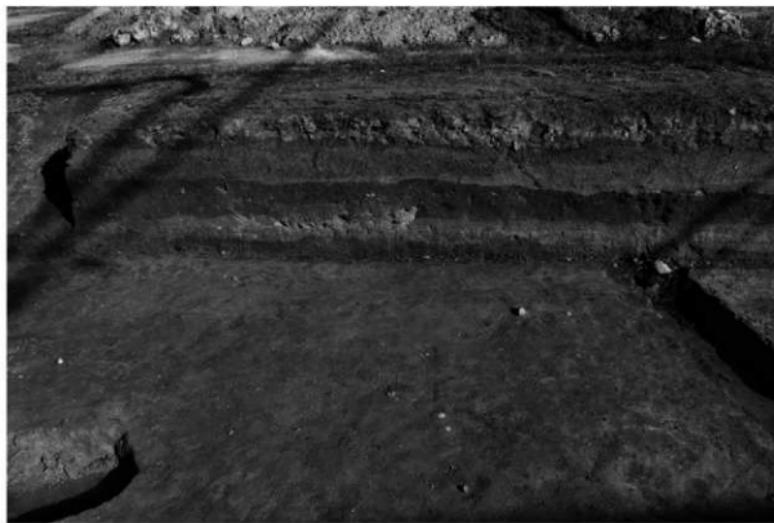


(2) IM 18 J-s 調査区東壁土層断面（西から）

図版第7 恭仁宮跡第100次



(1) IM 18 Q-s 調査区全景（北から）



(2) IM 18 Q-s 調査区東壁土層断面（西から）

図版第8 府営農業農村整備事業関係遺跡（川北遺跡第3次）



(1) 調査地遠景(西から)



(2) 第1トレンチ全景
(東から)



(3) 第2トレンチ全景
(東から)

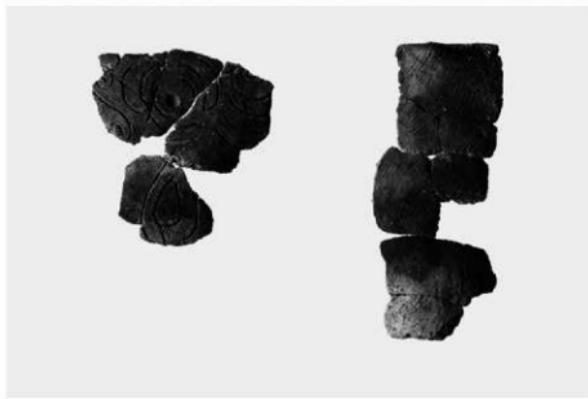
図版第9 府内遺跡（佐伯遺跡第11次）



(1) 調査区1全貌（南東から）



(2) 調査区6遺物検出状況（北東から）



(3) 調査区6出土遺物

図版第10 府内遺跡（矢田遺跡第3次）



(1) 第1トレンチ全景
(南から)



(2) S P 21 遺物検出状況
(北東から)



(3) S P 21 出土遺物

報告書抄録

著者名	京都市府埋蔵文化財調査報告書（令和元（平成31）年度）							
著者名								
著者名								
著者名	奈良康正・吉川 匠・中居和志・岡田健吾・北山大熙・川崎基一郎							
編集機関	京都市教育委員会							
所在地	〒602-8570 京都市上京区下立先通新町西入戸ノ内町 075-414-5903							
発行年月日	西暦 2020年3月31日							
所取遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
慈仁宮跡	木津川市加茂町例幣	26214	173	34度45分45秒	135度51分55秒	20190901-1220	227	保存活用
川北遺跡	福知山市川北	26201	316	35度18分40秒	135度9分24秒	20191202-1206	32	農業開発（府営農業農村整備事業に伴う事前調査）
余部遺跡	龜岡市余部町寒又	26206	62	35度01分06秒	135度33分35秒	20190527-0831	1306	農業開発（国営農業農村整備事業に伴う事前調査）
法貴峰古墳群	龜岡市曾我部町中	26206	52	34度59分05秒	135度32分22秒	20191001-1220	9	農業開発（国営農業農村整備事業に伴う事前調査）
佐伯遺跡	龜岡市钟出町佐伯	26206	44	35度00分55秒	135度31分45秒	20180515-0517-20180524-20181016-1024	160	水路
矢田遺跡	龜岡市下矢田町	26206	166	35度00分09秒	135度34分40秒	20190218-20190311-0314	113	府道拡幅
乾谷大崩遺跡	精華町大字乾谷	26366	20	34度43分44秒	135度46分07秒	20190408	16	国道拡幅
中海道遺跡	向日市御食家町 御所湯道	26208	3	34度57分53秒	135度41分43秒	20190610	30	府道拡幅
出雲遺跡	龜岡市千歳町千歳庄	26206	112	35度03分11秒	135度34分45秒	20191030-1105	28	仮設道路
白石浜遺跡	舞鶴市瀬崎	26202	259	35度32分39秒	135度20分36秒	20191203	12	国道拡幅
所取遺跡名	種類	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
慈仁宮跡	宮殿	奈良時代中葉	柱穴	土師器、須恵器、瓦			朝堂院以西の北西隅を確認	
川北遺跡	散布地	中世	溝	土師器、磁器			中世の溝を確認	
余部遺跡	集落	弥生～中世	溝、土坑	弥生土器、土師器、須恵器、木製品			弥生～古墳時代の溝を確認	
法貴峰古墳群	集落	古墳	古墳	土師器、瓦器			—	
佐伯遺跡	集落	縄文	溝、土坑	縄文土器			縄文時代中期の土器が出土した	
矢田遺跡	集落	古代～中世	柱穴	土師器、須恵器、瓦器			古代の柱列を確認	
乾谷大崩遺跡	集落	—	—	—			—	
中海道遺跡	散布地	—	自然流路	—			—	
出雲遺跡	集落	—	—	—			—	
白石浜遺跡	製塩	—	—	—			—	
要約	・慈仁宮跡では、朝堂院以西の北西隅を検出した。朝堂院以西の規模を明らかにした。							
	・川北遺跡では、複数の溝を検出し、中世の遺物が出土した。							
	・余部遺跡では、弥生～古代にかけての溝及び土坑を検出した。							
	・法貴峰古墳群では、埴丘墓を確認し、円墳であることが判明した。							
	・佐伯遺跡では、縄文時代中期の土器が出土した。							
	・矢田遺跡では、古代と中世の柱列を検出し、中世の遺物が出土した。							

報告書抄録（英文）

Title	Kyoto Pref. Cultural Properties Report (Reiwa 1 (Heisei31))					
Writer	Yasumasa Nara, Takumi Furukawa, Kazushi Nakai, Kengo Okada, Daiki Kitayama,Yuichiro Kawasaki					
Copyright	Kyoto Prefectural Board of Education 〒 602-8570 Yabunouchicho Shinmachi-nishiiru Shimodachiuri-tori Kamigyo-ward Kyoto-city Japan					
The date of issue	31.Mar.2020					
Site	Location	North latitude	East latitude	Excavated term	Excavated area(m ²)	Origin of excavation
Kuni Palace site	Reihei Kamo-town Kizugawa-city Kyoto-pref	34° 45' 45"	135° 51' 55"	20190901-1230	227	Investigation for preservation and application
Kawakita site	Kawakita Fukuyama-city Kyoto-pref	35° 18' 40"	135° 09' 24"	20191202-1206	32	Pref-managed improvement in agricultural infrastructure for raising an agriculture manager
Amarube site	Saimota Amarube-town Kameoka-city Kyoto-pref	35° 01' 06"	135° 33' 35"	20190527-0831	1306	The government-managed Kameoka agricultural land reorganization consolidation project
Hokitoge Kofun group	Naka Sogabe-town Kameoka-city Kyoto-pref	34° 59' 05"	135° 32' 22"	20191001-1230	9	
Saeki site	Saeki Hiedano-town Kyotango-city Kyoto-pref	35° 00' 55"	135° 31' 45"	20180615-0517- 20180624- 20181016-1024	160	Irrigation channel construction
Yata site	Shimoyata-town Kameoka-city Kyoto-pref	35° 00' 09"	135° 34' 40"	20190218- 20190311-0314	113	Road construction
Inuidaniokuzure site	Oaza Inuidani Seika-town Kyoto-pref	34° 43' 44"	135° 46' 07"	20190408	16	Road construction
Nakakaido site	Goshokaido Morozume-town Muko-city Kyoto-pref	34° 57' 53"	135° 41' 43"	20190610	30	Road construction
Izumo site	Chitose Tsuji Chitose-town Kameoka-city Kyoto-pref	35° 03' 11"	135° 34' 45"	20191030-1105	28	Road construction
Shiraishihama site	Sezaki Maizuru-city Kyoto-pref	35° 32' 39"	135° 20' 36"	20191203	12	Road construction
Site	Sort (class)	Period	Features	Artificial description		
Kuni Palace site	palace	nara	posthole type wall	haji ware,sue ware,roof tile		
Kawakita site	the distribution area of relics	medival times	posthole,ditch	haji ware,ceramic		
Amarube site	dwelling cluster	yayoi-medival times	ditch,hole	yayoi ware,haji ware,sue ware,wood tool		
Hokitoge Kofun group	kofun	kofun	edge of tumulus	sue ware,haji ware		
Saeki site	dwelling cluster	jomon	ditch,hole	jomon ware		
Yata site	dwelling cluster	nara-medival times	posthole	haji ware,sue ware,gaki ware		
Inuidaniokuzure site	the distribution area of relics	-	-	-		
Nakakaido site	dwelling cluster	-	nature river	-		
Izumo site	dwelling cluster	-	-	-		
Shiraishihama site	salt production	-	-	-		

KYOTO PREF. CULTURAL PROPERTIES REPORT

COPYRIGHT ©Kyoto Prefectural Board of Education, 2020

Kyoto Prefectural Board of Education

Shinmachi Shimodachiuri Kamigyo-ward Kyoto 602-8570, Japan

edited by Cultural Properties Division Department of Guidance

Kyoto Prefectural Department of Education

Published by Kyoto Prefectural Board of Education

No Parts of this publication may be reproduced or by any means Without prior

permission of copyright owner

京都府埋蔵文化財調査報告書

(令和元（平成 31）年度)

発行 令和2年3月31日

編集 京都府教育庁指導部

文化財保護課

発行 京都府教育委員会

〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入戸ノ内町

印刷 株式会社図書印刷同朋舎

〒600-8805 京都府京都市下京区中堂寺鍵田町2

**KYOTO PREF.
CULTURAL PROPERTIES REPORT**

**KYOTO PREFECTURAL BOARD OF EDUCATION
JAPAN**